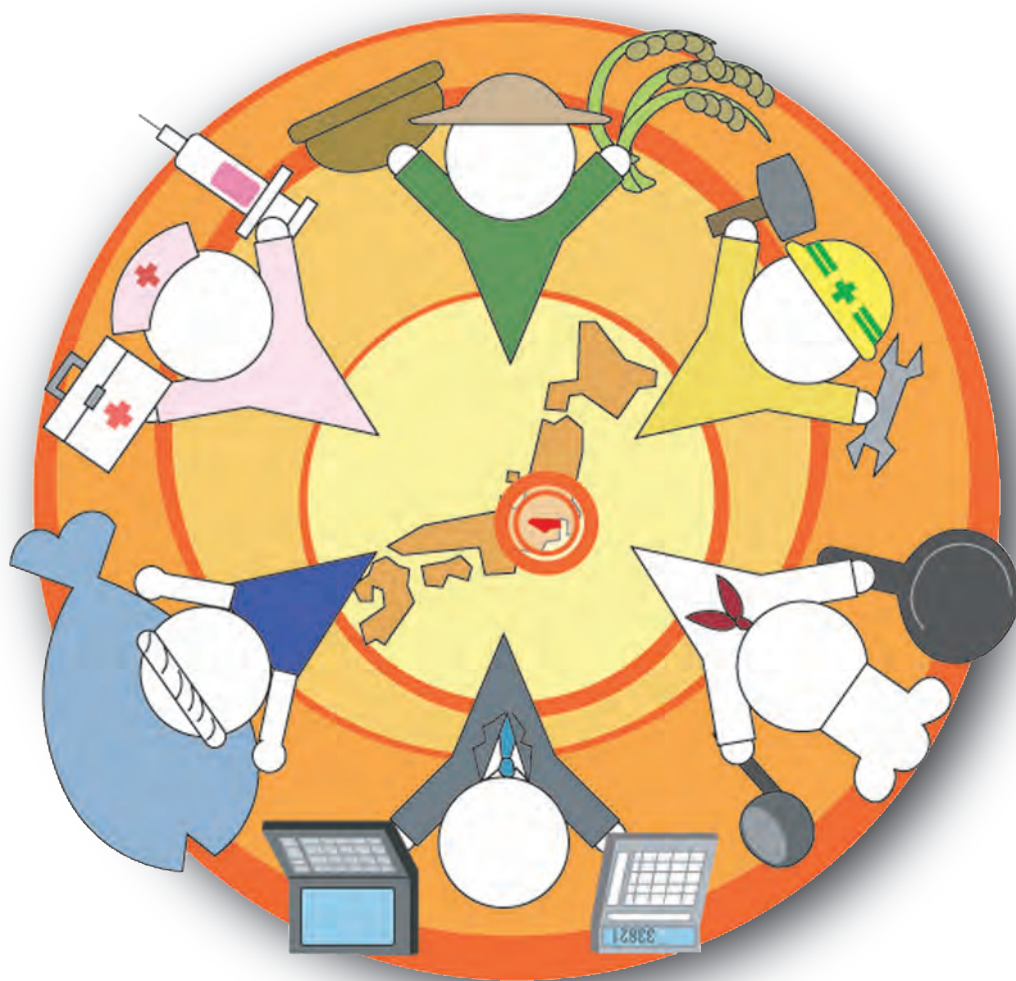


# 東京の産業教育

特集 新しい時代の産業を担う人材育成  
—各校・各学科の取組—



令和元年度 第57号  
東京都産業教育振興会

# 東京の産業教育 第57号 目次

巻頭のことば 「将来を担う若者に生きる力を」

公益社団法人経済同友会 教育革新PT委員長 小林 いずみ・・・1

## 特集 新しい時代の産業を担う人材育成—各校・各学科の取組—

- 1 特色ある産業教育を目指して—「ビジネスを実地に学ぶ商業教育への改革」について—  
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 佐竹 晶 博・・・2
- 2 「スマート農業×STEAM学習」  
東京都立園芸高等学校長 並川 直 人・・・4
- 3 デュアルシステム科における即戦力となる人材の育成  
東京都立多摩工業高等学校長 鈿 持 利 治・・・6
- 4 「英語教育」×「ビジネス教育」—【千早高校】の特徴的な取り組み—  
東京都立千早高等学校長 須永 修 爾・・・8
- 5 新しい時代の産業を担う人材育成—都立三宅高校の取組—  
東京都立三宅高等学校長 森 田 正 男・・・10
- 6 「青梅総合」の特色化を打ち出した取組—新しい時代に向けた産業を担う人材育成—  
東京都立青梅総合高等学校副校長 渡 邊 幸 盛・・・12
- 7 新しい時代の産業を担う人材育成  
昭和鉄道高等学校教頭 桑 田 達 也・・・14
- 8 渋沢栄一・安藤百福ら先人の魂に目を向ける  
京華商業高等学校広報主任 小 口 浩 史・・・16
- 9 中学校技術・家庭科 家庭分野の取組—持続可能な社会をめざし、主体的に消費生活を工夫し、創造する生徒の育成—  
足立区立東島根中学校長 宮 下 みどり・・・18
- 10 Road to Global Citizens — Think Globally, Act Locally —  
東京都立立川国際中等教育学校長 幸 田 諭 昭・・・20
- 11 中高一貫6年間で育てるイノベティブなグローバル人材  
東京都立南多摩中等教育学校長 永 森 比人美・・・22
- 12 教育の質の保証・向上への積極的な取組み  
日本電子専門学校長 船 山 世 界・・・24
- 13 新しい時代を担う高等専修学校としての人材育成  
国際理容美容専門学校副校長 佐 谷 肇・・・26
- 14 産業技術高専における航空技術者育成について  
東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス教務主事 三 林 洋 介・・・28

## 東京の産業界

- 1 イノベーションとともに  
三和電気工業株式会社代表取締役会長 石 井 卓 爾・・・30
- 2 ～すべては地域のために～  
あきる野商工会会長 松 村 博 文・・・32

## 情報スクエア

- 1 令和元年度「教員海外産業教育事情研修」報告ーフィンランド職業教育制度の  
視察・研究ー  
東京都立六郷工科高等学校長 佐々木 哲・・・34
- 2 平成30年度「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰を受賞して  
東京都立芝商業高等学校長 林 修・・・36
- 3 第17回創造ものづくりフェア in TOKYO  
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 台東区立駒形中学校長 瀬川 眞也・・・38
- 4 第29回全国産業教育フェア新潟大会 さんフェア新潟2019 事務局・・・40
- 5 第61回全国産業教育振興大会（新潟大会） 事務局・・・41

## 報 告

- 1 令和元年度 総会・講演会報告 ..... 43
- 2 令和元年度 講演会・講演要旨  
Society5.0時代の「未来の教室」  
経済産業省 サービス政策課長（併）教育産業室長 浅野 大介氏・・・44
- 3 令和元年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰 ..... 62
- 4 令和元年度 東京都産業教育振興会後援事業 ..... 63
- 5 令和元年度 産学懇談会（第1回） ..... 64
- 6 令和元年度 産学懇談会（第2回） ..... 66
- 7 令和元年度 産学懇談会（第3回） ..... 68
- 8 令和元年度 第30回東京都産業教育振興会作文コンクール  
(1) 入選者一覧 ..... 70  
(2) 最優秀作文 ..... 72  
(3) 応募校一覧 ..... 76  
(4) 応募数の推移・分野別応募数等 ..... 77

## 本会の概要

- 1 令和元年度 事業経過報告（令和2年2月20日現在） ..... 80
- 2 平成30年度 決算 ..... 82
- 3 令和元年度 予算 ..... 83
- 4 令和元年度 役員 ..... 84
- 5 令和元年度 各委員会委員 ..... 85
- 6 本会会則 ..... 86
- 7 令和元年度 会員名簿 ..... 88
- 8 入会案内・編集後記 ..... 114

広告目次 ..... 115

## 巻頭のことば

### 「将来を担う若者に生きる力を」

公益社団法人経済同友会

教育革新 PT 委員長 小 林 い ず み



実社会で産業の変革を目の当たりにし、情報へのアクセスの劇的な変化の中であって「10年後の産業界」を想定するのはほぼ不可能に近いと実感しています。これは産業界だけではなく社会や人々の暮らしも同様です。今学校で勉強している子供達はそういう世界で生きていくことになります。そこでは残念ながら我々が積み上げてきた経験や技能がどこまで役に立つのかわかりません。今、教育において私たちが意識しなければならないことは、「どんな社会や時代にあっても人としてしっかり生きていく力をつける」という本来の教育の目的だと考えます。

今の子供達にとって最も大きな課題は何か。それは「人間としての価値」の創造です。AIが様々な分野で活用されることによって、これまで人間が担ってきた多くのことに人の力が必要なくなります。また、ネットによって真偽入り混じった様々な情報が飛び交う時代は既に到来しています。その中で「真実とは何か」を自分の力で見極め、答えを見つけていくことは容易ではありません。生活や社会の価値観が抜本的に変革していく中で、答えを教えることが彼らが生きていく力になるとは思えません。

実際、既存の企業にとって新しい事業を興すことの困難の一つは「提案された事業の将来価値を判断する力の弱さ」です。既に特定の分野で成功し成長してきた企業にとって、その殻を破って新たな事業分野を開拓していくことは、想像以上に至難の技です。社会全体が抜本的な変革を受け入れ、頭を切り替えて全く経験したことのない世界に踏み込む決心をしなければなりません。

そのような時代に産業教育の果たす役割は何か。一言で産業教育と言っても分野は広範です。しかし共通して言えることは「本質を見抜く基礎力」と「なぜ勉強するのかという動機付け」だと考えます。基礎がなければ新しいものを生み出すことはできません。一方新しいものを生み出すには、「どんな問題を解決したいのか」という問題意識からビジネスモデルと必要な技術の探求をするアプローチがあります。この二つが融合されることで社会に必要とされる産業やサービスを作り上げることができます。

スタンフォード大学では全ての学生がプログラミングを履修しなければならないそうです。しかしその目的は日本でのプログラミング教育の目的とは異なっています。AI時代には人々の生活はアルゴリズムによって大きく左右されます。目の前のプログラムに誤りや意図した悪意が仕込まれていないかを自分で確認する力を養う、というのが目的なのだそうです。このようにデジタル技術の開発で世界をリードしている教育機関では、既に人がAIにどう対峙していくのかを意識した教育に舵を切っています。企業は株主・顧客・社会から「企業とは何か」「社会の中でどの様に役割を果たしていくのか」を強く問われる時代になりました。経営者は若い社員から将来の社会の姿を学ばなければならないと思っています。産業教育の場では是非、新しい時代を担う若い世代の自由な発想を活かす教育を目指していただきたいと思います。

## 特 集 新しい時代の産業を担う人材育成—各校・各学科の取組—



### 特色ある産業教育を目指して

—「ビジネスを実地に学ぶ商業教育への改革」について—

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 佐竹 晶博

#### 1 はじめに

東京都教育委員会は、時代や社会の変化に伴って多様化する教育ニーズに適切に応える学校を目指し、都立高校改革を進めてきた。これまでの都立高校改革の取組により、多様なニーズに対応した特色ある学校づくりが進み、都立高校は、個々の生徒が、興味・関心、進路希望等に応じて自らの学びを選択し、自らが思い描く将来に向けて歩み続けるための学びの場としての役割を果たしている。

都立の専門高校においては、産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、求められる技術・技能が高度化・多様化してきており、これらに対応できる人材の育成が求められている。

その一方で、入学者選抜における専門高校の応募倍率は、普通科高校と比較して低迷しており、積極的に専門高校を志望する生徒の割合が少ない状況となっている。

このような状況を踏まえ、社会の変化と期待に応える人材の育成を推進し、生徒の能力の伸長と進路実現を図るため、教育内容等を改善し、魅力ある専門高校づくりを進めていく必要がある。

東京都教育委員会は、平成 31 年 2 月に都民の期待・信頼に応え、魅力ある都立高校であり続けることを目的として、「都立高校改革推進計画・新実施計画（第二次）」（実施期間：令和元年度から令和 3 年度まで）を策定し、専門高校における教育内容の改善・充実等を進めている。

今回は都立高校における商業高校等の特色ある教育実践や取組を紹介する。

#### 2 学習指導要領の改訂について

平成 30 年 3 月 30 日に告示された高等学校学習指導要領は、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図ることを目指している。

商業については、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目標とし、以下のことが求められている。

- (1) 商業の各分野についての体系的・系統的な理解と関連するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

#### 3 「ビジネスを実地に学ぶ商業教育への改革」について

東京都教育委員会では、商業教育の一層の充実を図るため、平成 28 年 4 月に商業教育検討委員会を設置し、「ビジネスを考え、動かし、変えて

いくことができる生徒」、「高校での学習・生活全般を通してビジネスに必要な様々な力を身に付けた生徒」を育成できるようにする取組を推進することとした。

その取組として、平成 30 年度の新入生から、全ての全日制都立商業高校商業科をビジネス科に改編した。そして、ビジネス基礎の授業において東京の産業やビジネスに関する基礎的な知識と技術を、調査研究活動を通して習得させるとともに、経済社会の一員としてビジネスの諸活動に適切に対応することができる能力と態度を育むために東京独自の補助教材「東京のビジネス」を使用している。

また、今年度から、起業等に関する課題解決学習を通して、マーケティングに関する専門的な知識と技術を習得させ、ビジネスについて創造的に考える能力と態度を育てることをねらいとした学校設定科目「ビジネスアイデア」をビジネス科に設置した。さらに、平成 30 年 7 月に「商業教育コンソーシアム東京」を設置し、学校が企業、地域、地元商店街等でのフィールドワークの実施や外部人材の活用等を支援するなど、学校と企業との橋渡しの役割を行っている。東京都教育委員会は、「商業教育コンソーシアム東京」を重要な施策としての一つと位置付け、今後も、多くの登録企業や大学等と学校との連携を進めることを通して、商業高校生に商品の開発やビジネスの現場で行われる調査・研究の方法を学ぶなどして、ビジネスを実地に学ぶ機会を拡充していく方針である。

「商業教育コンソーシアム東京」の設置は、新学習指導要領の地域人材の協力を得て、その実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の趣旨に合致しているとともに、産業界が求める人材を社会に送り出す専門学科として、絶えず時代のニーズを捉え、より実践的な商業教育を展開するため、極めて先進的な取組である。

今後も引き続き、企業等との連携について、「商業教育コンソーシアム東京」の公式ツイッターにて情報発信し、企業等の協力内容、商業高校生がビジネスを実地に学ぶことの大切さや商業高校の魅力を広く都民に発信している。

#### 4 おわりに

東京都教育委員会は、新実施計画を着実に推進し、よりよい都立高校の実現に向けた改革を進め、商業高校においては、経済社会を取り巻く環境の変化に適切に対応するとともに、ビジネスの諸活動について主体的に学び、地域産業をはじめ経済社会の発展を担う職業人を育成していく。



「商業教育コンソーシアム」リーフレット  
東京都教育委員会HP掲載



「商業教育コンソーシアム」公式 Twiteer



## 「スマート農業×STEAM学習」

東京都立園芸高等学校長 並川 直人

### 1 はじめに

経済産業省は、有識者会議として「未来の教室」とEdTech研究会を立ち上げ、AIや動画、オンライン会話等のデジタル技術を活用した教育技法であるEdTech（EducationとTechnologyを組合せた造語）を活用し、人の創造性や課題解決力を育み、個別最適化された新しい教育をいかに作り上げるかについて議論した。

その結果、論点を初等中等教育分野に絞り、「学びのSTEAM\*化」、「学びの自立化・個別最適化」、「新しい学習基盤の整備」の3つの柱で構成される、研究会としての第2次提言、「未来の教室ビジョン」としてまとめた。

また、未来を見通しにくい時代を生きる子どもたち一人一人が、未来を創る当事者（チェンジメイカー）に育つための学習環境を構築するために、平成30年度より実証事業に取り組んでいる。

未来を見通しにくい時代に生きる生徒に求められる力は何か。「創造的な課題発見・解決力」、つまり取り組むべき課題を自ら設定し、未来を見据えて有効な解決策を創り出す力である。それは、AIやデータの力を借りて社会や人間を丁寧に観察・分析し、世界中の多様な知を組み合わせ、有効な解決策を生み出す創造的・論理的な思考力と、それを実現する行動力と言われる。

\*STEAM Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics

文理融合を超えた教科横断的探求プログラム

### 2 本校における「未来の教室」実証事業

平成30年度は学校教育、教育産業、企業における人材育成など50を超える実証事業が展開さ

れ、全国の農業系高校6校でも実証事業が行われた。令和元年度は農業の分野では本校1校が実証事業実施校に選ばれ、9月21日よりプログラムが開始された。事業テーマは「農業高校で取り組むスマート農業×STEAM学習プログラム」で、専門高校が地域のSTEAM学習の拠点となるようなSTEAM学習プログラムの開発と実施、STEAMライブラリーへの収載を見据えた実施内容のコンテンツ化を目的としている。

園芸高校を舞台に以下の内容に取り組んだ。

プログラムの導入として、「スマート農業」「STEAM学習」「イノベーション創出」について各分野の専門家から講演をしていただいた。例えば、STEAM学習については、ジャズピアニスト



自作のセンサーに関する学習

で数学研究家の中島さち子氏から、米国ニューヨークとのテレビ会議システムを使って実施した。

スマート農業ソリューションの学習講座として、雑草防除を目的とした「アイガモロボット」、収穫ロボット「inaho」、環境センサー「Paddy Watch」、営農管理ツール「アグリノート」、セン

サーの自作キット「Monaca + Raspberry Pi (ラズベリーパイ)」、レゴマインドストームなどを使用した。

これらはセンサー・ICT 分野とロボティクス分野の具体的な題材を専門家による講義や演習により、課題設定方法や解決策の発案、使われていないテクノロジー及び工夫した点、苦労した点を学び、身近な課題の解決を試行錯誤した。

テクノロジーの実習講座では、センサー、ICT 分野とロボティクス分野の学習を、キットを使用した制作実習を行った。これは、各ソリューションに使用されているテクノロジーの基礎を学ぶことにある。スマート農業の各実習場面で、生徒の目は輝いていた。

最終場面で実施した「アイデアソン」は、学習講座と実習講座で学んだ内容を生かして、自らの課題設定とソリューション案の構築を行った。

本校生徒による活動と並行して、専門家は導入学習及びスマート農業ソリューション学習講座のコンテンツ化のため、スタジオで収録し、MOOC\*\* プラットフォームの gacco\*\*\* に動画を掲載し、反響を収集する。また、制作した動画は STEAM ライブラリーのコンテンツとしていく。

これらのコンテンツが充実してくると、学校種の垣根を越えて協働的に学習したり、農業教育の特性を生かした地域の STEAM 学習センター化が期待できる。

EdTech 研究会で提言された、知識の習得は、一律・一斉・一方向授業から自学自習と学び合いへと重心を移行する必要があるともされた。

\*\*MOOC Massive Open Online Course (MOOC、ムーク) オンライン学習の動画が視聴できる web ツール

\*\*\*gacco MOOC の日本版

### 3 学びの STEAM 化と農業教育

STEAM は今後の社会を生きる上で不可欠になる科学技術の素養や論理的思考力を育成するために、文系理系を融合し「知る」と「創る」を循環させ、新たな知を構築する学びであると言われる。

農業系高校の強みは 70 年にわたり、農業教育の核として実施してきた、「プロジェクト学習」がある。しかし、具体的な課題解決までの学習に十分に結び付いているとは言えない。



ロボティクスに関する実習の様子

プロジェクト学習の質的深化を図るためにもスマート農業を活用した STEAM 学習が農業系高校で展開されることは、「体験・体感」に加え「ワクワク感」が一層増し、プロジェクト学習→プロジェクト研究→プロジェクト活動への流れや、探求活動を行う学校同士・生徒同士のつながりも形成されるようになって考えられる。これまで課題解決にまで至らなかった社会課題の解決に農業系高校生が果たすことで農業系高校の存在意義を一層高めることができると考える。

### 4 まとめ

変化の激しい今日、知識は EdTech を活用してインプットに要する時間を効率化し、探求・プロジェクト型学習 (PBL Project Based Learning) に費やす時間を生み出すことが必要になる。

常に学びをアップデートできる、アクティブ・ラーナーを育成することは、農業教育で一層重視していかななくてはならない。

農業系高校と親和性の強い、PBL と STEAM 学習をリンクさせた教育活動の展開で、農業教育の特性を生かした人材育成に結び付くことが大いに期待できる。





## デュアルシステム科における即戦力となる人材の育成

東京都立多摩工業高等学校長 鋸持 利治

### 1 はじめに

東京都立多摩工業高等学校は、東京都の西多摩地区唯一の工業高校として、昭和38年に開校した。平成30年度より既存の機械科・電気科・環境化学科の3学科に加え、新しい学科としてデュアルシステム科が設置され4学科を有する工業高校となった。

本校は「ものづくり人材として必要な主体性や実行力、規律性等の育成したい資質・能力を教職員と生徒が共有するとともに、地域企業で活躍できるものづくり人材を育成する」ことを教育目標の一つとしている。

### 2 デュアルシステム科設置の経緯

東京都教育委員会は、時代の変化による新たな課題にも対応した、都民の期待に応えられる都立高校の実現に向けて、平成28年2月「都立高校改革推進計画・新実施計画」を策定した。

専門高校は、産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、職業人に求められる技術・技能は高度化・多様化しており、これらに対応できる人材の育成が求められ、また、魅力ある専門高校づくりを進めていく必要がある。そこで、地域企業の求める人材の育成につながり、産業界から評価されている「東京版デュアルシステム」を更に推進していくため、六郷工科高校と同様のデュアルシステム科を多摩工業高校と葛西工業高校に設置することとなった。

### 3 東京版デュアルシステムの基本理念

平成14年9月、第20期東京都産業教育審議会答申「これからの職業教育の在り方～高校におけるデュアルシステムの実現に向けて～」において、

職業教育の現状と課題を踏まえ、産業界と学校とが共同で人材を育成していく体制の整備が必要である、としている。そして、その観点からドイツのデュアルシステムを参考にして、産業界と学校の新しいパートナーシップのあり方を提示し、次の基本理念を示した。

- (1) 産業界と学校のパートナーシップを深め、共同して職業人の育成を図るシステムを構築する。
- (2) 若年期から「企業における職業体験を通して、将来の職業に対する目的意識を醸成し、働くことへの尊さを学び、自らの職業に誇りと使命感をもつことのできる教育を実施する。
- (3) 職業人として必要な基礎的・基本的な技術・技能等の実践を通じた体得を可能にする。

### 4 多摩工業高校デュアルシステム科の考え方

本校のデュアルシステム科は、限られた一つの専門学科の学習だけでなく、既存する学科（機械科・電気科・環境化学科）の専門学科の基礎を学ぶことで幅広い工業の知識を学ぶことができる。

#### (1) 目指す学科の姿

- 1) 企業と連携して、多摩地域のものづくり企業等に貢献できる人材を育成する学科。
- 2) ものづくり企業での就業体験を通して、進路希望の実現を目指す学科。
- 3) ものづくりの技術・技能を高めるため職業資格の取得を目指す学科。

#### (2) 育てたい生徒の姿

- 1) ものづくりに興味関心が高く、日本のものづくりの技術・技能を支えていきたい生徒。
- 2) 学習活動やものづくり企業での就業体験を通して、自己の可能性を広げようとするチャレ

ジ精神旺盛な生徒。

3) 学習活動や資格取得に意欲的に取り組む生徒。

デュアルシステム科は「学校」と「企業」が連携した「ものづくり人材の育成」を目的とし、企業において実習を行う。1 学年については、11 月と 2 月の 2 回、SWP（ショートワーキングプログラム：5 日間の企業実習）を実施する。2 学年では 6 月から 7 月の期間および 11 月から 12 月の期間の年 2 回、3 学年では 6 月から 7 月の期間に 1 回、WP（ワーキングプログラム：1 ケ月間の企業実習）を実施する。この SWP および WP は、生徒にとって、企業で生きた技術に触れることで技能・技術の習得や勤労観を深めることができる。

## 5 地域企業との連携

デュアルシステム科の設置を機会に、地域企業との連携をこれまで以上に深めている。デュアルシステム科以外の 3 学科の 2 年生も、2 月に全員インターンシップ（3 日間）を実施している。常に地域の企業・商工会議所などからインターンシップ、デュアルシステムに関わる内容について意見をいただきながら、企業連携について検討を進めている。

工業人としての基礎・基本となる知識や技術・技能をしっかり身に付けることで、即戦力となる人材の育成を目指している。多くの企業・産業界の皆さまの協力をいただきながら、生徒が希望する進路実現へ繋げることができるよう努力していきたいと考えている。

## 6 デュアルシステム科の教育活動

デュアルシステム科の教育活動とその指導経過について示す。

(1) 協力企業の社長さんによる講演会の実施

協力企業の社長さんを講師に招き、「企業が求める人材」についての講演会を行った。生徒からも多くの質問や意見が出され、予想以上に積極的であった。社長さんからは「意見や質問ができる生徒さんが多く、今後が楽しみ」とのコメントをいただいた。生徒にとって実社会と接する初めて

の場となり、今後もこの講演会形式の授業を企業理解のスタートとして考えていく。

(2) 地域企業の見学の実施

1 学年において 2 班編成で二つの企業を訪問した。しっかりと時間を守って全員が参加することができた。実際の企業を訪問することは生徒に一定の緊張感を持たせ、SWP に参加する意識の向上を促す機会となった。「早く SWP の体験をしたい」など意欲的な感想が多く聞かれた。

(3) 「企業を知ろう JOB FES」の実施

多摩職業能力開発センターの協力のもと、協力企業 67 社に集まっていただき企業説明会を行った。生徒は企業からの話を直接聞くだけでなく、SWP、WP 実習企業を調べることも目的とした。企業からは「高校とこのような形式の企業紹介は初めてのことであり、大変有意義であった」等の好意的な意見が多数あった。今後も引き続き企業紹介の場として発展させ、地域全体の活性化を図っていきたい。生徒は「直接、仕事内容を説明していただき、働くイメージがもてた」などの意見があった。



「企業を知ろう JOB FES2019」

## 7 まとめ・おわりに

多摩工業高校のデュアルシステム科は、来年度完成年度を迎える。3 カ年計画に従って企業実習を進めることで、生徒にとって有意義な企業実習期間となる。そして工業人としての基礎・基本となる知識や技術・技能をしっかり身に付けることで、即戦力となる人材の育成を目指していきたい。多くの企業・産業界の皆さまの協力をいただきながら、生徒が希望する進路実現へ繋げることができるよう努力していきたいと考えている。



## 「英語教育」×「ビジネス教育」

—【千早高校】の特徴的な取り組み—

東京都立千早高等学校長 須永 修爾

### 1 学校沿革

平成9年9月 「都立高校改革推進計画」及び「第一次実施計画」により、東京都立池袋商業高等学校（全日制）と東京都立牛込商業高等学校（全日制）とを発展的に統合し、進学型専門高校を設置することを策定

平成14年4月 豊島地区商業高校開設準備室を設置

平成16年4月 東京都立千早高等学校全日制課程ビジネスコミュニケーション科開校

平成18年4月 文部科学省「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール」(SRLHi) 指定（3年間）

平成27年4月 東京都教育委員会「東京グローバル10」指定（3年間）

平成30年4月 東京都教育委員会「東京グローバル10」指定（3年間）

### 2 教育目標

グローバルに激変する社会環境のなかで、自立することのできる人材の育成を目指して、次の点を目標とする。

- ①学問基礎の習得を図り、生涯にわたって主体的に学び続けるための基礎力を培う。
- ②異文化への理解を育み、国際社会の一員として社会に貢献する精神を養う。
- ③個性と創造力豊かな人間性を育むとともに、異なる考え方を認め、他者を尊敬する心を養う。

### 3 教育課程

英語とビジネス教育を重視した進学型専門高校としてのカリキュラム

＜特徴ある学校設定科目＞

英語科 「ERP(Extensive Reading & Presentation)」：多読と発表

ビジネス科 「コミュニティデザイン」「コミュニティデザイン演習」：ソーシャルビジネス

＜特徴ある授業＞

ビジネス科 3年「課題研究（会計）」

「BATIC」英文簿記の学習

ビジネス科 3年「ビジネス経済応用」（IP教育）「知的財産権」

### 4 海外研修【平成30年度実績】

○海外英語語学研修

バンガー国立大学（イギリス）24名参加

平成30年8月16日（木）～8月29日（水）

○海外ビジネス研修

ベトナム国立国際大学（ベトナム）24名参加

平成30年8月19日（日）～8月25日（土）

### 5 学校行事【平成30年度実績】

○1年次 イングリッシュキャンプ（2泊3日）  
福島県「ブリティッシュ・ヒルズ」

平成31年2月4日（月）～2月8日（金）

前半・後半（3クラスずつ）

○2年次 海外修学旅行（3泊5日）

ベトナム（ホーチミン）英語・ビジネス研修

平成30年10月28日（日）～11月2日（金）

前半・後半（3クラスずつ）

### 6 コンテスト参加【平成30年度実績】

○イングリッシュ・ビジネスプラン・コンテスト

平成30年11月24日（土） 2チーム参加

(1チーム特別賞受賞)

テーマ：「日本に外国人観光客を引き込むための  
のシェアリングビジネスを考える」

○スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH)

全国高校生フォーラム

平成30年12月15日(土)

会場：東京フォーラム(文科省主催)

英語でのポスターセッション及びテーマごとの  
交流会

発表テーマ：

「Vietnam's Development - Their serious  
garbage problem and Japanese system -」

## 7 地域交流【平成30年度実績】

○カメルーンダンスサーによるダンスワークショップ  
本校生徒14名参加

平成30年10月11日(木)

会場：豊島区池袋本町小学校体育館

豊島区文化デザイン課との連携活動

○音楽によるオハイオ州ノーザン大学生との交流  
会 本校生徒30名参加

平成30年11月23日(金・祝) 会場：本校

オハイオ州ノーザン大学生83名

大東文化大学吹奏楽部30名及び

地域交流希望者30名来校

## 8 海外大学連携プログラム

○指定校推薦入学制度

セントアンドリュース大学(イギリス)

バンガー大学(イギリス)

ダブリン大学トリニティカレッジ(アイルランド)

グリーンビル大学(アメリカ)

○通信英語教育プログラム(トリニティカレッジ  
英語コース) 年間10回

○I F U夏季集中講座 連携大学教授等による夏  
季集中講座

○単位認定 グリーンビル大学 → ビジネス基  
礎・情報処理・マーケティング

○語学研修制度 バンガー大学(英国ウェールズ  
でホームステイ)

○グローバルスタディ Gateway 講座 年2回

国内外で活躍する日本人先駆者による英語を  
使った講座

## 9 キャリア教育プログラム

○キャリアセミナー 年3回

○企業見学会 年2回

## 10 学術アドバイザー(大学・大学院教授)による特別授業&セミナー

○英語 上智大学教授

○会計 中央大学法科大学院教授

○ソーシャルビジネス 立教大学教授

### 【千早高校の活動報告紹介】

○ベトナム(ホーチミン) 英語・ビジネス研修

本校で学ぶ英語やコミュニケーション技術を  
外部で活用するために海外で実践研修していま  
す。異文化体験や平和学習を通じて、「グロー  
バルに激変する社会環境の中で自立できる人  
材」となるための活動として毎年実施してい  
ます。私立大学の Nguyen・Tat・Thang(グエ  
ン・タット・タアン) 大学との交流を行って  
います。現地の大学において、お互いの文化活  
動を披露することや黒胡椒からコスメを作る工  
程の紹介など数多くの交流ができました。また、  
その様子を現地メディア「ホーチミンTV」に  
取材されて、本校の生徒が英語でインタビュー  
を受けていました。ビジネス学習の中で現地ベ  
トナムの物価調査のためにスーパーマーケット  
でフルーツなどの売れ行き調査や現地の日本企  
業が販売している亀田製菓の「ICHI」(煎餅)  
など商品比較などをしました。その他にも B  
& S プログラムや企業見学(JETRO・湖池屋・  
TOKYODELL)、異文化体験(アオザイ・料理・  
コーヒー)など、生徒は生きた体験から多くの  
ことを学ぶことができています。





## 新しい時代の産業を担う人材育成 —都立三宅高校の取組—

東京都立三宅高等学校長 森田 正男

### 1 はじめに

本校は創立 71 年を迎え、普通科 1 学級・併合科（農業科・家政科）1 学級の各学年 2 学級、全校生徒数 20 名の学校です。小人数ではありますが、地域に密着した学校として、三宅村との連携を重視しながら教育活動を行っています。



【三宅島全景】

三宅島は噴火を繰り返してきた島として記憶にとどめている方々も多いのではないかと思います。記憶にある大きな噴火としては平成 12 年の雄山の大噴火が思い出されます。この噴火により三宅島は約 4 年半にわたる全島避難の歴史を刻むことになります。この間、三宅高校は、都立秋川高校の校舎を使って教育活動を行いました。

しかし、三宅島は、この危機を乗り越え、現在に至っております。ここまでの島民の方々の苦労は、計り知れないものと感じております。三宅島は東京から約 180 km 離れた伊豆諸島の島であり、地球の息吹を感じられる島として、観光客の方々も年々増えています。現在は、緑も多くなり、火山性ガスの発生も全くありません。この自然環境豊かな島で、三宅高校は、教育目標に「努力」「信頼」「継続」を掲げ、高い理想を持ち、人間性

豊かで平和な未来を開拓していく人材の育成に向け、少人数の特性を生かした生徒一人一人へのきめ細かい指導で教育活動を行っています。「『島の宝』を育てる」をスローガンに教職員一丸となって取り組んでいます。今回、本校の紹介をさせていただき、少しでも三宅高校のことを知っていただけたら幸いです。

### 2 本校の教育について（概要）



【三宅高校全景】

三宅高校では、基礎基本を重視しつつ、個々の生徒の進路希望がかなえられるように、多くの選択科目配置・少人数指導・習熟度別授業展開等を実施しています。農業科・家政科・普通科があり、普通科においても、選択科目の中で農業や家政の科目を取ることで広い視野を持つことができます。

#### <普通科>

普通科は、普通教科を中心に学習し、将来の進学や就職のために必要な資質・能力を身につけることを目指します。

1 学年では、基礎学力を身につけ、2・3 学年からは文系・理系に分かれて学習できるようにしています。したがって、自分の進路希望に合わせた勉強に多くの時間が充てられます。目標を早く見つけ希望進路の実現に意欲的に取り組むことが必要です。

### ＜併合科（農業科・家政科）＞

農業科では、将来自分の進路を実現するための学力を身につけ、郷土である三宅島を愛し理解して地域への発展と貢献できる人材育成を目標としています。農業の専門科目は実験・実習を中心にしています。1学年では植物生育に必要な「農業の基礎・基本」を学び、2・3学年では「野菜」・「草花」・「食品製造」の3分野を学習します。卒業後は農学系の進学や就農など、個々の適性に合わせた幅広い進路を実現することができます。



【農場全景】

家政科では、生活に関する知識や技術を身につけ、それを将来の実生活に生かすことが出来るように学習します。今日、生活を取り巻く社会状況は激しく変化していますが、どんな状況に置かれても自ら考え解決していける力をつけることを目指しています。授業は、食生活・衣生活・保育分野を中心に、調理実習・被服製作実習・子どもたちとの交流など、実習や体験を通して学んでいきます。また課題研究の授業を通して、学んだことをさらに深化させていきます。進路先は幅が広く、家政系の進学にも適しています。



【家政科調理実習作品】

課題研究の授業では、家政科の3年生が個々の研究・製作に打ち込んでいます。今年度の3年生の課題研究の取組を紹介します。

テーマを「絵本製作」にした生徒は、絵本の中で「地球温暖化」について取り上げることにしました。子どもたちに今地球で起きていることについて理解をしてもらえる内容でありながらも、ストーリーを楽しんでもらえるような絵本を作りたいと考えました。テーマを「一人暮らしの人用のレシピブックを考案・作成」にした生徒は、「いずれ島を出て一人暮らしをする三宅高校生のサポートをしたい」という思いから、「高校生の自炊の意欲を向上させる」という目標を掲げ、『簡単・節約・健康・おいしい』の4つを柱にし、週5,000円の予算や、4つの食品群別摂取量の目安など様々な視点から試行錯誤して献立を立てました。

それぞれの生徒が自分で考えたテーマの達成に向け、放課後なども自主的に活動を続け、最後まで頑張りました。

### 3 本校の進路指導について（概要）

本校の進路指導は少人数校の利点を活かして個別指導に重点を置き、個別面接練習・小論文指導・講習等、きめ細かな指導を実施しています。1年次からキャリア教育として外部人材による講話、進路ガイダンス等を実施し、自ら進路目標を定め、目標の達成を目指すよう指導を行っています。様々な生徒の進路希望を確実にかなえます。

### 4 まとめ

本校の生徒は、「島の宝」です。少人数だからできるきめ細かい指導が三宅高校にはあります。生徒一人一人が担う役割・活動は多岐にわたります。村の活動にも積極的に参加しています。一人何役もこなしていかなければなりません。日々、生徒は、将来に向けた夢の実現に向け、それぞれの活動に全力で取組、成長しています。三宅高校の生徒の将来の活躍を願い、生徒を全力でサポートし、社会に貢献できる人材を育成していきます。三宅高校はこれからも生徒とともに邁進します。



## 「青梅総合」の特色化を打ち出した取組

～新しい時代に向けた産業を担う人材育成～

東京都立青梅総合高等学校副校長 渡邊 幸盛

### 1 はじめに

私が赴任した当初、本校は入試倍率が低下している現状であった。そのため、改めて、本校にしかない取組を強く打ち出すことで、新たな魅力を発信し、入試倍率を増加させ、さらには、本校の使命でもある「新しい時代に向けた産業を担う人材育成」を推進していきたいと考えた。様々な取組の結果、入試倍率については、平成31年度入試において、中進対1.30(前年1.18)、推薦募集2.56倍(前年2.36)、一次募集1.29(前年1.12)と一定の成果を出すことができた。そこで、本校が4年間実践した取組を報告したいと思う。

### 2 取組

#### (1) 食農教育改革の推進

東京都教育ビジョン(第4次)には、基本的な方針2に「社会の持続的な発展を牽引する力を伸ばす教育」とあり、我が国の産業を支える専門的な力を伸ばす職業教育の必要性が示されている。総合学科高校において農業科目を履修できる学校は唯一、本校だけである。

自然は思い通りにならないことや動植物の育成を通して命から学ぶ農業教育は正に探究学習であり、今後、農業就業人口の減少と農業従事者の高齢化が進む中、日本の食料の安定供給を確保し、農業の持続的な発展を図るためには、食農分野の人材育成が喫緊の課題である。

しかしながら、本校の農業科目は、楽しい学びに終始しているのが実態であった。そこで、知的好奇心を喚起し、食・農への進路開拓への道を拓けるよう、以下の4つの取組を進めた。

#### 【食農教育改革の具体的な取組】

①食農教育改革全体計画の策定

②農学部系4年制大学のキャンパスツアーの実施

③農業系大学教授による大学講座ゼミ(授業)の実施

④東京農業大学指定校枠の獲得

農業の楽しい学びから食・農への系統的な進路選択へ繋がる食農教育全体計画を策定した。

これを基に、授業の単元ごとの内容がどの分野(園芸・食品・獣医畜産・環境等)へ繋がり、大学での研究やその先の仕事へとライフプランを明確に描けるよう授業改善を行った。そして、農業科主催で農業系大学との高大連携事業を年間行事計画に位置付け、進路ガイダンスや大学オープンキャンパスツアーを企画するとともに、食農系職業人講話や農業系大学講義ゼミを実施し、大学教授の授業による最新の研究内容や大学生の進路先について学ぶ機会をつくった。これにより、農業系大学への進学希望者は着実に増え、昨年度は8名(前年2名)が農学部系4年制大学へ進学した。

食農教育改革全体計画では、今後、学年定数240名の約1割(20名)程度の進学数を目指しており、今後も農業科目の授業と進路との結びつきを強化し、生徒へ食・農へのキャリアプランを描けるよう取組んでいく。

【平成30年度大学進学実績109名(上智1名、GMARCH10名、成成明武5名、日東駒専11名合格)】



大学講座ゼミ「獣医学 口蹄疫の防疫と対策」  
酪農学園大学 獣医学群教授 桐澤力雄先生



農業講演会「農学への招待」  
筑波大学 名誉教授 中村徹先生

## （２）国際理解教育の推進

東京都教育ビジョン（第４次）には、基本的な方針３に「グローバルに活躍する人材を育成する教育」とあり、生きた英語教育の推進や我が国の郷土の伝統・文化への理解、さらには、文化の多様性を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を育てる教育の推進が示されている。

赴任当初、本校の６割は青梅の地元出身者であり、地元志向が強く、立川より遠方に出ていく機会及び意欲に乏しいことに課題を感じた。

これからのグローバル化に対応するため、広い視野で考える思考力やチャレンジ精神を醸成し、内向き志向を打破し、世界に開かれた日本人として育成する必要性を強く感じた。そこで、以下の９つの取組を進めた。

### 【国際理解教育の具体的な取組】

- ①「国際・文化」系列の新設【平成３０年度】
- ②「国際交流リーディング校」認定【平成３０年～令和２年度】
- ③「海外学校間交流事業」指定【令和元年度】
- ④「文科省のグローバル化に対応した外国語教育推進事業」参加校【令和元年度】
- ⑤ TOKYO GROBARL GEATOWAY 事業への学年行事導入
- ⑥ 民間英語検定試験（GTEC）の校内実施導入
- ⑦ 韓国・釜山外国語大学との連携協定締結
- ⑧ グアム海外修学旅行の継続実施
- ⑨ ドイツ・カントギムナジウム校との姉妹交流事業の継続実施

平成３０年度、国際・文化系列を新設し、国際交流リーディング校及び海外学校間交流推進校の申請を行い、強く国際理解教育の推進を打ち出した。

また、ドイツ・カントギムナジウム校との短期国際交流やグアム海外修学旅行を軸にグアム海外修学旅行の事前学習として TOKYO GROBARL GEATOWAY 事業や英語４技能の育成のための民間英語検定試験（GTEC）を、年間指導計画に位置付けて実施した。さらには、国際交流をより広げるため学校内にホームステイ受け入れバンクを新設した。そういった様々な国際理解教育の取組が実を結び、令和元年６月２１日に韓国・釜山外国語大学との連携協定を締結することができた。

本校では、ハングル語・ドイツ語・フランス語・中国語を第二外国語として履修できる取組をしている。ハングル語は特に人気の高い講座となっており、韓国語能力試験（TOPIK）の資格取得も始めた。これにより、平成３０年度卒業生の２名が韓国・釜山外国語大学へ進学を決定した。

今後も日々の教育活動に様々な国際化を持ち込み、生徒の内向き志向を打破し、グローバル人材の育成を推進していきたい。



【韓国・釜山外国語大学との連携協定締結】



【ドイツ留学生によるお琴の体験授業】

## ３ おわりに

今後も食農教育と国際理解教育を推進し、地域（ローカル）と世界（グローバル）を結ぶ「グローバル」な学校づくりを実現させたい。





## 新しい時代の産業を担う人材育成

昭和第一学園高等学校 教頭 桑田 達也

### 1 はじめに

本校は、昭和3年に「鉄道事業に従事しようとする青少年のための教育機関」として創設され、以来一貫して鉄道交通を中心とする産業教育をすすめてきた。全国で唯一校名に鉄道の名を冠し、1学年5クラス鉄道科のみを有する高等学校である。1年次は共通履修とし、2年次より営業を中心とした運輸サービスコースと鉄道技術を中心とした運輸システムコースに分かれる。

運輸サービスコースは、駅業務を始め鉄道に必要な知識を学んでいる。鉄道関連企業やさまざまな業種に羽ばたく力を育成する。

運輸システムコースは、電気系統を学べる工学的なカリキュラムを編成。運転士を目指す者や技術職を目指す者等に必要な知識と技術部門やメカニカルな分野に生きる力を育てる。

創立以来男子校であったが、鉄道業界にも女性の進出が目立つようになり、そうした社会情勢を鑑み、平成16年、男女共学とした。

平成30年、創立90周年を迎え、また、同年1月にはキャリア教育優良学校として文部科学大臣より表彰された。

### 2 新たな教育理念・教育目標の制定

近年、鉄道事業はその内容が元来の「人・物の輸送」から日本ならではの「おもてなし」というサービス面に力を入れ、「安全・安心・正確」という理念はそのままに、顧客満足度を意識したサービス・接客を行っており、また、今後はIoTやAIの普及も予測されることから、その変化に

対応すべく学校改革に着手した。建学の精神である「質実剛健」はそのままに、キャリア教育の充実を目指して新教育理念・新教育目標を制定した。

#### 教育理念

「絶え間なく変化する社会で通用し且つ積極的に貢献する人材の育成する」

#### 教育目標

『『自律』『創造』『共生』の『3つの力』を兼ね備えた人材を育成する』

※「3つの力」については以下のように定義する。

#### 「自律」

##### 1 「規律性」

社会の規律に則り、自らの行動を適切に律することができる。

##### 2 「自己管理能力」

自己の生活に対する管理ができる。

##### 3 「安全管理能力」

自己及び他者の安全を守ることができる。

##### 4 「主体性」

自分の意志・判断に従い、自ら責任をもって行動することができる。

#### 「創造」

##### 1 「創造力」

物事に進んで取り組み、新しい価値を生み出すことができる

##### 2 「課題発見力」

現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる。

##### 3 「課題解決力」

課題解決に向けたプロセスを明らかにする

ことができる。

## 「共生」

### 1 「多様性理解力」

他者を理解し、多様性を尊重することができる。

### 2 「発信・傾聴力」

発信力と傾聴力を持ち、コミュニケーションを円滑にとることができる。

### 3 「協働力」

チームの目的や目標の実現に向け、仲間と心と力を合わせることができる。

## 3 教科としての取り組み

新教育理念・教育目標の制定と共に、カリキュラムの変更にも取り組んだ。以前から設定されていた「鉄道基礎実習」「ホスピタリティーマインド」「旅客営業」等の専門科目はそのままに、令和2年度より新たに2・3年生を対象とした「土曜選択」を設定することとなった。

国家資格取得を目指す「国内旅行業務取扱管理者」・「電気工事士」。資格取得を目指しつつ「思いやりの気持ち」を大切に育む「手話基礎」。近年飛躍的に増加している外国人観光客等訪日外国人に対応できるようになることを目指す「観光英語」・「中国語基礎」。学校内外の身の周りの課題や困りごとを見つけ、グループで問題解決を図り、その過程で「創造力」「課題発見力」「課題解決力」「傾聴力」「協働力」を養う「プロジェクト実践」等々非常に多岐にわたる選択授業が展開される。

## 4 インターンシップとしての取り組み

「インターンシップ」は、JRや各私鉄以外にも様々な業種の企業にご協力頂き、毎年2学年の夏に4日間行っている。鉄道企業でインターンシップを行った生徒は、ホームや改札など実際の現場に駅員として立つことで鉄道への単なる憧れから将来の仕事へと意識変化がみられる。また、鉄道以外の業種で行った生徒は、他業種を経験するこ

とによって自己の進路目標を相対的に見ることができるようになり、強い意志を持って進路の準備に臨むようになる。

「工場見学研修」は、車両の点検・整備を行う鉄道会社の工場や検修区を訪問し、車両機器や装置、細部の構造などを間近で観察できる機会である。実際の作業と自分の知識とを照らし合わせ車両構造の知識や整備業務への理解を深めている。

## 5 進路指導について

本校生徒の9割は鉄道業界への進路を目指している。そのため、生徒にはきめ細かい就職指導が必要になる。2年生が研修旅行に行っている間、1・3年生では通常授業とは別に「進路ウィーク」が展開される。1年生では「職業ガイダンス」や「卒業生講演」が開かれ、様々な業種・職種を知ることにより視野を広げ、進路選択に関して「絶対的選択」から「相対的選択」へと導き、生徒本人の強い意志を育てる。3年生は就職試験が数ヶ月後に迫っていることから、より実践的な就職指導がなされる。他にも夏期休業中には3年生対象に「進路就職セミナー」が開かれ、就職率アップを目指している。

## 6 まとめ

現在、鉄道は高い旅客輸送量を有し、利便性が高いため、首都圏の経済活動に不可欠である。また、鉄道各社は鉄道事業を中心としつつも、鉄道利用者や沿線住民の生活に関する様々な関連事業を展開している。鉄道企業が生活総合産業へと変貌していく中で、そこで働く人間には、関係する人々と協力関係が築ける幅広い視野と豊かな人間性が求められている。本校では専門分野の知識を習得することはもちろんのこと、新しい教育目標・教育理念の下、人間としてバランスのとれた、総合力の高い人材の育成を続けていく。



## 渋沢栄一・安藤百福ら先人の魂に目を向ける

京華商業高等学校 広報主任 小口 浩史

### 1 はじめに

本校は日清戦争と日露戦争の間の1901年、「豊かな実務知識をそなえた経済人の養成」を目的に磯江潤が設立しました。一時期、工業学校に転換させられたこともありましたが、学校法人京華学園は商業高校・男子中高・女子中高を擁する独自のスタイルを貫いています。私はここに、他の私学にはない創立者の想いを感じ取ります。

令和元年に創立118周年を迎え、その時代に適合した教育を推進しています。

私は広報主任ですが、授業は国語を担当しています。25年以上勤務し、国語科としてどのように商業教育をプラスに推進していけるかという面から、この文章を書き進めていきたいと考えます。

### 2 本校のコース編制

1年次は共通カリキュラムで32時間中10時間商業科目を学習します。

2年次からは「大学進学コース」「情報処理コース」「ビジネスコース」の3つのコースのどれかに進みます。生徒たちはそれぞれのコースの特性を活かし、進路実現を目指していきます。

「大学進学コース」は「現代文A」「古典A」「小論文演習」「国語演習Ⅲ」各2単位を履修し、推薦入試対策を強化しています。

他の2コースは、2年次に「国語総合」「国語演習Ⅰ」を、3年次に「現代文A」「国語演習Ⅱ」を履修します。

### 3 読書感想文は嫌われ者!?

私が奉職した当時は「文庫による読書感想文コンクール」に校内コンクールの上位数編を応募し

ていました。夏休みに小説や随筆などを読ませ、感想文を原稿用紙3～5枚に書き、指定の表紙で綴じて2学期の初めに提出させていました。

ただ、正直なところ、特別な事前指導ができるわけでもなく、表現力にもの足りなさがあり、型通りの感想文は生徒たちにとっても我々教員にとっても苦痛なもの、できれば避けて通りたいものとなっています。その証拠に、7月に感想文の予告をすると、「エ〜!」と悲鳴が上がり、誰一人喜ぶ顔を見せる者はいません。「読書感想文校内コンクール」をやめようかと何度となく教科内では話題に上がりました。しかし、不思議なことに、感想文の最後には「〇〇さんの本を読んでためになった。今後はもっと〇〇さんの本を読みたいと思う」と書いて締めくくる生徒の何と多いことか! これでは我々も感想文の課題を廃止するわけにはいきません。もうやめようかと話が出ては、結局ずっと続けて今に至っています。

### 4 「学ぶ」は「まねぶ(まねをする)」か

書くことに苦手意識がある生徒が多いため、あらすじがほとんどで最後の2～3行で「〇〇さんの本はとても面白かった。今後も〇〇さんの本を読んでいきたい。」という取って付けたような文で締めくくられます。“書かされている”という感覚丸出しです。以前は「あとがき」を丸写ししてくる運動部の生徒もいて、それをみんなの前で読み上げられて、本人が顔を赤らめていることもありました。

そして、パソコンでインターネットが誰でも使えるようになり、便利さの反面、手軽に書き写す(不正を働く)ことができるようになりました。

或る年には、同じ内容の感想文が2名の生徒から提出されました。同じサイトを見て、書き写したのです。もちろん、厳しく指導し、書き直させました。感想文のサイトは無数にあり、中には「先生に見つかった時の謝罪文の書き方」までご丁寧に用意しているサイトすらあります。大学の文学部でさえ、卒業論文を必須としなくなったところが多く、非常に嘆かわしい状況です。そこで国語科で試行錯誤を重ねていきました。

## 5 国語科としての対策

あまりにもコピー＆ペースト（コピペ）が多くなり、生徒が閲覧したであろうサイトを探すなど感想文がコピペかコピペでないかを見極める時間が大幅にかかるようになりました。これでは本末転倒です。そこで、国語科としての対策を施しました。第一段階として、「高校生に読んでほしい50冊」（新潮文庫のキャンペーン）の冊子を全員に配布し、授業で取り上げる「羅生門」以外の中から読むよう対象を絞りました。

しかし、それでもコピペは減りませんでした。そこで、第二段階として、小説を原則排し、全国図書館協議会が指定する課題図書（高校生の部の3冊）と新書（岩波ジュニア新書を推奨）に対象図書を限定しました。何年か続けましたが、課題図書もすでに選ばれる以前からコピペできる素材の存在が確認できます。

新書は細かく段落が区切られていて、すぐ話題が転換されていき、正直なところ感想文向きではありません。しかし、本校で実施していた河合塾サテライト講座小論文添削指導担当の方から、「急に小論文の内容がよくなってきたけれど、何か特別な指導をされたのですか。」と言われるほど、論述力が向上してきたという経緯がありました。新書はその時々話題を文化人の目を通して分析していることが多いので、充実化を図れたのです。

そこで、第三段階として、課題図書を除外して、「新書のみ」としました。本当は名作や好きな作家の小説を読ませたいという想いはありますが、このようにせざるを得ませんでした。

そして今年、第四段階として創業者・起業家の本（「私の履歴書」をもとにしたもの）や新紙幣の肖像となる渋沢栄一氏の「論語と算盤」（現代語訳）計7冊を国語科の推薦図書に加えました。ちなみに、商業教育に力を入れていた渋沢氏は本校の卒業式に演説文を寄せてくれています。テレビドラマでもカップヌードルの発明が取り上げられた安藤百福氏、本田技術研究所を創った本田宗一郎氏、ヤマト運輸創業者小倉昌男氏らの生い立ちや考え方を知ることにより、商業とは何か、商業活動とは何か、そして一流企業と言える会社を作った時の想いを商業高校に学ぶ生徒たちにも知っておいてほしいという狙いがあります。商業科の同僚からも助言をもらいました。



## 6 まとめ

まだ現状の方法でも十分とは言えません。来年、第五段階として「創業者の想いを汲み取り、自分の人生にからめて書く」ことを条件に指定し、他人事ではなく、自分の人生に重ねて書くよう事前指導したいと考えています。そして、そのことがマーケティングなどの商学的な学習につながり、生徒たちの主体的な学習・進路選択に結びつくことを願っています。AI（人工知能）技術の進展により変化のスピードがますます加速していく令和の時代に、先人の発想にヒントを見つけ、自ら考え、実践していけるたくましい商業高校生を今後育てていきたいと考えます。

なお、東京都青少年読書感想文コンクールに女子生徒が今までに2度、入選したことを書き添えておきます。



## 中学校技術・家庭科 家庭分野の取組

～持続可能な社会をめざし、主体的に消費生活を工夫し、  
創造する生徒の育成～

足立区立東島根中学校長 宮下 みどり

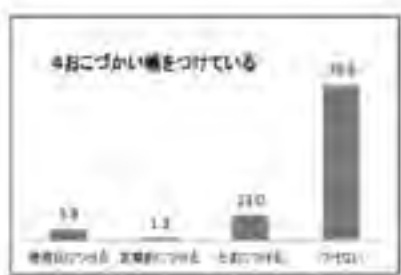
### 1 はじめに

新しい学習指導要領では、小・中・高等学校の系統性を明確にして、これまでの4つの内容を「A 家族・家庭生活」、「B 衣食住の生活」、「C 消費生活・環境」の3つの内容とし、全ての生徒が履修する。生徒が、学習した知識・技能を生活で活用したり、社会の変化に対応したりできるように、生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し解決する学習活動を充実するとともに、家庭や社会と連携を図る。

### 2 「消費生活・環境」の学習

今回の改訂では、社会全体で現金に代えて電子マネーやクレジットカード等が浸透し、キャッシュレス化が進行していることや、民法改正による成年年齢の引き下げにより18歳（高校生は除く）から契約が可能になることなどにより、消費者被害の低年齢化を踏まえて、「計画的な金銭管理」、「消費者被害の回避と適切な対応」の内容が新設されている。

事前の生徒アンケート調査の結果からも、定期的に定額のお小遣いをもらっている生徒もその使い道の計画を立てたり、お金を使った後に「おこづかい帳」を使って記録したりしている生徒は、ごく少数である。



また、現金に代えて電子マネーやプリペイドカードを使った経験がある生徒が多く、特に電子マネーの使用率は67.0%であり、一般化してきていることが明らかになった。さらに、インターネットを活

用して買い物をした経験があると回答した生徒は、半数以上を占め、インターネットショッピングでトラブルを経験した生徒もいることが分かった。

そこで身近な消費生活の問題を見付け、課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題の解決を図ることで、主体的に生活を工夫し創造する力が身に付くと考えた。

### 3 指導事例(全体10時間扱い)

#### (1) 3年間の指導計画の工夫

第3学年の後半の時期に履修させることが望ましいと考えた。これは物資やサービスを適切に「購入する」ことや、自分のことだけでなく家族や家庭全体の収入や支出について考えることは、中学生にとって実感が湧きづらく難しい内容であるからである。そこで「A 家族・家庭生活」や「B 衣食住の生活」において身に付けた知識・技能を「C 消費生活・環境」の学習の中で活用しながら学習することが、現在の自分やこれからの自分の問題として捉えやすくなり、主体的に学ぶ姿勢を育むことができる。また、家計は社会全体の経済の動きと連動するため、社会科(公民的分野)との関連を図る必要があると考えた。

| 10時間の指導計画 |     |                                             |
|-----------|-----|---------------------------------------------|
| 時間        | 題材  | 学習内容                                        |
| 1         | 買い物 | 必要な購入方法と支払方法の理解、生活に必要な物資とサービス、必要な物資とサービスの提供 |
| 2         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 3         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 4         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 5         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 6         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 7         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 8         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 9         | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |
| 10        | 買い物 | 必要な物資とサービスの提供                               |

#### (2) 10時間の指導内容の工夫

全10時間を通して「購入する」をテーマとし、2時間、4時間、4時間のまとまりに分けて、中学生にとって身近な生活に沿った、ストーリー性の

ある内容で構成した。PDCAサイクルによる一連の学習過程を踏まえた展開を重視し、知識・技能の確実な定着と家庭生活での実践活動に結び付けた。また「見方・考え方」を「持続可能な社会の構築」に向けてよりよい消費生活を工夫することができるように考慮し、繰り返し課題解決的な学習に取り組ませることで、限りある家庭の経済やものを有効に使う、将来を見据えて購入する等の「持続可能な社会の構築」の視点から「購入する」という概念が生徒に身についてきた。

### (3) 小題材「買う v s 買わない」

| 学習過程                                            |                                                              | 学習活動                                    |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 1. 1.2時間目では「部活動に必要なものを購入する」という中学生に身近な生活場面を想定した。 |                                                              | 計画を立てて必要なものを購入する。                       |
| P                                               | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
|                                                 | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
| D                                               | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
|                                                 | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
| C                                               | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
|                                                 | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
| A                                               | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |
|                                                 | 生活に関する知識・技能や思考力・判断力・問題解決能力を基に、生活の中での課題を解決し、課題を解決するための方法を考える。 | 課題：生活に必要なものを購入する方法や生活に必要なものを購入する方法を調べる。 |

1・2時間目では「部活動に必要なものを購入する」という中学生に身近な生活場面を想定した。

このような学習過程を繰り返すことで生徒が課題を解決する方法を体得し、課題を解決する力が身に付き、身近な問題を主体的に解決しようとする態度の育成につながった。また、他者と対話する活動を通して、さまざまな気づきを生み出し、自分の考えを深め、生活の中で生きて働く知識や技能が身に付いてきた。さらに第3学年での履修の大きな課題として、授業が隔週で実施される場合があげられる。題材を数時間のまとまりとして、ストーリー性のある内容を準備しても、前時の意欲が継続しないという課題がある。そこで、前時の学習を視覚的に振り返ることができるようなプレゼンシートや学習の流れに沿ったワークシート

を工夫した。プレゼンシートは生徒が自分の考えを付箋紙に記入して添付したり、移動させたりして視覚化することで思考を整理することに役だった。

#### 〈プレゼンシート1〉



模擬家族のそれぞれの立場で家庭に必要な物資やサービスを付箋紙に書いて貼り次時に振り返る。

#### 〈プレゼンシート2〉



家計の器を現す。プレゼンシート1から家庭に必要なものを順番に器から溢れないように貼る。家計も限りがあることに気づき、優先順位をつけ有効に使う必要性がわかる。

## 4 おわりに

生徒の身近な生活とのかかわりを重視し、自己の生活の質の向上とともに、家庭や地域社会における実践に結び付けることができるようにしていくための題材を工夫したり、課題解決に向けて自分の考えを構想したり表現したりする学習活動を設定したりすることを通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現させていく必要がある。



持続可能な社会を目指した生徒の育成を目指し、グローバルな視点も大切にしSDGsも視野に入れた授業改善が求められる。



## *Road to Global Citizens* ～ Think Globally, Act Locally ～

東京都立立川国際中等教育学校長 幸田 諭昭

### 1 はじめに

東京都立立川国際中等教育学校は、平成 20 年 4 月に開校し、今年度 12 年目の 6 年間一貫教育校です。そして、都立中高一貫校の中でも、「国際」の二文字を冠しているのは本校だけです。このことから分かるように、国際教育を推進し、「世界に一番近い学校」をスローガンに掲げています。

校名から国際学科と誤解を受けることが多いですが、普通科の学校です。多くの生徒が難関大学に進学を希望している普通科の学校ですが、日々の学校生活の中に、世界を身近に感じる瞬間があふれている学校です。

### 2 教育目標

国際社会で貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する

平成の 30 年間はグローバル化が大きく進展した時代でした。一例をあげるとインバウンド（訪日外国人）については平成元年の約 230 万人から、去年は 3000 万人を超えました。正に、平成の 30 年間の時代はグローバル化が進み、社会が大きく変化しました。そして、令和 2 年のオリンピック・パラリンピックの年には 4000 万人の受け入れを目指しているとのことです。令和の時代も益々グローバル化は進展します。

こうした中、この教育目標である国際社会に貢献できるリーダーにはどのようなことが必要でしょうか？

本校では、教育目標に「必要な学業を修め」とあるように、一つには学力であると考えます。

大学入試も大きく変わります。論理的思考力・表現力・判断力を評価し、英語を読む・聞く・書く・

話すの 4 つの技能が評価されるようになります。これは、社会に出てから必要とされる力を、学校教育で身に付けているか、論理的に考え、表現できるかを問われるようになったことによります。

将来、国際社会で活躍するためには、知識詰め込み型の教育では不十分ですし、英語は学ぶことそのものが目的ではありません。本校では、英語力の育成を通じて、共に深く考える力、自らの考えを表現して議論する力、判断して行動する力を育てていく場を用意しています。

二つ目は教育目標に「人格を陶冶する」とあるように、様々な経験を通じて心身を鍛え、物事を正しく適切に判断できる人間、世界に誇れる人材を育て上げることが、立国の使命と考えています。

そして、教育目標を達成するために教育理念を 3 つ「立志の精神」「共生への行動」「感動の共有」を掲げています。

### 3 Tachikoku Grand Design

立国の教育目標をより具体化し、教育活動につなげていくため、グランドデザインを制定しました。

*Road to Global Citizens*  
～ Think Globally, Act Locally ～

ユネスコが掲げる「地球市民」の概念には世界の課題を自分事として捉える態度「当事者意識」、問題解決への意欲、そして勝ち負けの論理ではなく共生の論理として「対話的姿勢」があります。これと本校の教育理念を融合させ、以下の 4 つの資質・能力の育成を目指します。

◆ *Resilience*

難しい課題等に粘り強く取り組む姿勢、柔軟な考え方

◆ *Ambition*

目標を設定し、その達成に向けて主体的に取り組む高い志

◆ *Team Working*

仲間を思いやり、集団やチームのために力を尽くす献身性

◆ *International Contribution*

地球的な視野をもち、地域や社会に貢献しようとする態度

## 4 教育課程 教養主義

6年一貫教育の特性を生かした教育課程を編成しています。教育目標にある「必要な学業を修め」にあるように、幅広く高度な教養を身に付けるために、5年生まで理系・文系に分けることなく、すべての生徒が、すべての教科・科目を学びます。

前期課程では生徒の興味関心に応じ、高等学校相当の学習内容を発展的に学習するなど、中高一貫教育の利点を最大限に活用して学力の定着を図っています。また、習熟度別編成授業や取り出し授業、補講や長期休業日中の講習を行い、きめ細かな学習・受験指導を実施しています。

特に英語教育については、4技能バランスの取れた英語力の育成は本校の英語教育の根幹であります。前期課程1, 2年生の段階ではALTの時数を週2時間以上確保し、「聞く」ことから「話す」ことに重点を置いて指導にあたっています。毎年行われる校内の英語発表会では、1年生は有名なスピーチの暗唱や2年生は自作の英語スピーチの発表に全員が取り組みます。また、3年生からは高等学校で学ぶ体系文法を発展的に取り入れ、正確に話し、書くための土台を作る指導を行っています。高等学校段階の4年生以降は文法知識を土台に、場面や状況に応じて英語を書くことに比重を置きます。授業中に書いた英文をその場でALTに添削してもらうなど、実践的なライティング指導を繰り返し行っています。

また、3, 4年希望者対象の短期留学、東京都次世代リーダー育成道場やトビタテ留学JAPAN!を活用した海外留学、4, 5年生全員が受講するオンライン英会話、留学生との交流、5年時の海外研修旅行等、その事前、事後指導も含めて「話す」「書く」のアウトプットの機会を多種多様に設けることで、授業においてもより実践的な英語力の育成をあげています。

## 5 日常から養える国際感覚

国際教育では国際交流セミナー、国際理解講座、



英語発表会（前期）、英語村体験（1年）、英語合宿（2年）、オーストラリアでの海外研修旅行（5年）、留学生との交流、留

学説明会、第二外国語講座（5, 6年）など数多くの国際教育を推進しています。

そして、学校行事においては三大行事である体育祭、紫翠祭（文化祭）、合唱祭があります。特に、体育祭では英語による競技種目等のアナウンス、紫翠祭では3年生による英語劇があります。

また、希望者を対象にイングリッシュサマーセミナーや米国エンパワーメントプログラムなど多様な行事を実施しています。

さらに、本校には各学年160名のうち海外帰国・



在京外国人枠30名が在籍しています。異なる文化で育った生徒たちが、授業は

もちろん、学校行事や部活動、委員会活動などの時間を共有することによって、異なる文化を理解し、尊重する心を育みます。

このように、「日常から養える国際感覚」をモットーに、日々の学校生活の中で、教養主義を基盤とした充実した英語教育、多彩な国際教育を実施しています。





## 中高一貫 6 年間で育てる イノベティブなグローバル人材

東京都立南多摩中等教育学校長 永森 比人美

### 1 はじめに

本校は、心・知・体の調和から生まれる人間力を育み、国際社会の様々な分野で活躍するイノベティブなグローバル人材を育てることを教育目標に掲げています。教職員は一丸となって生徒一人一人の成長を見守りながら、「基礎力のある生徒集団」から「突破力のある生徒集団」へと「やりきらせる」という指導上のキーワードを共有して、生徒の夢の実現を応援しています。

### 2 WWL コンソーシアム構築支援事業

今年度、本校は文部科学省から WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校の指定を受けました。これは文部科学省の新規事業で、将来、イノベティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを作り上げる拠点を全国で 10 箇所指定し、そのネットワークを広げていく事業です。本校は拠点校として、国内外の企業・大学等と連携し、探究学習を深める文理融合のカリキュラム開発、本校独自の探究テキストの作成、高校生国際会議への生徒の派遣、CLIL（内容型言語統合学習）の実践に挑戦します。

### 3 文理融合のカリキュラム開発

来年度から、次の新科目を実施します。

（１）文理融合科目「地球探究」（４年２単位）・・・

社会では「地理」、理科では「地学」の内容を中心に、社会科教員が授業を行い、自然環境と人間生活との関わりについて学びます。

（２）「MIE（mathematics in English）」（５年１単位）・・・数学科教員と J E T の T T で英語を用いて数学の問題を解く授業を行います。

（３）「Pansées」（６年２単位）・・・必修科目の「現代社会」と連携して、課題解決学習を中心に哲学の授業を行います。

（４）総合的な探究の時間「Cross the Boarder」（４年２単位、５年１単位）・・・今までは４年生から６年生で１単位ずつ行ってきましたが、探究の質の向上を図るため、４年課題設定（２）、５年 4000 字論文作成（１）に改めます。

### 4 本校独自の探究テキストの作成

本校は、「総合的な探究の時間」で学年ごとにテーマを持ち、ステップアップしながらフィールドワーク活動を行い、探究力の育成を図っています。そこで使用しているワークシート等を精査し、汎用性をもつ探究テキストの作成を来年度の完成を目指して取り組んでいます。

### 5 高校生国際会議への参加

本校は、東京都教育委員会主催の留学生受入れ事業「東京体験スクール」において、外国からの

短期留学生 14 名を 12 月 9 日から 17 日の 9 日間受け入れました。その間、留学生は本校生徒とバディを組み、生徒家庭にホームステイをしました。12 月 15 日には留学生とバディの生徒が高校生国際会議に参加して、英語でのディスカッションを通して様々な国の生徒の考え方に触れました。

## 6 CLIL（内容型言語統合学習）の試行

日本でも定着しつつある CLIL（内容言語統合型学習）とは、教科科目やテーマ学習と外国語の学習を組み合わせた学習のことです。オーストラリア・クイーンズランド州から先生を講師に招き英語で美術・理科・地理の授業を行いました。1 年生対象の美術 “The Art”、“Eco Friendly House”、3 年生対象の理科 “What is ELECTRICITY?”、4 年生対象の地理 “Queensland Classroom STEM Experience” の授業でした。生徒からは、「難しかったけれど、留学した気持ちになれてよかった。また英語で授業を受けてみたい。」「単語自体は分からなくても、それ以外の情報から読み取ることができたので、脳が活性化した。」という感想がありました。

## 7 国内外の企業・大学等との連携事業

今年度に入り、東京大学西成活裕教授を招いた講演会「勉強から研究、そして開発へ」、グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）の辰野まどか氏による SDGs をテーマとした「Cross the Border 講演会」や富士通研究所（電子）、ヤクルト（バイオ）、オリンパス（レンズ）等様々な連携事業を進めました。

## 8 質の高い探究学習の発表

11 月、東京都教育委員会主催の「Tokyo

Leading Academy」では、5 年男子生徒が “What should we do to develop “Hydrogen Energy?” というタイトルで英語による水素についての研究発表を行いました。特別ゲストで小池百合子都知事が出席され、知事の前で英語でプレゼンテーションできる機会を得たことは、とても光栄なことでした。また、12 月、文部科学省主催の全国高校生フォーラムでは、5 年女子生徒が “Cultivation with Artificial Salmon Roe -Aiming at less water consumption- というタイトルで、人工いくらを用いた植物栽培の研究発表を行いました。生徒は質の高い探究学習の発表を流ちょうな英語で行い、文部科学省から高い評価を受けました。

これらの発表は教科の枠を超えた教員たちの支援体制から生まれたものです。



Tokyo Leading Academy  
(宮下 海)



全国高校生フォーラム  
(島田 紗亜凜)

## 9 日本の教育を牽引

10 月に中等教育学校として 10 周年を迎えた本校は、まさに令和という新しい年の始まりと共に、WWL コンソーシアム構築支援事業の拠点校として躍進する機会をいただきました。大変名誉なことと捉え、次の 10 年を見据えてあらゆる教育資源を活用して、都立学校のモデルとなるよう、南多摩中等教育学校をさらに進化させてまいりたいと思います。



## 教育の質の保証・向上への積極的な取組み

日本電子専門学校長 船山 世界

### 1 はじめに

本校は「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する。」という建学の精神にもとづき 1951 年に創立した。現在は、CG・映像、ゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子の分野に、昼間部 21 学科、夜間部 4 学科を設置している。

昨今、専修学校には、地域の中核的な人材養成機関として専門分野を深く学ぶこと、目指す資格が取得できること等が期待されている。一方で、今後の課題ならびに振興策としては、人材養成機能の向上、専修学校教育の質保証・向上、学びのセーフティネットの保障の三本柱が示されている。特に質保証・向上の面では、専修学校は、制度的自由度の高さを強みとする裏面として質保証の面で課題があり、法令遵守と併せて、教育の質保証・向上に向けた不断の取り組みを進めていくことが重要であると言われている。<sup>i</sup>

このような背景を踏まえて、現在本校で実施している質保証・向上への取組みを、専修学校の一事例として紹介する。

### 2 職業実践専門課程の認定

専修学校の専門課程であって、企業等と密接に連携して、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度が平成 26 年 4 月から開始された。平成 31 年 3 月 5 日現在における認定数は、全国の専門学校のうち 994 校 (35.4%)、2,986 学科 (39.8%) で

ある。<sup>ii</sup>

令和元年 5 月現在、本校においては、新設 1 学科を除く昼間部 20 学科の認定を受け、認定要件に則った以下の①～⑤の取組みを行っている。

#### ①企業等が参画する「教育課程編成委員会」を設置してカリキュラムを編成

学科ごとに企業委員、業界団体委員を委嘱して委員会を設置し、校長、科長が出席して、年度ごとに第 1 回委員会を 9 月に、第 2 回委員会を 2 月に開催している。本校のカリキュラム一覧、科目概要、科目関連図を毎回示すとともに、カリキュラムの改善案、前回意見の反映状況等をまとめた文書をあらかじめ提出して、委員から業界の最新情報を踏まえた意見を伺っている。本委員会を通じて、業界の人材ニーズから見たカリキュラムの妥当性や鮮度を確認し、教育に反映させている。

#### ②企業等と連携し、演習・実習等の授業を実施

企業と産学連携の協定を締結し、原則として学校内に企業から講師を招聘して、実践的な実習授業を展開している。卒業課題となる情報処理システム開発の実習授業を担当して頂き、実務を模した実践的な工程やスキルを教授して頂くような例が典型である。また、クライアント企業という立場でビジネスに用いる実課題（例えば企業 Web サイト構築など）を提示して頂く例もある。

#### ③企業等と連携して、最新の実務や指導力を修得するための教員研修を実施

本校の教員研修規程に、a. 専攻分野の職業実務卓越性に関する研修、b. 専攻分野の学術卓越性に関する研修、c. 全ての学科に共通する教授法や教員資質に関する研修を定義し、いずれも企業

や業界団体と連携した取り組みを求めている。教員は年度計画を立てて組織的、計画的に研修を受講し、成果報告を行っている。教授法や教員資質に関する研修については、学校として企業と連携して研修プログラムを開発し、全ての教員が入職後に遅滞なく受講するように義務づけている。

#### ④企業等が参画して学校評価を実施

学校関係者委員として、企業、業界団体、高等学校教員、地域住民、卒業生、保護者、在校生が参画する「学校関係者評価委員会」を設置して、年度ごとに第1回委員会を7月に、第2回委員会を11月に実施している。前年度1年間を総括した自己点検にもとづいた「自己評価報告書」の評価内容について、7月の委員会で評価を受ける。また、11月の委員会では、年度の教育重点項目の中間報告を行い、その内容に対する評価を受けている。

#### ⑤学校のカリキュラムや教職員等について Web サイトで情報提供

オフィシャル Web サイトに情報公開ページを設定し、職業実践専門課程の要件に則った情報公開を遺漏なく行っている。また、同時に他の法令等で必要とされる情報を過不足なく公開している。

### 3 第三者評価の実施

特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構（以下、機構という。）は、私立専門学校等の「情報公開の促進」と「自己点検・自己評価から第三者評価への取り組み」を行うものとして、平成19年度から「第三者評価事業」の運用を開始し、私立専門学校等の幅広い参加を呼びかけている。

専修学校の第三者評価は任意であり、したがって、受審校は、自己点検・自己評価結果に対する審査を外部の第三者に委ねて客観的な意見を聴き、審査結果の公表などを通じて、積極的に学校改善を行う専修学校と言えるであろう。平成30年度までの12年間で実施された機構の評価実績は、のべ51ケース（31校）である。

第三者評価のプロセスは、実施校の作業（①自己点検・自己評価の実施、②自己評価報告書の作成と提出）、機構による作業（③担当部会の評価（書面審査、ヒアリング調査、訪問調査）、④第三者委員会の評価）、⑤最終評価と続き、⑥実施校への通知と公表に至って修了となる。第三者評価を修了すると、第三者評価報告書が作成され、機構の Web サイトにおいて公表される。また、5年の有効期限が付された修了証が発行され、専修学校が公に示すことができる。

本校は、平成19年度、24年度、29年度の3度受審し、いずれも全ての評価項目（平成29年度では、専門学校等評価基準 Ver.4.0 に則った10基準37項目）に「可（基準を満たしている）」の評価を得た。

### 4 まとめ

本校は、上記の取組みに加えて、本校独自の学生満足度調査（新入生、授業、卒業時）の実施ならびに、教育に関する3ポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）の策定にも取り組み、これら全てをPDCAサイクルとして年度ごとに計画的に実施している。

本校においては、これらの教育の質の保証・向上に向けた取り組みを、社会の期待に十分に応える専修学校教育の基盤を築く営みとして、将来に向けて積極的に推進する所存である。

- 
- i 文部科学省、「これからの専修学校教育の振興のあり方について（報告）」、平成29年3月28日。
  - ii 文部科学省、専門学校（専修学校専門課程）における「職業実践専門課程」の認定等（平成30年度）について、平成31年3月6日。
  - iii 特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構、平成30年度第三者評価報告書（I 平成30年度第三者評価事業の概要と実施状況）、平成31年4月。



## 新しい時代を担う高等専修学校としての人材育成

国際理容美容専門学校 副校長 佐谷 肇

### 1 はじめに

本校は昭和30年に「職業人の育成」を教育目標として、国際理容協会設立にあたられた松村重吉先生、吉田實先生により駒込に誕生しました。その後、現在の地である荒川区東日暮里にて、設立当初の教育目標を継続してまいりました。

職業を学ぶ学校という、専門分野の講師から技術・技能を修得することに重きをおくイメージをもたれると思いますが、お客様ファーストのために何をすべきなのかを、自らが考え実践できる教育を時代の変化と共に追及しております。

一時期は、学歴や年齢が異なっても、同一のクラスで教育をする場面もありましたが、法律の改正とともに、平成6年に高等学校卒業した者と、中学校を卒業した者にわけました。その際、本校では、将来美容師免許取得だけでなく、高等学校卒業にかかわる資格も取得できることで、就職においても、卒業後の進路においても選択肢が広がることのできるため、一般的な修業年限2年ではなく、大学入学資格付与指定校の条件をふまえての修業年限3年間のカリキュラムで運営する美容高等科を設置しました。その思いは間違いではなく、現在中学校卒業後美容師になる学校を選ばれる際、上位の条件となり本校を支持していただく理由になっております。

### 2 新たなチャレンジ

平成6年から中学校卒業以上に対して美容師国家試験取得と大学入学資格付与取得を目指して運用してきました美容高等科ですが、令和2年か

ら中学校卒業以上の方々だけが学ぶ校舎を西日暮里に作り、学校法人の中に新しい学校を運営してまいります。今回の学校は美容師に加え、製菓衛生師・調理師を目指さず中学生の方にも夢を叶えられる学科を新設し、国際共立学園高等専修学校という名称とします。約26年間培ってきた我々のノウハウを新たに開設する製菓衛生師・調理師を目指す皆様に技術取得と共に職業人としての「生きる力」を注ぎたいと考えております。

美容師においても、製菓衛生師・調理師においても、卒業後何年か経過したとき、国際共立学園高等専修学校で学んでよかったと、本人が思えるようになっていくことが私たちの喜びでもあります。

### 3 本校の教育方針

本校の教育方針は「躰教育」です。躰教育と聞くと、堅苦しい学校生活を思い浮かべるかと思いますが、「夢を叶える人づくり」というタグラインを全学校教職員で考え、「躰教育」の意味合いをわかり易く表現しております。

本校は「技術」も大事ですが、それ以上に「人間教育」に重点を置いて、カリキュラムを編成しています。本学園で設置している他の学科も含めて、カリキュラム中に「ビジネスマインド」という教科目を設定し、産学連携の基、業界で求める人材像に応えられるよう、学科・実技両面における授業を行っております。

「ビジネスマインド」は、授業だけのものではなく、学校生活は勿論、学校生活以外においても

実践できるよう学校全体で指導しております。指導の中で大切にしているのは、与えられることを知識として学習するのではなく、自らの気づきをもって自らが自然に行動できるようにすることです。

数年前に、文部科学省委託研究事業にて「離職率の軽減」というテーマで、学校と学校の運営に携わっていただいている業界団体様を中心にチームを編成し、学校を支援してくださる美容サロン様にもアンケートや意見聴取という形で研究を行いました。研究事業の中で注視すべきは、「技術」より「サロンスタッフとの、お客さまとの人間関係」の改善・向上が「離職率」軽減解決の策になるのではないかという意見が多数寄せられました。まさしく、本校が過去から現在に至る中で教育方針の要にしているものが大事だと、再認識をすることになりました。研究事業で得た内容をまとめた冊子を、サロン様にお渡しし、学校で生徒に指導している内容を理解してもらい、サロン入店後の指導にもつなげていただくことで学校とサロンの共通認識をすることが出来ました。

学校で考えている内容が、業界で求めている内容と乖離していることから発生する人間関係の相違は、生徒が一番苦しい思いをさせることとなります。本校では、自己点検評価を同一担当者で行うのではなく、毎年半分の教職員を入れ替えて行っております。見る目を変えることで得られることは大きく、改善ポイントや評価の意見交換が活発になることは、自分たちも学校運営に携わっている証しになっていると考えます。学校関係者評価、第三者評価についても本校のホームページに掲載しており、内部だけではなく外部の方々にも広く本校を知っていただくツールになっております。

#### 4 未来に向けて

本校高等課程を中心に記載をしてまいりましたが、職業実践専門課程においては、現在美容科が

他学科に先駆けて、産学連携実践型コースを実施しております。

日本学生支援機構でまとめている奨学金貸与状況（平成 29 年度版）では、専修学校専門課程に入学した生徒の 2.4 人に 1 人（約 41%）の方が奨学金の金額や返却年数の長短に関わらず奨学金を基に将来の自立のため勉強に励んでおります。しかしながら、奨学金の種類にもよりますが約 20 年間かけて返却しなければならないこと等を考えたとき、本来就きたい職業をあきらめ、給与優先の職業選択をする若者もいるのではと考えます。本校では、サロン様と連携し、学校に通学しながらサロン業務補助を行いながら一定の給与を支給していただく制度を確立し、奨学金に頼らず、3 年間で校納金を完済できるように致しました。まだ始まったばかりですので、結論を述べることはできませんが、サロンの実際を経験しながら学校での勉強を行うことで、より目的が明確になるとともに、本校の教育方針でもある「躰」教育の実践の場になっております。

サロン様においても、当初は補助的な業務に限定されますが、美容師国家試験に合格し免許取得後は、他の新人スタッフとは違い今までの経験を基にお客様への技術にいち早く対応することができるといった利点が生まれると考えております。これからの時代、どの業種においても人材確保が大きなテーマになろうかと考えます。であるからこそ、教育現場と業界現場の連携が重要であり、情報を共有するだけではなく、現場を視察することも大事ではないかと考えます。SNS 等に頼るだけではなく、実際の現場を見る・現場の声を聞く・現場と意見交換を行うことは、より信頼性が高まります。学校と業界だけの関係ではなく、地域連携をはじめとして社会に認めていただき、お互いの関係性が相互利益を生むような、存在になっていくことを期待しております。



## 産業技術高専における航空技術者育成について

東京都立産業技術高等専門学校

荒川キャンパス 教務主事 三林 洋介

### 1 はじめに

我が国は観光立国化を目指す中で、東京 2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり訪日外交人の更なる増加が見込まれるほか、LCC の市場拡大によって航空需要の増加も見込まれている。そのため、羽田空港をはじめとする首都圏の国際空港の機能強化と同時に、それを支える航空技術者の育成も求められている。また、新型航空機は、複合材化、電動化、インテリジェント化などが進められ、航空技術者に求められる技術知識レベルも高度化・複合化している。これからの 20 年間には航空技術者は多くの定年退職者を迎える現状にあり、今後は、導入が見込まれる新型機等にも対応できる航空技術者が求められると思われる。近年、LCC の登場等とともに、エアラインから独立して、主要な整備、修理、オーバーホールを担当する MRO (Maintenance, Repair, Overhaul) ビジネスが誕生し、航空機等の MRO 事業場数は国内外でも増加しつつあるが、MRO を担える人材の絶対的な不足が考えられる中、航空機の安全な運航に危惧が予想される。

こうした課題の解決に向けて、前身校から航空工学系の教育を行い、主に航空機製造メーカー、輸送機械製造メーカー等へ設計、製造技術、試験等の技術者として卒業生を送り出してきたことにより、高い評価を得てきた都立の本校が、より実践的な職業教育として本プログラムを構築することで、航空整備技術を有することとなり、かつ技術知識レベルの高度化にも対応できる応用力のある人材を育成し得ることとなった。そして首都である東京都の国際競争力の強化、産業の活性化に資する事を目的として 4 年前より航空技術者育成プログラムを開設した。

### 2 産業技術高専における航空宇宙工学コース

産業技術高専は、首都東京の産業復興や課題解決に貢献するものづくりスペシャリストを育成するために 5 年間の本科とそれに接続した 2 年間の専攻科からなっている。本科のものづくり工学科は、1 年次にもものづくり工学の基礎全般を学習するために共通科目を履修し、2 年次に 8 コース (機械システム工学コース、生産システム工学コース、電気電子工学コース、電子情報工学コース、情報通信工学コース、ロボット工学コース、航空宇宙工学コース、医療福祉工学コース) から希望のコースを選択することが出来る。また、ものづくり技術を修得するために、各コースの実技科目には総開講時数の 3 割が配分され、実践力の養成に力を注いでいる。

航空技術者育成プログラムは、航空宇宙工学コースの中に開設したもので、このプログラムは航空工学を理解するために必要な基礎学力を有し、機械、機器の開発、設計、製造、運用などに必要な基礎知識を持つ学生の育成を目指している。そのために、航空機、エンジンなどを題材としてそれらに必要な理論および技術の教育を実践する。

### 3 航空技術者プログラムの策定

航空技術者プログラムは、航空整備技術の資格取得に必要な学科試験の重複部分の検討、実習時間確保のための方法等の検討を進めることにより、航空宇宙工学コースに所属する各学年で 8 名程度を選抜して以下に示す基本方針に従って策定された。教育設備は、既存の実習施設を改修し、さらに、航空実習館「汐風」を新築した (図 1)。

(1) 本科開講講義科目において、航空整備技術資

格の学科試験にも対応できる内容に改定し、座学を展開する。

(2) 本科開講実験実習科目において、国土交通省の指定養成施設の認定基準で指定された実習内容を新たに追加して実験実習を展開する。

(3) 国土交通省の定める実習時間を確保するため、時間割の空きコマを活用するが、収まりきらない場合は他の選択科目との並列開講や長期休業期間を利用した集中講義形式による開講を行う。

(4) 国土交通省の定める実習内容を展開するため、養成施設に求められる教育設備として航空機を3機導入する。

(5) 本プログラムで使用する航空機の保管及び実習スペースの確保並びに国土交通省の定める認定基準を満たす。

#### 4 プログラム実運用に向けた取り組み

航空技術者には、現在、数種の資格があり、その中において本プログラムでは、航空整備士及び航空運航整備士に共通した航空技術者育成プログラムを構築する。基礎となる工学知識を学んだうえで製造に関する航空機製造技術や保全技術としての航空機整備技術等の基本技術を身につけ、技術の高度化・複合化に対応できる航空技術者を育成するものとする。プログラムの実運用に向けて進められた事業を以下に示す。

- ・対象者を本科2年生（航空宇宙工学コースのみ8名程度）より選抜した。
- ・教育・学習到達目標に基づき、本プログラムに必要な全てのシラバスを作成した。
- ・本プログラムで必要な実習用教材（工具、材料、部品、教材、機体等）を購入し、新設した航空実習館にて航空機体の実機を活用した実習教育を開始した（写真1、写真2）。
- ・本プログラムに産業界のニーズを反映させるため、JAL及びANAに協力を要請し、現場実践型講座を実施した。
- ・本プログラム希望者について、各種説明会をはじめ校内または外部へPR活動を行うなど広く履修者選抜を実施した。



写真1 航空実習館「汐風」



写真2 航空技術者プログラムの実習風景

- ・4年生全員が主要な航空運航企業等のインターンシップに参加し、第1期生である平成31年度卒業予定者全員が航空関連事業の希望就職先に内定した（表1）。

表1 プログラム学生の就職内定先とインターンシップ先

| H31年度卒業予定者 就職内定先         |  |    |
|--------------------------|--|----|
| (株) JALエンジニアリング          |  | 4名 |
| ANAラインメンテナンス株式会社 (株)     |  | 2名 |
| ANAベースメンテナンス株式会社 (株)     |  | 1名 |
| H1 (株)                   |  | 1名 |
| H31年度卒業予定者 4学年次インターンシップ先 |  |    |
| (株) JALエンジニアリング          |  | 4名 |
| ANAラインメンテナンス株式会社 (株)     |  | 3名 |
| シーアールイー (株)              |  | 1名 |

#### 5 今後の課題

プログラムを年次進行で着実に実施していくとともに、今後は国土交通省の指定養成を視野に入れた科目編成やプログラム履修生の増員等を検討していく。さらには、航空業界における最新の技術・知識にも対応できる実践的なプログラムを実施していくため、引き続き、企業や関係団体との連携を強化していく必要がある。



## 東京の産業界



### イノベーションとともに

三和電気工業株式会社

代表取締役会長 石井 卓爾

#### 1 会社の概要

当社は1947年に電気通信コネクタを中心とした電気通信部品の製造販売メーカーとして発足しました。光通信波を接続する部品を総称して光コネクタと呼んでいます。当社は光コネクタではパイオニアメーカーのひとつです。

日本及び海外のお客様に製品を提供し、通信部品として色々な所に使われております。現代社会の高度情報化の発展に寄与している製品と申し上げてもわかりにくいので、事例（ご家庭とデータセンターのケース）を御紹介しますと次のようになります。

##### 【ご家庭にて】

一戸建ての家に光通信を導入するルートは、屋外にある光クロージャーから始まります。光回線は家の中にある光通信との接続部分（光ローゼットあるいは光アウトレット）につながります。光通信信号を電気通信信号に変換する装置が光回線終端装置（ONU）です。ONUと家庭内パソコン等は有線電気通信のLANコードあるいは無線通信のWifiで結ばれます。ご家庭への光通信のルートでは、当社は下図枠内の製品群を提供しています。



光通信信号を電気通信信号に変換する部品を光モジュール製品（あるいは光トランシーバー）と称しております。当社光モジュール製品群は信頼性の高さから、近年、通信以外の分野でもお引き

立っていただいております、東海道新幹線でも使用されております。

##### 【データセンターにて】

最近はクラウドコンピューティングという言葉聞いたことのある方も多いと思います。ITを導入する企業にとってクラウドコンピューティングの存在は、例えるならば水道や、電気です。利用の仕方や、日常生活に必要不可欠という意味で非常に似ています。近年有名なクラウドコンピューティングはAWS（Amazon Web Services）で、インターネット小売大手のAmazonが提供するクラウドコンピューティングです。

クラウドコンピューティングは現代社会において利便性が高く、小企業から大企業・政府機関までと規模の大小にかかわらず利用する組織が増加しています。技術的に言うと、クラウドコンピューティングはネットワーク、サーバー、ストレージ、アプリケーション、サービスを共用化しています。データセンターと言われるビルはクラウドコンピューティングのハードウェアを担う建物です。データセンター内で当社は下図枠内の製品群を提供しています。



#### 2 経営理念

誠実・努力・変革・道はずから通ず

### 3 特色

通信業界は技術革新の激しい業界です。1960年代頃は、電話交換手さんが電話局に居られ相手先につないでくれました。1970年代になるとダイヤルすると自動的に相手につないでくれる「交換機」が登場しました。1980年代にはデータ内容がアナログデータからデジタルデータに変わりました。

1990年代は携帯電話（ガラケー）およびインターネット普及の時期でした。2000年代になるとADSLを中心にブロードバンドが普及しインターネットを介した事業も色々と立ち上がりました。

2006年以降は光通信がインターネットの中心となりました。2010年以降はスマートフォンの時代です。

このように変化の激しい環境で事業を続けてきた当社にとってイノベーションは生命線で、特許をはじめとした数々のイノベーションを実行し続けています。マーケティングによって自社ブランドへのお客様の信頼を築く、ブランディング中心の企業様とは異なる特色です。

産業のイノベーションにかかわっている私としては、2018年ポール・ローマー教授のノーベル経済学賞受賞は感慨深い出来事でした。

教授はイノベーションと持続的経済成長の関係を柱とする「内生的経済成長理論」を研究・発表されてきました。企業が生み出したイノベーションは、他の企業に波及する場合、その国の持続的な経済成長につながるそうです。

イノベーションにはリスクがあり、時には失敗します。そのリスクを承知の上でイノベーションにチャレンジする個人・企業を、この経済成長理論は勇気づけてくれたものでした。

当社も生命線のイノベーションに注力し、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形でオンリーワンの製品、時代をリードする製品を開発・提供して参ります。

### 4 人材育成

企業では企業行動が売上高や利益に反映されません。企業行動を分解していくと、一人一人の社員の行動になります。当社の人材育成は、「一人一人の社員の行動変化が企業行動に良い影響をもた

らす」という理念のもと、つくられています。

下図はドナルド・L・カークパトリック教授（ウィスコンシン大学）の提唱した教育・研修効果測定モデルです。当社では3～4のレベルを目指して育成しています。学校ではレベル2が達成されれば多くの教科で合格点をとれますが、当社では自分の行動変化を伴うレベル3以上が求められます。学習内容を行動変化につなげられるかがポイントとなります。

| レベル       | 概念 | 説明                          |
|-----------|----|-----------------------------|
| 4<br>（高い） | 成果 | 受講者の行動が変わり、組織に良い影響をもたらした    |
| 3         | 行動 | 受講者が学習内容を利用して、自らの行動を変化させた   |
| 2         | 学習 | 受講者が授業内容を知識として理解し、スキルを身につけた |
| 1<br>（低い） | 反応 | 受講者が授業を気に入った                |

人材育成研修は2種類に分かれます。人事担当が担っているのは共通部分で、どんな仕事にでも応用可能な内容を外部研修で行っています。具体的には、コミュニケーション（例：成果を出す会議のコツ、ビジネスライティング）・考え方（例：ロジカル・シンキング、データ利用法）・自己管理（例：タイムマネジメント、自己成長のための習慣化）・ビジネス基本知識・英語などになります。

専門研修は各事業部門で行います。専門分野なので各事業部門の特性に応じて、OJTを中心とした専門研修の場合もありますし、外部研修を中心とした専門研修の場合もあります。

### 5 青年へのメッセージ

青年と言われている時期はやり直しがきき、リスクを取りやすい時期です。いわゆる投資指南書の中でも「20代では自分の『人材価値』を中心に考えて、株式投資に重点を置かず自分への投資を最優先せよ」と説くものがある位です。

色々なことにチャレンジしてみてください。自分の得意分野を認識している若者は少数派です。色々やってみて、得意分野を作ってください。皆様方の時代には平均寿命は90才を超えるでしょう。「無駄な努力をした」と思う事もあるかもしれませんが、60年以上ある残りの人生でその経験が生かされる可能性は高いです。



～すべては地域のために～

あきる野商工会 会長 松村 博文

## 1 会社概要

商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となって、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。また、国や都道府県の小規模企業施策（経営改善普及事業）の実施機関でもあり、小規模事業者のみなさまを支援するために様々な事業を実施しています。法律（商工会法）に基づいて、主に町村部に設立された公的団体で、全国に1,660の商工会があります。東京都内に限ってみても、島嶼地区を含め27の商工会があり、当会は秋川商工会と五日市商工会が合併することで平成13年に設立いたしました。

現在の会員数は約1500であり、都内商工会でもトップクラスの加入率を誇ります。

## 2 経営理念

**商工会は行きます 聞きます 提案します**

我々は常に地域を巡回し、情報収集に努めております。地域の事業者が困っていればすぐに訪問し、課題をヒアリングしたうえで、解決策を提案します。業種や会社規模によって課題は多種多様に及びますが、専門的知識を持った職員がチームを組んで対応し、時に外部専門家の知恵も取り入れながらその事業者にも最適な施策を提案します。個別支援とは別に講習会やセミナーなどの集団支援も行うことで、国・都・市の施策をタイムリーに提供できるよう適宜事業を実施しております。

商工会は地域活性化にも力を入れております。行政との緊密な連携の下で行われる夏まつりや産業祭等のイベントの実施、プレミアム付商品券や地域カード（るのかーど）の発行・運営、住宅改

修助成金事業の実施等、地域経済を元気づける施策も積極的に実施しています。

## 3 事業内容

### （1）経営改善普及事業

- ・経営指導員による巡回・窓口相談事業
- ・専門家派遣事業
- ・講習会の実施（個別講習・集団講習）
- ・地域カード（るのかーど）の発行・管理
- ・金融斡旋事業（融資）
- ・記帳相談
- ・法律相談
- ・補助金事業 ほか

### （2）地域総合振興事業

- ・地域イベントの実施（夏まつり、産業祭、ヨルイチ、弘沢の滝ふるさと夏まつり、増戸ますます祭り、観光キャラバン）



- ・部会活動の実施（商業部会、建設業部会、工業部会、青年部、女性部）
- ・創業 就労 事業承継 支援ステーション（Biz@Sta）の管理運営
- ・地域特産アンテナショップ（いろどり屋）の

運営

- ・後継者育成支援事業（一鶴道）の実施
- ・経済対策事業（プレミアム付商品券事業、住宅改修工事等助成事業ほか）の実施
- ・福利厚生事業の実施
- ・連携事業（認定支援機関会議、秋川流域経済懇談会、明星大学との合同企画、東京都産業振興会との懇談会）ほか

#### 4 連携した取り組み事例

平成30年より、地域の都立高等学校（秋留台高等学校、五日市高等学校、多摩高等学校、多摩工業高等学校）との情報交換会を実施させて頂いております。“西多摩地域を愛し、西多摩地域で働き、西多摩地域を活性化させていく人材の育成”を目的に、各学校で実施されるインターンシップ受入先企業のご紹介などをさせて頂いております。産業界においては人手不足が深刻な問題となっており、地元の高校生とのつながりを持つことで、企業への理解を深めて頂くだけでなく、人材確保の機会を頂いております。冒頭で記した通り、東京都には27の商工会がございます。この取り組みを先例とし、商工会を通じて高等学校と産業界との和がこれまで以上に広がっていくことを願っています。

#### 5 人材育成

中小企業に限ったことではありませんが、会社の中心は”人財”です。従業員の皆さんが頑張ってくれるからこそ、社会に貢献できる企業活動ができるのです。社内研修や現場指導で仕事に必要なスキルや技術を学んでいくことももちろん大切ですが、社会人である前に一人の人間としての”土台”をどのように育むかが特に重要であると私は感じております。秋留台高等学校、五日市高等学校、多摩高等学校、多摩工業高校で行われているインターンシップやデュアルシステムといった取り組みは、まさにこの”土台”を育むものであり、社会で活躍できる人財を育てる素晴らしい取り組み

みだと思います。今後も連携を深め、地域のさらなる活性化に寄与できればと考えております。

#### 6 青年へのメッセージ

我々が過ごしてきた時代とは異なり、今は移り変りの激しい時代です。今誰もが使っているスマートフォンも10年前までは普及していませんでした。AIが人間に代わって仕事を奪うと言われていますが、私は人間の仕事が無くなるとは思っていません。その分必ず新しい職業・仕事が生まれると思っています。大切なことは「その時代に何が求められているか?」「なぜ求められているか?」を常に考えることです。同じように見える事でもある人にとっては無価値、ある人には宝の山に見えるときがあります。自分の視点を持って考えられる人間になって頂ければと思います。

#### 7 産業界に期待すること、日頃考えていること

産業界では人材不足が深刻な問題となっています。特に若い労働力を確保することは企業存続に欠かすことはできず、我々経営者も選ばれる努力を続けていかなければなりません。

一方で「地元で就職したい」「いつかは地元に戻りたい」という若者が増えてきているという声も聞きます。我々商工会と地元の高等学校がネットワークを強化することで、若い方が希望を持って地元で働ける仕組みをつくっていければ地域はもっと活性化できるのではと思っています。



## 情報スクエア



## 令和元年度「教員海外産業教育事情研修」報告 ーフィンランド職業教育制度の視察・研究ー

東京都立六郷工科高等学校長 佐々木 哲

### 1 はじめに

令和元年11月24日から30日までの7日間、公益社団法人産業教育振興中央会主催の令和元年度「教員海外産業教育事情研修」としてフィンランド・ヘルシンキを訪問した。この研修は全国の農工商家庭水産福祉の専門教科教員が海外研修を通して産業教育の充実に寄与することを目的にしている。本稿では教師の社会的評価について報告する。我が国との大きな違いを感じて頂きたい。



### 2 訪問国の状況

フィンランド共和国は、面積33万8145平方キロメートル、人口5,200,000人(2003年)、首都ヘルシンキ(890,000人)、主な言語はフィンランド語、スウェーデン語、経済は、森林、金属及び工学、工業で成り立ち、工業国際競争力世界一である。地理学特徴は、187,888の湖と森林があげられる。天候については、穏健な夏(+25.C)と冷たい冬(南-15.C北-30.C)という特徴がある。

続いて、フィンランド教育には2つのポイントがある。一つ目は歴史的背景として、1918年にロシアから独立したこと。二つ目の社会的背景とし

て自己実現の社会、高度福祉国家というキーワードがあげられる。(日本のような競争社会ではない)

### 3 研修日程及び概要

- ・11月24日(日) 結団式(成田空港)
- ・11月25日(月) 学校・行政機関訪問  
ディックルスビュー小中一貫校 訪問  
ヴァンター市教育委員会 訪問
- ・11月26日(火) 学校訪問  
ヴァリア職業学校 訪問  
ラウレア応用科学大学 訪問
- ・11月27日(水) 研究機関・企業訪問  
スタートノース起業家コミュニティ 訪問  
インノラックス照明器具製造会社 訪問
- ・11月28日(木) 学校訪問  
職業訓練校カレリア 訪問
- ・11月29日(金) 自由散策  
海上要塞 スオメンリンナ観光
- ・11月30日(土) 解団式(成田空港)

### 4 フィンランドの教育の特徴

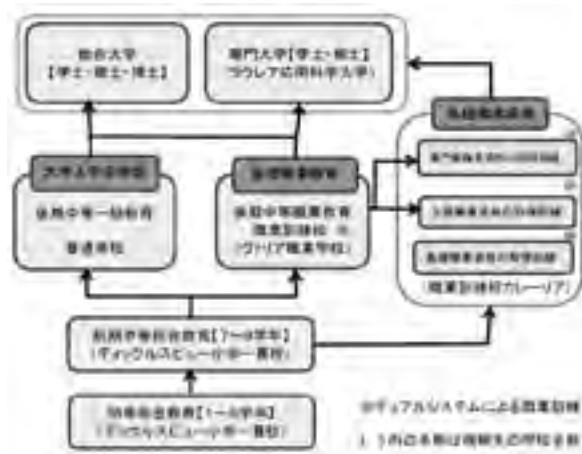


図1 フィンランドの教育制度

フィンランドの教育制度を図1に示す。義務教育課程を修了した約4割の生徒が職業訓練校に進学する。普通高校に通いながら職業訓練校に通うダブルスクールも珍しくない。紙数の関係から十分に説明できないが、デュアルシステムはフィンランドにおいても重要な職業教育システムとして位置付けられており、一旦社会に出てから職種を変える為の社会人のリカレント教育の場として機能している。このように、日本とは異なり複線型の教育システムであり、どの段階からでもやり直しがきく柔軟性のある教育システムである。

#### (1) 教育制度のポイント

- ・明確な教育理念(起業家精神・個としての自立)
- ・徹底した教育の機会均等、無償化
- ・国家予算の14%を教育費に投入
- ・地方自治体への教育の裁量権委譲
- ・6歳からPreschool(98%)実施(幼稚園留年有り)
- ・小学校と中学校が統合した9年一貫教育
- ・5学期制(8月下旬から翌年6月上旬まで190日)

#### (2) 高等学校と職業専門学校(職業訓練校)

- ・高校進学率は60%、40%が職業専門学校に進学する。授業料はどちらも無償、1教科は6週間30時間で1単位履修、卒業単位は75単位から85.5単位の幅がある。卒業後は大学と専門大学(ポリテクニック)へ進学可能。

#### (3) 大学と専門大学(ポリテクニック)

- ・大学は国立20校(総合大学10校単科大学10校)(経済や建築、音楽や工芸デザイン)教育省が管轄している。基礎科学教育や大学院教育が充実、博士号取得者は10年間で2倍に増加。
- ・専門大学(ポリテクニック)は29校、実務や実技に重点が置かれ高度な教育が施される。地方自治体や企業が資金援助して設立運営されており、修士課程では高度な技術者を養成しているが博士課程の設置は無い。

#### (4) 教育課程

- ・教科書検定制度廃止され教材は教師の自由な選定に任されている。クラスは生徒数20名前後の小さなサイズ。小学校低学年から一人一台のPCが貸与されプログラミング教育が

充実。外国語教育(義務教育段階)

- ・フィンランド語とスウェーデン語、2つの公用語がある。原則は3年生で第一外国語を学び、7年生で第二外国語を学ぶ。英語は4年生から学び始める。例えば母語がフィンランド語の生徒の場合、3年生からフィンランド語、4年生から英語、7年生からスウェーデン語の学習が始まる。大人になるまでに3ヶ国語が普通に話せるようになる。学習指導要領では語学の到達目標が決められている。小学校修了段階で「身近なテーマに関する簡単な会話を理解」とあり、中学校修了段階で「日常会話を理解テレビ・映画などの要点を理解」とある。この目標に沿って語学が出来るようになる。

### 5 教師に求められる能力と社会的評価

校長は教師を信頼して授業を任せている。教材を選定するのも教授方法を決定するのも教師であり、教師には教育の自由が与えられている。

教師には教え込む力ではなく、ファシリテーターとしての能力が求められている。学習活動の際に個に応じた教師の適切な支援が重要である。授業の主体は生徒であり内発的動機によって生徒が自ら動き出すのを待って支援していく。そして、生徒同士の学び合いや教え合いが生徒自らの気づきを促し知識が積み上げられていく。

教材の準備から効果的な指導法まで教師の責任とされており、日本のような教員免許は無く、マスターを修了することで「教師」になれる。幼稚園教諭を除きバチェラーでは「教師」を名乗れない。「教師」になるためのマスターコースでは、専門分野と教職課程の両方を履修することが求められる。採用されれば異動はなく、原則同一校で定年まで勤務する。学習指導要領は、現場教師の意見も取り入れ国家教育委員会が作成する。その内容は輪郭を決めるイメージである。教師の給料は一般に公表されている。決して高くないが若者の憧れの職業である。教師の社会的地位は高く国民から絶対的な信頼を受けている。

東京都の教育関係者には是非視察して頂きたい。



## 平成30年度キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰を受賞して

東京都立芝商業高等学校長 林 修

### 1 はじめに

大正13(1924)年に開校した本校は今年度で創立95周年を迎え、23,000名を超える卒業生は実業界をはじめ様々な業界で活躍するなど、これまで多くの有為な人材を輩出している。

こうした伝統と実績に加え、平成29(2017)年度からは「商業教育検討委員会報告書(平成29年2月、東京都教育委員会)」により示されたビジネスを実地に学ぶ商業教育の改革に向けた取組の先行実施校として、学校設定科目「ビジネスアイデア」のカリキュラム開発等を行い、その内容を都内だけではなく全国から視察で来校する商業高校等に対しても広く普及啓発している。平成30(2018)年度には商業科からビジネス科に学科改編を行い、魅力あるビジネス教育を展開している。

また、本校の周辺では東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて大規模な再開発プロジェクトが同時に複数進行しており、実践的・体験的にビジネスを学習する上で非常に恵まれた環境にある。

本校は「ビジネス教育を核とした教育活動を通して、グローバル化する社会環境の中で自立することのできる人材の育成」を使命としており、勤労意欲に溢れ、正しい職業観と社会性をもった人間を育成するために、こういった本校の立地条件を最大限に生かして地域や企業と連携を図り、意図的・系統的に3年間を見通した特色あるキャリア教育を展開している。

### 2 特色あるキャリア教育の取組

本校の特色あるキャリア教育の取組について、以下に紹介する。

#### (1) インターンシップ事業の取組

本校が初めてインターンシップ事業に取り組んだのは平成12(2000)年度で、当時は2年生25名が14の受入先で実習を行った。平成22(2010)年度からは「国際ロータリーと東京都教育委員会との連携」によるインターンシップ事業を活用し、現在は1年生全員と2年生就職希望者あわせて約300名の生徒が2日間のインターンシップに参加している。この事業は受入先への協力依頼や生徒の希望調査を含め約半年間かけて展開しており、毎年100社を超える企業や事業所に御協力を頂いているため、全教員が一人当たり2社から3社を担当し、生徒の実習に向けて各受入先と入念に打合せを行っている。

生徒は自らの体験を実習日誌に記録し、後日、受入先の方々に前にインターンシップ実施報告会を開催する。2日間の就業体験で学んだことをプレゼンテーションソフトにより作成した資料を用いて発表する。生徒はインターンシップを通じて働く人の気持ちやその大変さを理解するとともに、気配りや笑顔の大切さ、コミュニケーションの難しさを実感しており、望ましい職業観や勤労観は着実に養われている。



インターンシップ実施報告会での発表

## （２）福井県池田町との交流事業の取組

本校は平成 26（2014）年度から福井県今立郡池田町との交流を進めており、都会にはない農村地域のコミュニティや地元の方々との触れ合いを通して、地域の活性化に向けた高校生ならではの斬新なアイデアを提案している。平成 28（2016）年度には都市と農村の新たな連携と発展に向けて「芝商いけだキャンパス共同事業」の調印式を行い、生徒は池田町を学びのフィールドとして様々な活動を体験しながら地域社会との関わり方や自己の将来の在り方を学習している。

平成 30（2018）年度は夏と冬の 2 回にわたり同町を訪問し、地域の資源を生かした活動を展開した。8 月は模擬株式会社芝翔の 3 年生 4 名が同町に伝わる能楽文化をアピールするために「お面作り体験会」を実施し、2 月は放送部の生徒 8 名が町民の方に冬でも屋外で楽しむ機会を提供するために角間郷冬まつり「雪灯華（せつとうか）」を実施するなど、日頃学習している商業科目「商品開発」や「マーケティング」等での学びを生かして同町の特徴を調査研究し考案した企画を実現した。

このほか、6 月には模擬株式会社芝翔の生徒が修学旅行で上京した同町立池田中学校 3 年生とともに港区立芝公園で開催されたイベント「ふれ愛まつりだ、芝地区」において同町産の木材を使用したおもちゃを販売した。11 月には本校校庭で開催した「KidsExpo2018」においても同中学校 2 年生と同様の活動を行うなど、異年齢間交流を通じて社会性を育成した。



KidsExpo2018 の様子

## （３）その他の地域や企業と連携した取組

昨年 6 月には生徒会の生徒が「地域の方の何かお役に立つことができないか」という発想のもと、本校で不要になった傘の再利用に着目し、最寄りの東京臨海新交通臨海線・竹芝駅の利用者に対して突然の降雨の際に無償で傘を貸し出すシェアリング・サービスを企画し、株式会社ゆりかもめ本社で提案した。

その後、この提案は見事に承認され、現在も竹芝駅の改札口には貸し出し用の傘立てが設置されており、特に梅雨の時期には用意した傘が全て貸し出されていることもある。また、外国人向けに案内板に英語の説明を表記するなど、生徒はサービスの改善・向上にも努めている。



シェアリング・サービスの提案

## ３ おわりに

今後は、3 年後の令和 4（2022）年度から年次進行で始まる新学習指導要領、及び 5 年後の令和 6（2024）年度に迎える本校創立 100 周年に向けて、より一層教育活動の充実に努めるとともに、様々な企業や地域等との連携を図って、これからの社会で必要とされる「創造的な力」と「実践的な態度」を育成していきたい。

また、生徒に基礎的、汎用的能力を育成するために、「社会に開かれた教育課程」を目指し、教員一人一人が外部折衝力を発揮して地域や企業のもつ資源を最大限に活用するとともに、地域や企業に必要とされる商業高校となるよう今後も本校独自の特色あるキャリア教育を推進していく。





## 第 17 回 創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

台東区立駒形中学校長 瀬川 眞也

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下のとおりである。

- 1 **主催** 東京都中学校技術・家庭科研究会
- 2 **後援** 東京都教育委員会  
東京都産業教育振興会  
東京都中学校長会
- 3 **日時** 令和元年 11 月 9 日（土）  
令和元年 11 月 23 日（土）食部門
- 4 **場所** 台東区立駒形中学校  
女子栄養大学（食部門）
- 5 **対象者** 東京都内中学校に通学する中学生
- 6 **内容**
  - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選（基礎部門・活用部門・応用部門）
  - (2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選
  - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
  - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
  - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
  - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト（二足歩行ロボット格闘部門）

### 7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も 17 回を数

え、常連校だけではなく新たな参加校もあり、今年も裾の広がりを感じた。毎年ながら会場校の校長先生をはじめ先生方には多大なるご理解とご支援をいただいていた開催である。今年度も昨年度同様に主催開催会場を台東区立駒形中学校として実施された。駒形中学校会場は、立地の良さと関係する教員の実績と経験が活かされ、会場への機材搬入等準備を順調に進めることができた。また、作品展の事前搬入や当日の会場準備にも会場校との事前打ち合わせを重ね、スムーズに開催へ向けての準備が進められた。また、今年度も会場日程調整の結果、食部門と日程を分けての開催となった。



生徒作品コンクールは、各地区で選ばれた作品が会場校へ送られてきている。当日持参分も含めて完成度の高い作品 61 点が展示され、会場を多に賑わせていた。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に駒形中学校会場 40 名、女子栄養大会場で 20 名の体制で進められた。

### 8 開催結果

今年の参加者は、見学の保護者を含めると両会場併せて 500 名を超えた。その内訳と各部門の内容は次のとおりである。



<関東甲信越大会に向けての予選大会>

○「創造アイデアロボットコンテスト」

**基礎部門：**中学校技術・

家庭科の「エネルギー変換に関する学習」の導入題材として、最も基本的なモーター（ロボット）



で競技するもので、モータ2個3Vまで使用したロボットで、制限時間内にカラーボールを得点エリアにいれたりする課題を解決する対戦型の競技である。タイトルは「BASIC DIVISION 2019」、39チームの生徒達が参加した。

**活用部門：**中学校技術・

家庭科で学んだ知識や技能を組み合わせる製作された生徒作品の部門である。モータは4個3Vまで使用でき、制限時間内に7箇所の突起物にブ



ロックを入れあう競技である。タイトルは「Lift or drop a block」、37チームが参加した。

**応用部門：**教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作されるロボットの部門で、競技内容はコート中央にばらまかれたアイテムを自陣ゴールに集める競技である。センサなどを利用したロボットによる1対1の対戦型競技で、モータは6個6Vまで使用可能である。タイトルは「復興への願い2」、4チームが参加した。

○当日示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく使用し、寸法通り正確に作品をつくる「木工チャレンジコンテスト」には各地区から選ばれた14名が参加した。

○「生徒作品コンクール」には、各地区で選ばれた技術分野と家庭分野で、授業内・授業外部部門の合計61の作品が参加した。今年度も力作・大作が数多く出品された。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の応募作品47チームが事前の審査を経て、当日の本大会は20チームが参加した。

○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール 東京地区予選」では事前選考の6校33作品の参加であった。

<東京都ロボットコンテスト>

◇東京都独自として実施したロボットコンテストは、モータ2個を使った格闘型のロボットで、生徒の関心の最も高い競技である。この競技は900mm×900mmのリングで2足歩行ロボット同士が相撲をとる競技である。112チームが参加した。



## 9 成果と課題

ものづくりフェア in TOKYO 全体としては、参加生徒もここ数年一定数おり、中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関の認識も深められていると捉えている。参加生徒数は全体として昨年度と同程度であり、各校現指導要領下での指導計画・実践も定着してきたものと考察できる。特に格闘技型のロボットは参加数が増大し、レベルの高いロボットも多く出場した。しかし、応用部門は参加校数が少なく、今後ルール等をさらに工夫改善して、ものづくりの楽しさや魅力をいかに実感させるかが課題である。来年度のものづくりフェアに向けて、さらに魅力的な事業となるよう授業時数を踏まえたルールや運営方法等を改善することにより、興味・関心・意欲を一層高め参加者を増やしていきたい。開催会場の台東区立駒形中学校、女子栄養大学のご理解、そして東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会から表彰状をいただいたことは、フェアの盛り上がりと共に充実に結びついており感謝申し上げる

## 第29回全国産業教育フェア新潟大会 さんフェア新潟2019

事務局

第29回全国産業教育フェア新潟大会(さんフェア新潟大会2019)は、10月26日(土)27日(日)の両日、朱鷺メッセの他、3会場で開催されました。



### 1 基本理念

悠久の時を経て、豊かな食文化、ものづくりの基盤技術、伝統工芸が発展してきた新潟から、新たな時代の創生に向け、産業界を担う人づくりに取り組む産業教育の魅力を全国に発信する。

### 2 基本方針

#### 【悠久】

先人が継承してきた伝統技術を学び、守り伝えていくフェアとする。

#### 【創生】

専門学科等の高校生と産業界が連携した創造的な取組を発信するフェアとする。

#### 【飛翔】

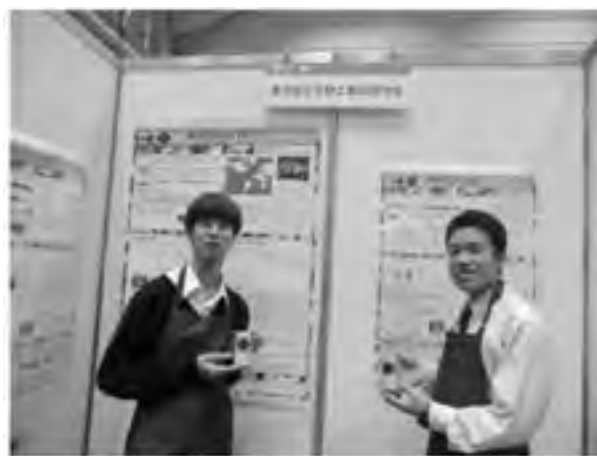
新たな時代を担う高校生の未来を切り拓く力強さを発信するフェアとする。

### 3 キャッチコピー

繋ごう！伝統のバトン 朱鷺翔ける新潟から

### 4 東京都産業教育振興会会員校の展覧 【作品展示】

- 東京都立中野工業高等学校  
コーヒーの味、香りに関する研究
- 都立荒川商業高等学校  
模擬株式会社 レガロ工房の取組み



- 東京都立芝商業高等学校  
模擬株式会社 芝翔の取組み
- 東京都立新宿山吹高等学校  
情報作品名 新宿山吹 ST Project

#### 【研究発表】

- 東京都立新宿山吹高等学校  
情報技術を用いたライブ企画とその映像制作  
情報科 3年生 野村 美和さん

#### 【スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール】

- 東京都立新宿山吹高等学校  
“学び続ける情報技術者を目指して”  
斎藤 達也、稲垣 秀磨さん

#### 【専修学校ブース】

- 日本工学院専門学校

### 5 参加を通して

朱鷺翔ける新潟会場に集う高校生の発表やコンテストを参観して日本の未来を担う若者の志を強く感じられました。

## 第 61 回全国産業教育振興大会（新潟大会）

日時：令和元年 10 月 26 日（土）

会場：朱鷺メッセ館内 万代島ビル

主催：全国産業教育振興連絡協議会  
公益財団法人産業教育振興中央会

### 次 第

#### 1 開会の言葉

全国産業教育振興会連絡協議会常務理事  
富岡 逸郎

#### 2 国歌斉唱

#### 3 挨拶

全国産業教育振興会連絡協議会副会長  
杉江 和男  
新潟県産業教育振興会会長  
福田 勝之

#### 4 来賓挨拶

参議院議員 自由民主党 赤池 誠章  
文部科学省初等中等教育局長  
丸山 洋司  
新潟県教育委員会教育長 稲荷 善之

#### 5 講演

「混ざって学ぶ面白さ～佐渡の学校蔵プロジェクトから見たこと」  
講師 尾畑留美子（尾畑酒造株式会社  
専務取締役（五代目蔵元））

#### 6 大会決議文協議・採択

全国産業教育振興会連絡協議会理事長  
西澤 宏繁  
新潟県産業教育振興会常任理事  
仲野 孝

#### 7 次期開催県挨拶

大分県産業教育振興会常任理事  
姫野 清高

#### 8 閉会の言葉

新潟県産業教育振興会理事  
新潟県立新潟工業高等学校長  
霜島 孝幸



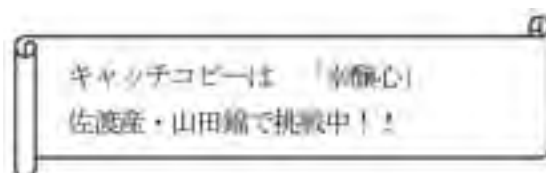
佐渡の稲田



大会決議文協議・採択

#### 【講演要旨】 尾畑酒造株式会社

絶滅危惧種の朱鷺が空を舞う佐渡において持続可能な環境にやさしい米づくりを行っている。山からの恵みである良質な水を使い酒造り行っている。また、廃校を大仁の仕込み蔵として再生し、オール佐渡産の酒造りにこだわり、酒造りを学びとして未来を変えるプロジェクト進めている。



【大会決議文協議・採択】

新しい時代にふさわしい専門高校、産業教育の一層の充実・振興を期するための下記決議文のとおり、大会決議を行った。この決議文については、文部科学省をはじめ関係する機関等へ提出された。

【大会決議文】

## 決 議

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校」）は、職業に必要とされる専門的な知識や技術・技能を身に付けた職業人を育成し輩出することにより、我が国の社会や産業の発展に大きく貢献してきている。

今日、AI や IoT などの技術の急速な発展に伴う Society5.0 が到来するなど、産業構造も大きく変化し、併せて、グローバルな競争も激化してきている。これに伴い職業に必要とされる知識・技術も高度化するなど、これに対応できる人材育成が強く求められている。また、今日の我が国においては急速な少子高齢化の進展に伴う生産年齢人口の減少、若年世代の地方から大都市圏への流出による地方経済の縮小、深刻な人手不足など、多くの課題も抱えている。

我が国が、これからも発展・繁栄し、豊かな社会を築いていくためには、自らの将来の仕事に対し明確な目的意識をもって専門高校で学ぶ生徒達の力は必要不可欠である。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では、全国の専門高校生による「第 29 回全国産業教育フェア新潟大会」にあわせ、産業界と教育界の強い連携のもと、「第 61 回全国産業教育振興大会」を開催し、我が国が将来にわたって力強く成長、発展し、豊かな社会を築くため、専門高校のより一層の充実・発展に全力を傾け、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の持続的な成長・発展に欠かせない専門高校の充実・発展に格段の御理解と御支援をお願いする。

一、産業界が必要とする知識や技術・技能を身に付けた職業人を育成する上で欠かせない教育用施設・設備の計画的な整備と充実、少人数指導を可能とする教職員定数の改善、専門教科担当教職員の養成・採用・研修等の充実、社会人実務経験者の積極的な任用など、専門高校における教育実施体制の充実・強化

一、地域や企業、関係機関との連携などの特色ある教育活動、資格取得等のための検定試験、各種発表会やコンクールなど、専門高校生が取り組む活動への支援

一、就職における採用枠の拡大、地元企業等への雇用機会の拡大、女子採用の促進、学業を優先した健全な学校教育を担保する就職制度を踏まえた専門高校生の就職への支援

一、専門高校での学びを積極的に評価できる大学入学者選抜の実施・拡大、高等学校専攻科からの大学等への編入学の積極的受入など、専門高校生の進学機会の拡大

一、高等学校専攻科生に対する修学支援制度の創設をはじめ、専門高校生の保護者の経済的負担軽減を図る修学支援の充実

一、専門高校についての理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援、中学校における技術・家庭の免許を持った教員の配置、専門高校と小・中学校との連携した取組の推進とその支援

一、小・中・高等学校等における職場体験やインターンシップ等の体験活動を取り入れたキャリア教育の一層の推進とその支援

以上決議する。

令和元年 10 月 26 日

第 61 回全国産業教育振興大会（新潟大会）

## 報 告

## 令和元年度 総会・講演会 報告

令和元年度総会・講演会を6月27日（木）午後2時から、全商会館3階中会議室において開催しました。

来賓として公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会商業部会長高石公一様（東京都立第四商業高等学校長）、東京都中学校長会副会長花田茂様（国分寺市立第五中学校長）をお迎えし、出席者は44名でした。

開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の江藤巧都立学校教育部長から挨拶がありました。

続いて、来賓の富岡逸郎様、高石公一様、花田茂様からご挨拶を頂きました。

次に西澤宏繁会長を議長として議事に入り、事務局から次の10件の議案を提案いたしました。

- ・報告事項(1) 令和元年度 会長、副会長の選任結果について
- ・報告事項(2) 令和元年度教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・報告事項(3) 令和元年度産業界会員功労者（永年会員）の表彰について
- ・第1号議案 平成30年度事業報告（案）
- ・第2号議案 平成30年度決算書（案）
- ・第3号議案 平成30年度監査報告
- ・第4号議案 令和元年度東京都産業教育振興会役員（案）
- ・第5－1号議案 令和元年度事業計画（案）
- ・第5－2号議案 東京の産業教育に関する報告書の発行について
- ・第6号議案 令和元年度予算書（案）

審議の結果、各議案とも原案通り承認されました。総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。

本年度の役員を紹介いたします。

|         |               |
|---------|---------------|
| 会 長     | 西澤 宏繁（留任）     |
| 副 会 長   | 金子 昌男（留任）     |
| 同       | 小林 治彦（留任）     |
| 同       | 小堀 紀明（新任）     |
|         | （東京都立農芸高等学校長） |
| 理 事 長   | 中井 敬三（留任）     |
| 常 任 理 事 | 江藤 巧（留任）      |
| 同       | 落合 真人（新任）     |

\* 7月1日付で理事長は藤田裕司に交代いたしました。



挨拶する西澤宏繁会長

総会終了後、講演会を開催しました。講師は経済産業省 サービス政策課長（併）教育産業室長の浅野大介氏で、演題は『Society5.0時代の「未来の教室」』でした。参加者は67名で、熱心に講演に聞き入っていました。（講演要旨は44ページから61ページに掲載）

なお、総会終了後の7月3日（水）、産業界会員功労者（永年会員）として表彰された株式会社鈴木塗装工務店様に表彰状と記念品を届けました。





## 講演会・講演要旨

### Society5.0 時代の「未来の教室」

講師：浅野 大介 氏

経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課長  
(併) 教育産業室長



皆様こんにちは。経済産業省の浅野です。只今ご紹介いただきました通り、2001年に経済産業省に入ってから、何とかして教育改革という仕事に携わりたいと思っておりました。2年前に組織再編の仕事をやりまして、5人で教育産業室を作り、それで自分が初代の室長になって、丁度2年が経ちました。また、去年からはサービス政策課という本体の方の課長もやっております。

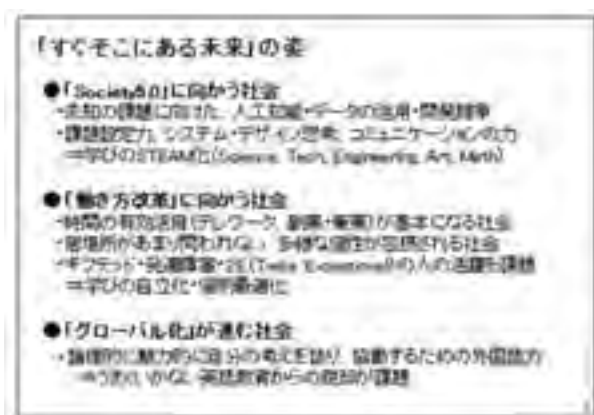
教育産業というのは、わかりやすく申し上げると、塾のことを指します。代表的な存在としては、学習塾です。他にも、スポーツ教室、音楽教室、英会話教室など、いわゆる民間の教育サービスを提供している産業も含まれます。もうちょっと広くとらえると、いわゆるフリースクール、オルタナティブ・スクールという世界もこの部屋の所管ということになっております。最近で言うと、専門高校の先生方と距離的に親和性があると思われるのが、同じ塾でも、プログラミング教室ですか、あとはSTEAM教育の教室ですとか、その系統の教室も基本的には全部含まれます。ざっくりと言いますと、学校以外の民間教育というのが、実は経済産業省の所管業界です。

しかし、うちの役所として、教育改革のために今まで何かしてきたのかと言われると、正直あまり何もしてきておりませんでした。一つだけ、今から遡ること27、8年前だと思いますが、まだ世の中がWindows 95とか言っていたような時代に、100校プロジェクトという、パソコンをちゃんと使える学校を作ろうじゃないかというプロジェクトがありました。それを立ち上げたのは、経済産業省で私が現在所属しているサービス政策課の大先輩たちでした。昔私と同じようなことを考えて、一時期教育の話をやっていたことがあったんです。けれども、看板を立てないと仕事はなくなってしまいます。サービス政策課という、なにか何でもやれそうな課の中で、100校プロジェクトをちょっとやったところで、人が異動してしまえば消えてしまいます。それをもう1回繰り返してはいけないと思ひまして、2年前、教育産業室という看板を立てることから始めました。



今日は、我々が2日前に、「未来の教室」ビジョンという提言を発表いたしましたので、そこでお話ししているような内容の概要をお話しできればと思います。その中で我々が見ている未来像、初

等中等教育の未来像において、こういうものがベースになってくるのではないかという将来像の中に、専門高校がございます。専門高校が次の普通科になってくる。いわゆる普通科は、職業の専門学科を中心にして、未来の普通科というのができてくるのだろう。我々は、そんな世界を描いておりまして、それが当たり前になってきている社会をどう考えようか。あとは学校と民間教育、この垣根がどんどんなくなっていく社会をどう作っていくか。そんなことも含めて、今日お話しできればと思います。



「未来の教室」という言葉を我々は使っておりますが、一体いつを未来と言うのかという質問をよく受けます。我々が見ているのは、すぐそこにある未来です。来年とか再来年とか、そういう未来です。もう今すぐそこに来ている未来、それに向けてふさわしい学びをさっさと創ろうと。ほとんどのことは、現行の法令の中でできることばかりです。つまり、地方自治体の教育委員会の皆様、学校の運営をされている皆さんの努力だけで、明日からでもできることばかりです。ですので、制度を変えなきゃいけないとか、何々しなきゃいけないとか、正直言って、それはほとんど必要がありません。ただ、もっと広げていくために、もっと自由度を上げていくためには、多分制度もいじったりしなければいけない。思い切って現場の先生たちが躊躇なく改革をやっていけるためには、もうちょっと制度的には工夫が必要ということはあると思っています。ただ、それも2、3年のうちに

さっさとやれることばかりなのだ、そんなつもりでこの提言を書いている、またこれから文部科学省との間でいろんな議論をしていきたい。そして現場の教育委員会の皆さんとも、学校の校長先生以下、先生方と語り合いながらプロジェクトを作り、広げていきたい、そんな風に思っております。

未来の姿を3つ書いています。一つ目は「Society 5.0」に向かう社会です。Society 5.0、これはまさに専門学科の教育と思いきりクロスオーバーする部分です。ご存知の通り、第四次産業革命が進み、Society 5.0、超スマート社会と呼ばれるような社会に向かっております。そこでは、あらゆるものがインターネットにつながり、あらゆるデータが収集可能となり、そこでつくられたビッグデータというものを人工知能が解析をする。その結果を踏まえて人間が判断をする。そこでは人間に新たな能力が求められてくるようになり、それは課題設定力・解決力であり、システム思考だ、デザイン思考だ、その根底にあるコミュニケーション能力だ、色々な人がおおよそ共通したことをおっしゃります。そして、産業の業種の垣根もなくなっていく。そうすると、もう農業高校、商業高校、工業高校といった区割りがほとんど無効なものとなり、それぞれの専門知識をどう組み合わせるかに実装するか、課題を解決していくかということが重要になってきます。そうすると、むしろその区割りがなくなること自体が、非常に問題になってきます。これからは、専門学科の壁も全部とっばらっていく必要があります。けれども、専門学





科のそれぞれのカリキュラムについては、1つ1つ系統立った学びもあるわけだから、それは保たれていく。ただ、組み合わせが自在に効いていかないと、多分これからの Society5.0、それを支える第4次産業革命に対応した専門教育っていうものは、ほぼ不可能です。ですから、まず専門教育、専門学科というものの教育を、かなり再編していかなければいけません。その前線に皆さんは立っていらっしゃるって、この専門学校の教育を再編していくことが、おそらく、7割の高校生が普通科に通っているという異常な我が国の実態を変えていくキーなんだと思います。加えて、普通科に通っている高校生たちの学びを、専門学科がリニューアルし、アップデートしていく。専門学科が壁を越えて融合して面白い学びを作っていく。そして、その中に普通科の高校生たちを巻き込んで日本の学びを変えていく。そんなことを Society5.0 に向かう現在において、喫緊の課題として取り組まなければいけないことになっております。

今申し上げたような、何か課題を解決する、価値を生み出すことを起点とした学びを作ろうということを、我々は学びの STEAM 化と名付けています。STEAM とは、Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics の頭文字をとったもので、それぞれが融合した、教科の壁を超えた、ただ単に知識を知るというのではなくて、創ると知るが循環していく。なぜ知るべきなのか、それは創るためであって、創るためには知る必要があって、それが循環を続けていく、そんな学びに変えていきたいと思います。今の学校教育そうはなっていないと思いますので、そういうふうにしていきたいと思いますというようにことを唱えております。

二つ目は、「働き方改革」に向かう社会です。私は、この価値・重要性が学校の中では本当に理解が進んでいないんだということを、いろんなところで話をしています。これは本当に喫緊

の課題です。まず、学校の中では「時間の有効活用」という概念が非常に忌み嫌われているという感触が強くあります。時間をかけてゆっくりやることに意味があるのだと、確かにそういうこともあるかもしれませんが、しかし、人間の時間は有限です。ですから時間をかけるべきところと、かけなくていいところというのが絶対ある。単なる知識のインプットは、まさに効率的に進めるべき分野です。ですから、そういった部分をどれだけ効率化させて、知識のインプットを素早く終わらせるのか。Society5.0 という社会では、知識はインターネットで調べれば出てきます。知識をたくさん持っているだけの価値は低くなっているんです。むしろ重要なのは、そういった情報をどう見極め、どう活用するか。そして、実際に自分の手を動かし、試行錯誤し、失敗しながら最後のゴールまで向かっていく力があるかということです。その力を伸ばすことにむちゃくちゃ時間をかけようと。そういうメリハリがないと時間の有効活用は無理です。

こういった動きは、働き方改革に向かう社会、まさに大人の社会でも全く同じことが起こっております。例えば、実は経済産業省という役所も、2001年の省庁再編前は通商産業省でしたが、当時は通常残業省などと言われていました。本当に夜中まで煌々と明かりがついていて、月の残業時間が150時間を超えるという状態が3年位前まではそれが常識でした。けれども、今150時間残業させてたら上司はクビになるし、働いてる当事者



もお前大丈夫かとなるし、いや、むしろお前仕事ができないんじゃないのかという感じにだんだん空気が変わって行って、見事なまでにこの3年くらいで、無茶苦茶なスピードで働き方改革が進みました。価値観の激変が起きたわけです。何が言いたいかというと、長い時間働けばそれだけ偉いという価値観から、時間を有効活用しろという価値観に変わってきているんです。

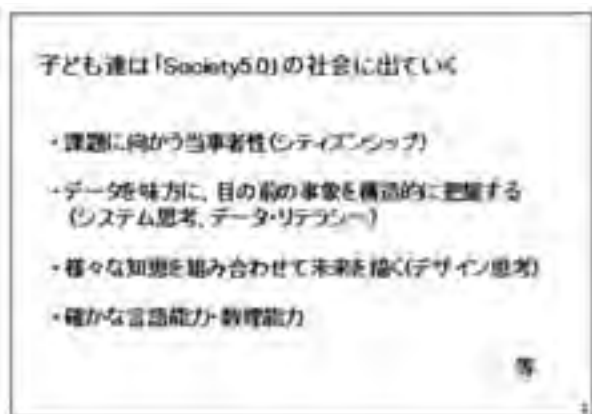
あとは、人によっていろいろ事情があることを考慮して、働き方を柔軟に変えろという流れもきています。テレワークの活用がめっちゃめっちゃ進んでいます。今私のスケジュールを見ると、1、2割がテレワークになっております。私には今4ヶ月の娘がいるんですが、子育てという事情に合わせて、働き方を変えているんです。週に1日はなんとかして自宅で仕事するようにしています。会議は、役所と繋いで、私は家において、部下たちと全部一緒になって Zoom というオンライン会議アプリでしましようという感じになるわけです。そんな感じで、役所も時間を有効活用しろ、だから無駄な仕事は削れ、であとはテレワークなどを活用してそれぞれの事情に合わせて柔軟に働けと。コスト感覚がないなどと言われている役所においても、ご案内の様に働き方が激変しているわけで、企業ならば尚更大きく変化していくわけです。

あとは、いろんな人たち、例えば、いろんな条件を抱えている女性。女性ばかりが子育てしなくてはいけない時代ではありませんが、それでも乳幼児を抱えているお母さんの負担は大きい。しかし、仕事から離れたくない方はいますし、それが負担になって離れるべきでもない。だったらテレワークなど、いろんな工夫ができます。あとは様々な障がいのある方。その中に、対面でのコミュニケーションは苦手だけど、パソコンで文字を打ってする場合にはすごく高いクオリティでものすごい才能を発揮する人がいる。そんな人たちの才能をどうやって活かしながらもっといいこと

をやるか、そういったこともますます求められている。世の中全体がその方向に向かっているわけです。ですからそれに対し、一人残さず才能を活かしきるというマネジメントができる人こそ産業に求められているんです。ですが、今の子供達はそういう訓練を受けておりません。本来は、人口減していくこの社会の中で一人残さず才能を活かしきらないといけないんです。ですが、それを対面にこだわって必ず何時から何時までここにいろということを全ての人に強制してしまう。今までのような時間の使い方、それを学校の中で続けていて、そこで育った子たちが社会に出る。そうすると周りの人たちにもそれを強制する。この悪循環をどこかで止めないとこの社会は実現しないわけです。その責任は実は学校にあるんです、ということが実は学校の中ではほとんど理解されていないということが、私がいろんな所で話をしていて、非常に強く感じる事なんです。ただ、その価値観の転換はそういうものなんだというふうに政府も言い切らなければいけないし、もっといろいろなコミュニケーションをとって働き方を充実させようと、もっといろいろな多様な働き方を充実させようと、その方向に向かっていく基盤を作っているのが学校なんだというその位置付けは、もっとはっきりさせる必要があると思っています。そんな社会に向けて子供を送り出していく以上は、学び方そのものがもっと自立化しなければいけないし、もっと個別最適化されていかないといけないでしょう。

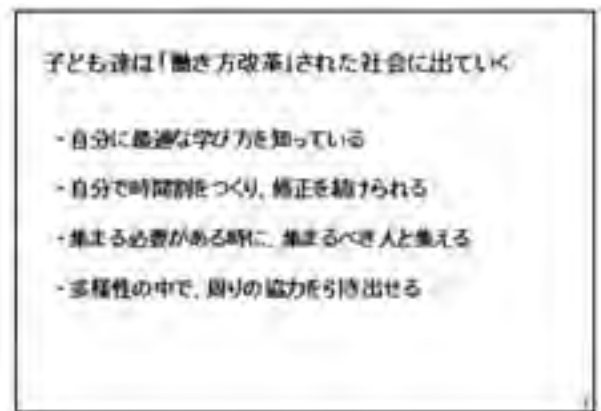
そして最後になりますが、「グローバル化」が進む社会です。これはもう止めようがありません。もう否応なしに、グローバル化が進んでいきます。そして特定技能を持った人たちが入ってくるわけです。そうすると学校現場もさらに多様性が増していきます。その人たちとのコミュニケーションという問題が出てくる。ですが、外国人が入ってくるから対応しようというスタンスではな

いですよね。何かを創るためには世界中の知恵を集めて、編集した者が勝ちなわけです。日本人だけで集まって日本の市場相手にして日本語だけでコミュニケーションして何かいい物を作っている時代は、もう終わっています。日本人の数もまずこれから減っていきます。人数だけでなく、多様性も少なくなっていく。そんな中で日本語だけのコミュニケーションを教えても何も見出せません。だから英語なのであって、多分、これから先は中国語だって入ってくるのです。そんなグローバル化した社会の中で、論理的に魅力的に自分の考えを語って、人とちゃんと協働できるだけの英語力ないしは中国語の力、そういったものがこれから絶対必要になっていきます。ですが、いつまでたっても日本の外国語教育は上手いきません。さあ、どうしましょうか。



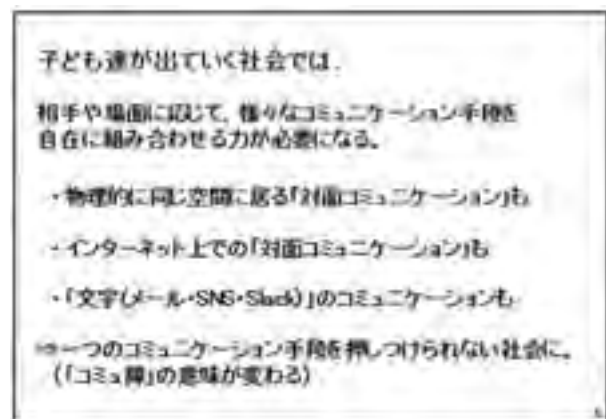
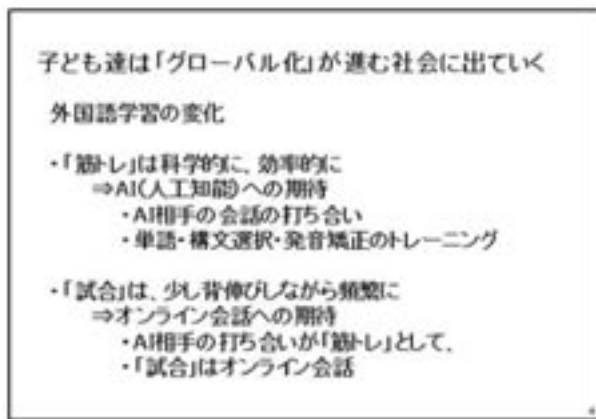
大きく社会が変わっていきますが、その方向は説明した通り、繰り返しになりますが、Society5.0の社会に向かっていきます。Society5.0の社会と言いますが、同時に、これからはもう不透明で未来を見通せない時代でもあります。未来を見通せない時代で答えがないという状況ですが、じゃあどうしようではなくそれは自分で作るということが必要になってくるわけです。ですから、自分で課題を設定する力が必要になってきます。課題に向かう当事者性をもっている人がこれから幸せになれる。あとは、データを味方にし目の前の事象を構造的に掴めるか。そして、それに対して様々な知恵を組み合わせ、未来を描

いていけるかどうか。そして、そのベースになる確かな言語力と数理の力があるかどうか。そんな話が特に求められるのでしょう。



先程申し上げたように子供達は働き方改革が進んだ社会に出てくわけです。朝8時に会社に来い、夕方5時まで座っていればよし、そんな社会ではありません。自分の時間割を自分で組み立てられる人しか、多分ハッピーになれない世界。あとは、それを他者に認めることができる。その力がある人しか、多分幸せにはなっていない。要するに、時間を決めてもらってそこにいますからということではなくて、自分で自分の時間割をちゃんと作れる。他の人の時間割を尊重することができる。そういう人達、そういう能力を大人が求められる社会なわけですから、子供達もそういう力を身につけて社会に出ていく必要がある。加えて、集まるべきときに集まるべき人と集える力。目の前にとりあえず寄せ集められた人達だけの中で仕事をするのではなくて、自分にとって必要な人ってのは誰か、その人を探しに行けて、その人に出会うことができ、その人と関係を作ることができる。何かを作るために集めるべき人達を集めて、必要なときに集まって何かをできる。そういう多様性の中でも周りの協力が引き出せる。そういった能力も、不可欠になってくるはずです。

そして最後、「グローバル化」が進む社会です。グローバル化は繰り返しになりますが、外国語の学習をもっと変化させないといけないの



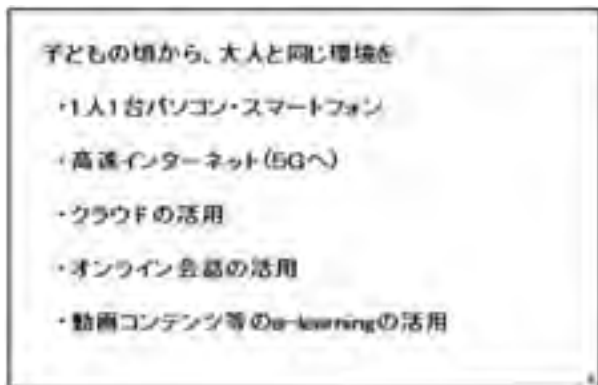
かなと思います。そこが、EdTech（エドテック：Education×Technology）という話に繋がるのですが、外国語はトレーニングですので、筋トレと試合をミックスするしかありません。どこまでいったって単語と構文知らなかったら喋れませんし、発音は矯正して貰えなかったら直りませんし、単なる筋トレです。筋トレはAIがやってくれます。AIを使ってAI相手に打ち合う。今、中国の外国語教育のメインストリームはこれです。ものすごい精度でやってくれるので、これは相当手の力が差をつけてきます。あとはこなした試合の数で実力は全く変わってくるわけですから、実際に外国人と会話する必要があります。ですが、打ち合う相手がどこにいるのだから外国人なのでしょうから、オンライン会話をしよう。オンライン会話なんて今時パソコン1台持っていて高速インターネットで繋がっているという環境があればいくらでもできる。じゃあ、オンラインだ。筋トレは、EdTechを使って、AIを活用しながらひたすら鍛える。試合は、パソコンとインターネット環境を揃えて、オンラインで外国人と打ち合う。学び方が大きく変わってきます。グローバル化に対応していく中で、求められる力、そしてやらなきゃいけないトレーニングはだいぶ変わってくるな、そんなイメージかなと思います。

そして、これから子供達が出ていく社会は、相手や場面に応じてさまざまなコミュニケーション手段を自在に組み立てられる力がすごく求められるのだと思います。さっき私が申し上げたよ

うに、うちの役所の中で今テレワークを拒否すると、おそらく非常に寒々しい視線を浴びていくことになるはずです。ちょっと前までは、「説明に来い。目の前に来い。電話で済ますな。メールで済ますな。」でした。電話だけメールだけじゃなくて、ちょっと人の前に1回でもいいから現れて自分の印象を植え付けて、あいつとだったらやってやろうという思いを相手にもってもらおう。確かに、これは技術として絶対必要ですが、年がら年中で来ている必要はないはずです。たまには対面も必要ですが、ほとんどの場合は、物理的な空間に居る対面以外、インターネット上の対面コミュニケーションと、あとはメールやSNSなどの文字によるコミュニケーションが使われています。最近はメールすら古くなっていると言われ、Slackというチャットツールが使いやすいなどと新たなコミュニケーションツールがどんどん広がりつつある。これらを全部組み合わせることが必要なのです。それが、他者に優しい社会になりますし、自分にとっても1番生産的だし結果が出せるとなってくるはずです。

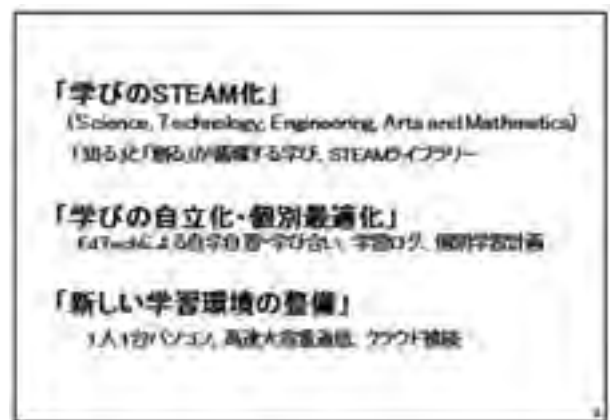
これからは、たった1つのコミュニケーション、「いいか、人のコミュニケーションって言うのはな、対面で人の前で座ってだな、人の目を見てやるものだ」というだけの人を、これからのコミュ障って呼ぶのでしょうか。今、コミュ障っていうと、対面コミュニケーションが苦手な人を指しますよね。多分、そうじゃなくなってくるのだと思います。様々なコミュニケーション手段を、相手と場

合によって使い分けられない人、相手にそれを共有できない人のことをコミュ障と呼ぶようになってくるのだと思っています。そうすると、子供のときから大人と同じ環境与える必要があると。1人1台のパソコンやスマートフォン、高速インターネット、加えてクラウドサービス、オンライン会話、動画コンテンツ。これは普通、今社会人として仕事している人にとっては普通の環境であるはずです。例えば、企業で社内研修をちゃんとやっているような会社だと、今どんどんその研修は動画コンテンツに変わっているし、例えばサービス規定のテストもe-learningで実施しているところがありますし、オンライン会話は当然さっきみたいに仕事で日常的に使います。社会がそうならば、それは、子供の頃から慣れ親しんで、自在に使っていける環境を与えてあげればいいでしょう。今の大人で、生産性が高く、付加価値をどんどん生み出す人達と、同じ環境を子供のときから与えてあげようよ、ということが我々のイメージですね。



最近の政府のいろんな方針や政策文書に、1人1台パソコンという言葉がたくさん出てきますが、あれは、我々が唱えてきたことの成果なのです。我々が文部科学省と色々な議論を重ねてきて、1人1台という言葉ちゃんと明言するよう言ってきたわけです。文部科学省としても、一人一台という未来の大胆な構想を明言することには抵抗を示していましたが、いつまでに、どうやって配備するかということを経産省としても全面

協力するからと。1人1台という言葉をまず掲げて、実現する気があるということを示そうと。パソコンは探せば安価で教育用途として十分なスペックのものが有りますし、中古パソコンの寄付を集めるという方法もあります。学校に寄付の窓口がないと言われれば、じゃあ作ればいい。あとは、親御さんが学校の用具として子供に買って持たせる。例えば、1個10万円のランドセルを親は買ってるわけです。10万円のランドセル買うなら、そもそもランドセルが必要なのかという話も含め、買うにしても5万円のランドセルに5万円のクロームブックで十分ではないかなどと、やり方がいくらでもあるわけです。ですから、1人1台という方針を出して、今年度中に何とか1人1台の戦略・実現までのストーリーというのを一緒に描こう、ということでようやく合意ができ、やや社会運動的になりますが、一人一台という構想を進めたいなと思っています。



前置きが少し長くなりましたが、去年作った「未来の教室」プラットフォームにおいて、我々の10億円ほどの予算を使ってこの3つを進めていこうとしています。

この3本の柱のうち「新しい学習環境の整備」については、正直、経産省の予算規模でどうにかなる世界ではないと思います。ですから、地方交付税交付金をどうするかという世界。そしてあとは、民間からの寄付。そして重要になってくるのが、予算をいかに効率的に使うかところ。実際、

自治体の皆さんは、相当非効率な調達をしているという実情があります。ITベンダーやパソコンの販売代理店の言いなりになっていて、必要のないお金まで使われているということがあるわけです。いまだきサーバーなんて設置する必要はありません。クラウドがこれからのスタンダードですから、それでいけばもっと安く導入できます。そういった、調達の効率化などの話は、新たに予算をどう手に入れるかという問題と同じくらい重要でして、国としてガイドラインを作っていこうという話になっております。

また、国の教育の方針として確固たるものを作っていくことも考えております。パソコン調達のための予算の話とはガラッと変わりますが、「学びのSTEAM化」と「学びの自立化・個別最適化」という二つの柱が、我々のめざしていくべき教育の中身です。「STEAM化」「自立化・個別最適化」という2つのキーワードにしていますが、これは我々の持っている予算の中で、実証実験をしているところです。



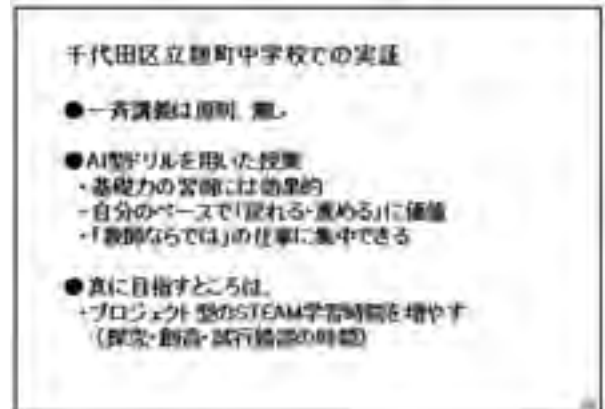
我々の目指す姿を大まかに申しますと、今の科学学習で使っている時間はもっと短くいける。基礎を学びましょうというレベルの話は、今までの時間の半分ぐらいで終わるのではないかな。むしろインプットされた知識を使ってなにか新しいもの作っていく、それが記憶の定着にもつながるはずなんです。そこに倍以上3倍以上時間をかけよう。そうすると創ると知るが循環する学びがちゃんとできるのではないかなというものです。



例えばこれは発電所の図です。無味乾燥に物理とか化学とか地理とか歴史とか数学などの系統だった教科だけを学んでいても、いつまでもこのイメージにはたどりつけない。学ぶ意味すらわからない。これは、私個人もそうでした。ただ、このことをあえてだしているのは、私は経済産業省に入って、エネルギーの仕事に携わって初めて理科や数学を学ぶ意味が分かるようになったからなんです。私は主に石油とガスを担当していました。実際に担当にしていたのは、正に京葉コンビナートや四日市コンビナートあたりの事業再編でした。会社ごとに小さい製油所や化学工場が並んでいる。昔は良かったが国際化の中で韓国や中国に競争力で圧倒的に差をつけられた。そういう日本の石油化学コンビナートをしっかり再編しようというのが、私の5年前の仕事です。実際、石油会社は、しっかり再編されて二大勢力になりました。そういった仕事をしていく中で、化学の中身がよくわからないわけです。無味乾燥の数式や化学式があらわす意味が、リアルなプラントとどうつながってくるのか。それをふまえてコンビナートの再編がどうあるべきなのかを真面目に考えていくわけです。その仕事を、有機化学を全く勉強してこなかった私が担当しました。なんで勉強するのか意味がわかるので、その学びはものすごく楽しかった。同じような話がエネルギー、電力でもと言えます。電力では、3E + Sという方針でEというのは安定供給、経済効率性、それと環境

適合性、最後のSは安全性で、この4本の柱を同時に満たすこと、これが電力というものを考える時の必須の考え方なんです。それを分解していくと、例えばどういった方法で発電するかを考えるとします。石油、天然ガス、石炭、原子力、いろんなものがあるわけです。輸入する時には地政学的なリスクも考えなければいけない。中東に依存すること、どこかの国に依存することのリスクは何か。中東にはどういうリスクがあるのか。供給源を分散させるならば、どんなバランスでどこに分散させるのか、などいろいろ考えるわけです。この時点で社会科や数学がまぜこぜになっていることが分かると思います。あとは環境を考えてCO2排出量も考慮に入れたら理科も当然絡んできます。どういった燃料をどこからどんなバランスで輸入してくる、それを事業所さんたちがどうやって分散したら、政策的に好ましい燃料の調達をするように仕向けられるのか、そういうことを考えているわけです。ひとたび燃料として燃やしますと熱を作ります。熱を作って発電するプロセスではどんな効率的なプラントをデザインできるか。そこにあるのは、当然ながら理科と数学です。そういったことが見えて初めて、教科を勉強する意味が腹落ちしてくるのだと思います。細かいことを言いたしたらきりがありませんが、私が言いたいことのコアは、いろんな系統の知識が組合わさって、はじめて物を考えられるんだということ、役人として政策に向き合っているいろんな人の話を聞いていって初めて分かりましたということ。恥ずかしながらそういう現実が私にはありました。昔からそんなことが分かっている人もいないかもしれませんが、なかなかこういう勉強の機会はないじゃないですか。もったいないと思うんです。これだけ縦で切られた教科を教えられる方がたくさんいらっしゃるのに、この発電所を見てみようとか、石油化学コンビナートの未来を考えてみようという問い、他にも未来の

モビリティはどうなっていくのかなど、そんなテーマがあってもいいのにありません。そういう社会、未来を描くという中で学ぶ数学は面白さも全然違うなということです。知識と、創ること、手を動かすことがどう循環するか、そのバランスをどうつくっていくかというのはものすごく重要だと考え、それを検証できるような実証事業を今いくつか作り、まわしております。



今からするのは、中学生の話です。千代田区立麹町中学校という学校で行った実証実験なんです。左の写真は中学数学の授業。ご覧いただければわかる通り、みなさんがイメージする普通の授業風景と大きく違ってきていると思います。生徒たちはカフェテリアに集まり、一斉授業はしません。Cubena という名前の数学のAIドリル教材を渡しています。一人一台パソコンを渡して、どんどん自分で進めていってもらおう。それはできる子たちだからできるのではないかとすかさず言われるのですが、対象は成績が真ん中から下位の生徒です。それで、前年比の半分の時間で全単元が終了して、次の学年にも進み、一斉授業をずっと受けてきた特進クラスや発展クラスの子たちの成績にどんどん近づいて、成績がみるみる上がっていくわけです。あとは学習態度に問題があった子たちが、時間をかけた分できるようになって、その子たちの学習時間っていうのがものすごく伸びています。それも全部デジタルデータに残っていますから、この子がいったい何時間問題集をやったのかということも追えるのですが、昔、こんなにこ

の子勉強していなかったよね、となります。自宅に帰ってもそれを夢中になって取り組むという子もでてくるのですが、学校の時間の使い方が圧倒的に効率化された結果、習った数学の定理を使ってプログラミングしよう、などということに使える時間ができます。EV3を使ってプログラミングしようとか、自動駐車をプログラミングしてみようとかそういったことに発展していきます。他にドローンを飛ばそうとか、様々なことをやっています。ここにまとめてありますが、本当に取り組みたいのはプロジェクト型のSTEAM学習時間を創り出すことです。それだけの余裕を作るには、基礎をとにかく効果的に効率的に入れよう、さっきの語学の話もそうです。単語を覚える、構文を覚えることは絶対必要だがそこにばかり時間かけてもしょうがないので、どれだけ効率的にできるのかということです。



もう一つですけど、知識を融合しようという話の代表例で今行っているのが、スポーツ科学です。大学に行けばやれるかもしれませんが、多くの中高生には機会がない。これは、ラグビーを一例に挙げました。体育実技でやっているラグビーを、その戦略を、プログラミングを使ってたててみようという融合です。碁盤の上に黒軍と白軍と書いてありますが、これで、まず強い白軍を作り、それに対して黒軍はどう動かしたら勝てるのかというイメージを作る遊びをする。これがゲーム作りみたいなもので、みんな楽しんで取り組む訳です。その話の裏にちゃんと算数が隠れ

ています。算数とプログラミングと体育という組み合わせです。かけっこは、漫然とよーいドンで走って終わります。速い子は映えますが、遅い子はなんだか惨めな姿を晒します。こうして体育が嫌いになっていきます。そうではなく、0.1秒でも速くすることが価値なんだと、そのために科学するぞという時間にかえられたら面白くないか？ そんな話も同時並行で進めています。これを他の競技にも広げていこうと思っています。

いろいろと話してまいりましたが、お待たせしました。農業高校ですとか商業高校とか工業高校も一緒にやらせていただいた実証プログラム、これを今年も続けてまいります。



スマート農業を考えよう。これは旭川農業高校の風景です。もともと、農業科でロボットは必ずしも使っていないと思います。ただ、化学肥料をどうするとか、農薬をどうするとかっていう元々ある農業の世界、そこに加えてロボットの仕組みを知って、自分たちで作れるようになって実装しようという学習プログラムです。





あとは、圃場の状態、さっきの農薬と絡んできますが、圃場の状態はどうやったらつかめるのか、データが必要になるのか？データを取るためにはセンサーが必要です。センサーの仕組みを知ってデータを取って、それで全体の構造を把握して、対策を打とう、そういった一連の流れをIoTを使ってやろうというものです。もちろん、IoTは必ずしも万能ではなくて、技術の限界はあります。ですが、データを用いて科学して農業を作って行こうっていうテーマ自体は面白い。それはもっと取り組むべきです。子供たちに対しては、今のスマート農業の到達点、限界点というのは何であって、課題は何かあって、そこにどうチャレンジするかということを考える、そういうプログラムに延長して行っています。



ただ、ここで二つのプロジェクト、ロボットとIoTの二つでやったんですが、より注目頂きたいのが、対象層のところで普通科の高校生も対象に入れている点です。あとは、できれば中学生も入るとい世界にしたいと思っています。専門学科の皆さんにとって、これから進学してくる可能性のある中学生に興味を持ってもらうことが重要になります。、ですから、中学生や、さらに言えば小学生に関心をもってもらえるように、専門学科のキャンパスっていうのをどれだけ地域に開放できるのか、そして、そこをもっと面白いものにできるのか、実はそれがカギになっていくのだと思います。我々も高校生の7割が普通科に行っているという状況に着目しています。この子たちが、

農業高校、商業高校、工業高校やそれらの総合高校など、色んな機会科学と社会課題がない交ぜになったものに触れて、楽しく遊んで学んでほしいと、そういう思いを持っています。



あとは、商業高校には、いったい、何の関係があるのかということはおき、カンボジアの渋滞問題にチャレンジしていただきました。これは、今年も続けていこうとしております。カンボジアの首都プノンペンの交通渋滞の構造を知ろうと、まず高校生たちが実際何人か現地に行ってもらい、ラウンダーバードっていうグルグル回る形式の交差点がなんで渋滞をうむのかということちゃんと数理モデルを作って考えようという話をしています。

そうすると、面白いことに勉強もなかなか上手く回ってくるわけです。数学も物理もちゃんと教えられる指導者をつけたということもあるんですが、数学を学ぶ意味がよく腹落ちしてくるんです、あっ！世の中のこういう構造を知るためにやっているか、あの無味乾燥に思えた方程式が表すものはこういうことだということが初めて理解されてくるのです。

加えて、私たちが見えてもっと面白いと思ったのは、高校生達が別の気付きも得ることなんです。数学的に渋滞を解明するというテーマに取り組むうちに、この国の人達、交通マナー悪くないですか？という呟きが高校生の間から出てくる。そこから、マナーが悪いってどういうことなんだろう？マナーが無いってことは、倫理が無いって

ことで、それを補正する法律ってないのかな？とか。あとは、そもそも教育とどうつながっているのか？日本は、教育の現場で交通ルールやマナーなどを口酸っぱく言われている。だけど、そういうものが無いのではないかと、いろんな事に想像が働いていく。そうすると完全に文理が融合していきます。数学のことだけ見ていてもしょうがないですよね？数学の数理の仕組みだけ分かっていて、インフラをこう直せば良いということだけではなくて、人の倫理観や、それを支えるルールや、エンフォースメントするための教育や、いろんなものがなきゃ社会システムが成り立たないということが分かってきて、社会システム全体の勉強に入っていくわけです。プログラムがおのずと広がって進んでいきます。



あと面白かったのは、商業高校でのデザインと数学を掛け合わせたプロジェクトです。商業高校では、地元の特産品を作しましょう、それに加えて商業デザインでロゴを作しましょうみたいなプロジェクトがよくあるかと思います。ただ、ロゴをカッコよくデザインするのは難しいなあ、もっとカッコ良くするにはどうしたら良いんだろう？ということと、数学を結び付ける、そんなワークショップをしました。ナカジマサチコさんというジャズピアニスト且つ高校3年生で国際数学オリンピック金メダルを取り、前年度は銀メダル、そういった拔きんでて多才な方が、講師として指導に入ってくれて、その数学的な視点で、実は美し

いデザインの裏には数学が隠れているんだよ、黄金比って知ってる？と、デザインと数学を見事に結びつけるわけです。数学という教科学習と、商業科の教育で行っていたような学びの関係性も、作り出そうと思えばいろいろ作り出せる。先ほどお話しした交通渋滞というテーマについても、ここから先に見据えてるのは工業科やその先にある土木の話かもしれないけど、そういった自分の専門領域ではない部分も含めていろんな社会課題にチャレンジしていく。そういった環境は、実は専門学科の中でも作れちゃうんじゃないの？そんなふうに思ってやってきたんです。



もう一個、カンボジアの衛生環境をテーマにしたプロジェクト。カンボジアでは、衛生環境の悪さで腹痛、急性胃炎などの体調不良を起こす人達が非常に多い。そこで環境衛生問題に対するアプローチをテーマにしました。この実証は徳島商業高校という高校を舞台にして行ったのですが、面白いのは、OBが作ったNPOがワークしていた点です。TOKUSHIMA 雪花菜工房というOBが作ったNPO法人では、JICAから草の根技術協力事業という事業で補助金を受け取り、それを使ってカンボジア現地の学校や食品工場のリノベーション・生産性向上と助けにいくというプロジェクトを組成し、それを徳島商業高校の協力プログラムとして提供している。それで、実際工場を作りに行くぞ、工場の生産管理を1から作り直すぞっていうプロジェクトを商業高校の子達が

今、一緒になって進めている。そのようなことをやっている学校で、そのプログラムの充実、さらなる充実化のために我々もちょっと協力しているという感じなんです。



あと、観光のビッグデータを使って、STEAM学習プログラムを作ろうという実証もあります。これは、JTBさんが自社の予約サイトの中で取っている情報を活用したものです。どんな属性の方が、どこに旅行されて、どこで飲み食いをして、どれだけお金を落としたのか、いろんな情報が入ってきます。この日々溜まっていくデータを、データベースとして表に出して行って、例えば、今の時代の望ましい使われ方を考えるものです。例として申し上げますと、お伊勢さんの、おかげ横丁にある「ゑびや」という大衆食堂です。そこがすごく面白い店であることが判明しました。そこでは、観光旅行予報プラットフォームを活用して、そこに詰まっている気象情報をはじめとしたさまざまなデータから、毎日の来客予測をできるようにシステムを組んだんですね。そのシステムによって、仕入れのロスや廃棄のロスがなくなっていく、客量や売り上げが大体予測がつくから生産性が上がっていったんです。これこそ、まさにデータを見て、自分たちのビジネスモデルを変えろといういい例なんです。そういう話を商業高校、工業高校や農業高校の生徒たちでできるのではないかなと思うんです。それで、こういう観光予報プラットフォームはJTBが持っているのですが、

これを活用してそういうプログラム作りたい。イメージはさっきの「ゑびや」の例の様に、自分の企業の生産性向上のためのプランニングを計画・実行できる経営者を育てられるもの。そのために似たような教育プログラムを作れたらいいんじゃないかと思っています。今年は、横須賀市にある三浦学苑という高校で、観光予報プラットフォームを使った横須賀の町の観光政策を考えるプロジェクトを実施しています。そこでは、データに基づいた立案をしてくださいという条件をつけてあります。観光予報プラットフォームの中のデータに限らず、市が出している統計でも、国が出している統計でも何でもいいんです。必ずデータを使う、という条件を守ってもらう。思いつきはいいんだけど、思いつきのままじゃだめで、思いついたアイデアをデータで語らせてちゃんと立案しましょう。そういったことに慣らしていくと、いろいろと面白い提案が出てきて、もうやったらいいじゃない、という話ばかり出てくるんです。



そこで面白かったのが、生徒たちの議論を聞いていると、役所が考える政策がデータに基づいていないということが、見えてくるわけです。何を前提にしてこのプログラムや政策が組まれているのか、誰に何をさせたいのかということ、生徒たちが突き詰めていくと、政策の中身と目的がずれていることに気が付いてしまいます。その様子を見ていて、これは全国でできるなと。おそらく、全国の市町村で観光政策を考えている人たちの頭

の中は、勘と経験が多くを占めているんだと思います。勘と経験に基づいて、そして全国のどこかの面白そうな事例を引っ張ってきてやっているというのが実情だと思います。だから、実際に自分の町に訪れる人たちはどんな人たちなのか、その人たちはどんな行動をとっているのか、そしたら、この層に焦点を当ててこれをやるべきだということをちゃんと組み立てる。これを、商業高校の子や、農業高校の子、はたまた工業高校の子たちでも、やってみたら面白いんじゃないかと。そういった未来を描きながら、今実証事業を進めているところです。



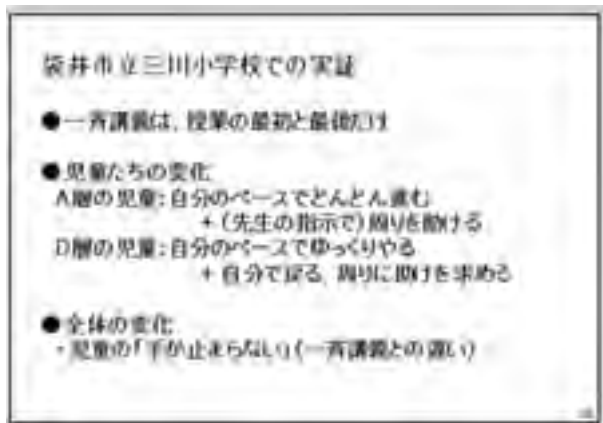
さて、ここまでそれぞれの学校のいろんなプロジェクトを話してきましたが、我々はそれが全国に広がらなければ意味がないと思っていて、それを広げるための取組としてSTEAM ライブラリーというそんな構想も持っています。これは何かと端的に言いますと、動画のライブラリーです。先進事例として、アメリカにある動画サイトがあります。アメリカのPBS っていう公共放送、日本という NHK のようなものですが、そこが、インターネット上にプロジェクト型学習のための教材を色々と載せています。

いろんな企業さんが協力していて、例えば、ボーイングが使った飛行機が飛ぶ仕組みを教えてくれる動画です。飛行機が飛ぶ仕組みとか、飛行機が抱える未来の飛行機の姿とか、飛行機が抱えるイノベーションの課題とか、いろんなコンテンツが

含まれています。そこに動画がついているだけじゃなくて、授業で使う時のサポートマテリアルがちゃんとついている。指導案がちゃんとあるんです。指導案もあるし、評価方法もついている。あとは、この学びはどんな教科のどこの単元に基づいているか、という話もちゃんとついていて、加えて、発展学習をするためのヒント、それがいろんなところについているんです。そうすると、教材として使いやすい。単に動画が流れているだけじゃない。今まで話してきたような、スマート農業を作ろうという話もそうですし、旅館もそうですし、何でも、これらの学校で作っていく面白学習コンテンツは、デジタルコンテンツとしてアーカイブ化されるべきだと感じております。そこで私はこれから、このSTEAM ライブラリーというのを作っていかこうと思っています。まず2年かけて試作しようかと。その中で、ぜひ、私は学校の先生たちに、こんなの作ってみたいっていうことで手を挙げていただいて、自分はもう学校でやっているプログラムがあって、それをデジタルコンテンツにしてみたい。自分の力だけではちょっときついかもしれないけど、誰か、ちょっと気の利いたクリエイターと組ませてもらえればやりたい。そんなことを思ってる学校の先生に集まっていただいて、アイデアソンをこの夏から秋にかけて数回やりたいなと思っています。学校の先生だけでなく、例えば研究の先端を行っている大学研究機関の研究者が、自分の研究テーマ自体をコンテンツ化してもいいんじゃないかと思ってくれるんだったら、それもいいかもしれない。いろんな人たちが、今の研究の最前線や、学び・探求の最前線を教えてくれる、知らしめてくれる、そういったものに指導案をつけて広く使えるようにする、そういう形でやってければな、と。そのために我々は、土台となる場を作っていきたいと思っています。

今話したことはSTEAM についてですが、既

に申し上げた通り、知ると創るが循環しないと、しょうがないと思っております。基礎知識や専門知識が入っていかなかったら、プロジェクトは前に進まず、停滞をします。基礎力は絶対必要ですし、基礎にとどまらずどんどん発展的な知識を効率よく入れていく必要がある。そうすると、学びの自立化と個別最適化が必要になってきます。子どもたちに、1人1台パソコンを持たせて、インターネットにつなげ、自分の好きな教材で、好きなペースでやってくれと。それで、確実に、到達度を上げて行ってほしい。そういった勉強を効率的に、効果的にやっていきましょう。



これは小学校における授業の様子を一枚で表現した図です。おそらく、中学や高校でも同じ図になると思っています。小学5年生で、静岡県の袋井市という、だいぶのどかな田園風景が広がる小学校ですが、ここの授業では、一斉講義は授業の最初と最後だけで、その間は子ども達に自分のペースで進めてもらっています。そうすると、子ども達に非常に大きな変化が現れました。学力でA～Dで分けして、A層の子たちと、D層の子たちの動きをずっと見ていたんですが、一番特徴的なのが、D層の子たち、中でも発達障がいの子です。1回の指示ではわからない。でも、わからなくても、先生わかりません、といきなり手を挙げて止めるわけにもいかない。そうすると置いていかれる。一度置いていかれると、置いていかれっぱなし。一斉講義・ライブ形式の講義である

がゆえに、これまで落ちこぼれちゃっていた子が、個々人のペースで進めるようになると、周りに助けを求めたり、分からないことを戻って進めたりするようになります。そうすると、もちろん成績は上がってくる。ライブ形式じゃないから学べるんです。だからライブを強制するっていうのももうやめませんかという話です。かく言う私もそうなんです。30分以上人の話を聞いていられないんです。そういった講義は全部テープに録音をして、あとで家で聞いていたというタイプでして、すごくよくわかるんです。自分のペースに合わせて学びを進めると児童の手がとまらない、これが特徴だったんですね。



一方で、今の話は、すごく先進的な取組みに見えますが、実は塾ではそれは当りまえなんです。個別学習塾の森塾はご存知かと思います。割と成績下位層の子たち向けの塾です。個別指導塾で、子ども達にAIを活用した教育用ソフトウェアを与えます。森塾のメソッドを反映したAIを活用しています。それで、子どもたちはコンピューターと向き合って、小4から中3のお姉さんまで同じ教室で全然違う教材で違う単元を勉強する。それで十分成績が上がっている。この世界が塾でできちゃっているわけです。

そうすると、これを学校に入れたらどうなるのだろうとなります。実は、去年 sprix という会社と有志の小中学校の先生たちとで何回もワークショップをやらせていただきました。もし、この



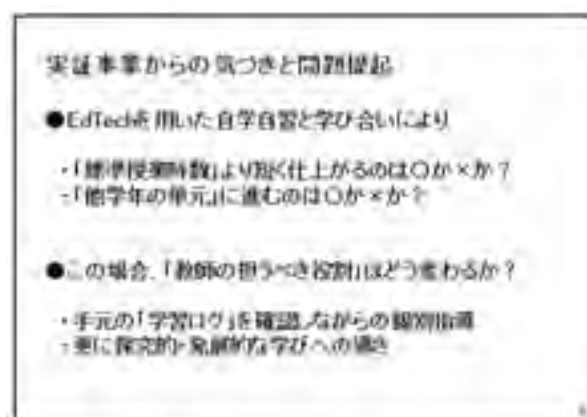
sprinx の e フォレストという教材を学校の授業に入れたらどうなるか。先生たちに教材を触ってもらい、自分で実際に e フォレストを使って問題を解いてもらいながら、だいたい今までやっていた単元が、これを使うことでどれくらいの所要時間で終わるかを体験してもらいます。これは相当大胆だなと私も思うのですが、こういったものを使えば、インプットだけは半分、半分以下で終わる。そうすると、インプットした知識を吐き出す時間が出来ます。習った子よりさらに先にいく、フィールドワークに出る、人の話を聞きにいく、体験する、そういった時間がようやくこれでなんとか作りだせます。

ありがたいことに、今年は実証授業で、そういった仮説に基づいて本当に単元学習を進められるのか、という検証が行われます。全国4つの公立中学校で、塾と学校がタッグを組んで、塾で気の利いたやり方やテクがでてきたらそれをやらせようと。成績悪い子たちであればあるほどそれをやらせよう。基礎を徹底してやらせよう。個々人のペースで、分からないところは誰かに聞いたり、振り返って学習したりして進める。それによって小さな成功体験をどんどん積み重ねてもらって、同時に面白いフィールドワークとか探求というところに行ってもらおうじゃないかと。

あとは英語です、さきほど申しましたように英語こそが、完全に EdTech が中心になってくる領域だと考えています。単語や公文のインプット、



発音の矯正などは当然ながら、英作文も EdTech がカバーする範囲です。英作文はとにかく書きまくるしかない。そして、書いたものを誰かに見てもらう。誰かというと、海外の大学生です。大学生に送って添削してもらう。ただ添削して返してもらうだけじゃなくて、録画した映像でこういう風に修正すればいいんだよと教えてくれる、その録画を見る。でもライブじゃないからこんどは説明不足のところがある、そうしたら学校の先生が助けてくれる。一人の先生だけで40人の子たちのライティングの面倒を見るのはほぼ不可能だと思います。ですが、海外の一流大学の大学生たちが基本的に作文を見て指導してくれる。それでもわからないところは学校の先生がサポートしてくれる。こんな感じで進めていくという将来像をイメージしています。

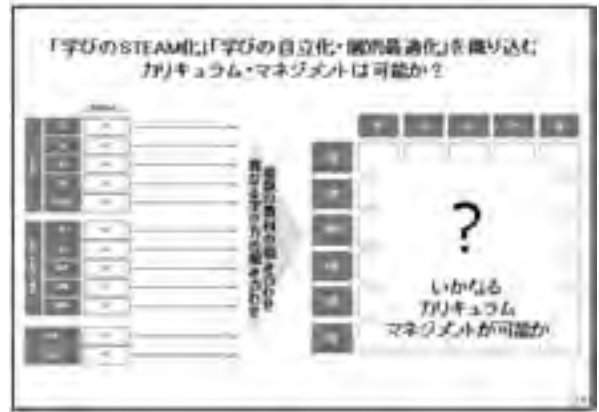


僕は、こういう感じで個別最適化された自律的な学びを作っていこうとするのですが、そうすると様々な課題にぶつかります。中学生だと標準授

業時数という問題があります。学習の効率化が進んだ結果、標準授業時数より短く仕上がっちゃって、これは良いのか、悪いのか？という話ですとか、授業時間に空きが出たから、次の学年の単元にいくのは○なのか×なのか。私立学校だったら当たり前だと思います。私も私立でして、中3の時には高1の単元は終わっていました。一方で、公立ではそういったことはやっていいんだろかって思われるわけです。ですので、そういったことが起きた時、それは○か×か、どちらなのか判断できるような指針をちゃんと出してください、そういったことを今文科省に注文しています。それがわからないと、ただでさえ忙しく教えることの多い学校で、EdTechを使ってみんなの実力を上げながら時間の使い方を効率化するという創意工夫が、現場の判断でできないじゃないですか。そのためには、文科省はもうちょっとはっきり方針を出さなければいけない。

あとは、教師の担うべき役割の変化について。EdTechが入って、「知識を教える」という役割を代わりに担うようになった時、教師は次に、こういった役割を担うようになるのか。手元の学習用具が全てICT化されて、一人ずつ、〇〇君がどのくらい時間をかけて何が解けたのか、どこでどう間違えたのかが全部わかる世界。そこでは、個別指導が可能になります。個別指導という環境においては、教師は生徒をモチベートする存在になっていくでしょう。そして、探求的・発展的な学びにおいては、先生は生徒に伴走する存在になるのだと思います。生徒に答えを与えるのではなく、一緒に考える、一緒に悩む。そうして、生徒の探求を深めていくのだと思います。

そんなことも含めて、今の時間割、6×5のマトリックスというものが、これからどんな時間割になっていくんだらう、この時間の使い方というのはどう変わっていくんだらうということが一番の論点なのかなと思っています。



そんな感じで、いったんここで私の話を切らしていただいて、もしご質問とかいただけたらそれに答えさせていただければと思います。

(質疑応答：省略)



そしたら、よろしいですか、最後にすみません。本当に、色々な話を申し上げましたが、冒頭申し上げましたように、私は専門高校推しでして、今うちのチームの基本方針は、私達が受けたいと思うプロジェクトしか作っちゃいけないっていう、そういうルールなのです。そういうことで言うと、去年あれだけ農業高校だ、商業高校だというプロジェクトをうちが採用したということは、それだけうちのチームの人間達にとっては、もし、自分が高校生の時にこんな感じの授業があったらもっと面白かったよねっていうのを作ろうと思ったら、やっぱりそれは専門高校の、専門学科の学びを更に良くする、更に面白くするっていう選択肢になっちゃったってことなのです。だからその可

能性が1番あるのは、やっぱり専門学科なのだと思います。そして、それがもっと小学生、中学生にとっても地域共有の学びの場になってほしい。我々はそれを提言の中では、地域のSTEAMセンターにしよう、STEAM学習センターとして、専門学科を更にアップデートしようっていう表現にしているのですが、そんな感じなんです。見ていて1番印象的だったのは、実は都立園芸高校の皆さんです。園芸高校の生徒達と、去年、ワークショップを実施しました。経済産業省の研究会に園芸高校の皆さんが7人来てくださって、みんな高1高2ぐらいですね。この子達と関わったときの1番の衝撃は、「君、なんで農業高校に来たの？」って言ったら、まず一言目に、「いや、別に中学のとき勉強が振るわなかったんで、だからこのくらいかなと思って来ました。」と話しました。「今どうなの？」って言うと、「やっぱ勉強する意味がはっきり自分の中で分かっているって、めちゃめちゃ楽しいです。ですけど幾つか不満があって、5、6時間目とかやめてほしいのです。5、6時間目で社会科とかやらされても、どうしても寝ちゃいます。だけどノートを集めたら、それなりに点数取れちゃう。だったら自分は、世界一の薔薇を作るための勉強をしたい。」とはっきり言うのですね。この子は本当に自立的な学習者になった子なんだというのが話しててよくわかります。「だったら、何で君は中学のときそんな勉強しなかったの?」。そしたら、「何で数学やらなきゃいけないのかとか、何で英語やらなきゃいけないのかとか全然分からなかったのです。僕は周りに英語しゃべる人もいなかったし、外国人と付き合ってもいないから英語を学ぶ意味もない。だからボーっとしていたら置いてかれて、1度置いてかれたら置いてかれっ放しだったのです。」。要するに、今やれって言われたことを何で勉強する意味があるのでしょうか、というふうに問う力がある子はこうやって損をしちゃうのです。本当は、

何でこんなことをしなきゃいけないのですかねって聞ける子じゃないと、本当はいけないわけですよ。ですけど、聞けるような子は今の学校では多分、置いてかれちゃうってリスクもあるかなと。我々のチームの仕事の中では、それが1番の矛盾です。しかし、そこから元気に育っていている子たちの姿を含めて見せてもらったのは、農業高校の園芸等のワークショップなのです。それのみならず、専門学科に行っている子達の話というのは非常に印象に残ってしまっていて、これからですが、当然専門学科には今、いろんな課題が沢山現れると思うのです。子供も減っていますし。子供が減っている中で多分再編も進むでしょうし。だけど、再編が進むというのは、冒頭のsociety5.という社会の考えだと、専門学科にとってはすごくプラスだと思うのです。より一層融合していて、より一層他の普通教科との組み合わせみたいなものを自然に表現ができるようになっていくと思います。気付いたら専門学科が世の中の普通になっていますという世界は、作れるんじゃないのか。我々はそこに相当可能性を見出して、ぜひ、東京都教育委員会の皆さんもそうですけども、できる限りいろんな形で一緒に考えさせていただきたいと思っています。これをご縁に、お付き合いいただけたらと思っています。長い時間ありがとうございました。





## 令和元年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

令和元年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校産業教育功労者」に対する表彰式を令和元年 11 月 19 日に全商会館 3 階中会議室で挙行了しました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。西澤会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して江藤巧都立学校教育部長が祝辞を述べました。続いて御来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会副会長庄司一也様、東京都中学校長会会長酒井泰様から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立農芸高等学校小堀紀明校長が謝辞を述べました。

表彰式の出席者は、「御下賜金記念産業教育功労者」22 名中 17 名、「中学校技術・家庭科教育功労者」5 名、「専修学校産業教育功労者」2 名の計 29 名でした。

受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）

### I 御下賜金記念産業教育功労者（22 名）

|                |         |         |
|----------------|---------|---------|
| 東京都立農芸高等学校     | 校 長     | 小 堀 紀 明 |
| 東京都立農芸高等学校     | 副 校 長   | 神 谷 晶 平 |
| 東京都立農産高等学校     | 教 諭     | 江 原 昇   |
| 東京都立中野工業高等学校   | 主 幹 教 諭 | 竹 内 篤   |
| 東京都立中野工業高等学校   | 教 諭     | 石 川 雅 彦 |
| 東京都立練馬工業高等学校   | 主 任 教 諭 | 樋 口 忠 志 |
| 東京都立北豊島工業高等学校  | 主 任 教 諭 | 森 田 雅 弘 |
| 東京都立北豊島工業高等学校  | 主 幹 教 諭 | 星 野 達 哉 |
| 東京都立足立工業高等学校   | 主 任 教 諭 | 山 際 富士雄 |
| 東京都立六郷工科高等学校   | 校 長     | 早 川 信 一 |
| 東京都立第一商業高等学校   | 教 諭     | 山 崎 均   |
| 東京都立第四商業高等学校   | 主 幹 教 諭 | 佐 富 久 美 |
| 東京都立荒川商業高等学校   | 主 幹 教 諭 | 深 田 芳 史 |
| 東京都立葛飾商業高等学校   | 教 諭     | 浅 野 武   |
| 東京都立葛飾商業高等学校   | 教 諭     | 松 本 広 文 |
| 東京都立江東商業高等学校   | 非常勤教員   | 加 藤 哲 次 |
| 東京都立第三商業高等学校   | 校 長     | 中 山 博 之 |
| 東京都立大田桜台高等学校   | 主 幹 教 諭 | 小 林 伸   |
| 東京都立青梅総合高等学校   | 教 諭     | 佐々木 登   |
| 東京都立東久留米総合高等学校 | 主 幹 教 諭 | 竹 田 克 己 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 教 授     | 深 津 拡 也 |

### II 中学校技術・家庭科教育功労者（5 名）

|            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 足立区立第十四中学校 | 主 任 教 諭 | 松 丸 交 子 |
| 青梅市立第六中学校  | 主 幹 教 諭 | 佐 藤 正 孝 |
| 文京区立第八中学校  | 校 長     | 大 塚 悟 子 |
| 八王子市立四谷中学校 | 校 長     | 坂 詰 悦 子 |

江戸川区立松江第一中学校

主任教諭 松浦佳子

### Ⅲ 専修学校産業教育功労者（2名）

日本電子専門学校  
新東京歯科技工士学校

理事 古賀 稔 邦  
教員 鶴飼 芳 行



## 令和元年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の11事業に対し後援を行った。

- 1 商業高校フードグランプリ 2019
- 2 第35回葛飾区産業フェア 工業展・商業展・観光展・農業展・伝統産業展
- 3 第17回創造ものづくりフェア in TOKYO
- 4 第20回全国中学生創造ものづくり教育フェア
- 5 東京都立六郷工科高等学校他3校の企業連携教育成果発表会
- 6 第7回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会
- 7 令和元年度第26回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表会
- 8 第7回多摩地区専門学校チャレンジプログラムシンポジウム
- 9 令和元年度関東工業高等学校校長会大会
- 10 令和元年度全国農業高等学校校長協会関東支部総会並びに研究協議会
- 11 令和元年度第68回全国高等学校農業協会関東支部大会

## 令和元年度 産学懇談会（第1回）

令和元年7月5日（火）14:00～17:00  
学校法人小山学園専門学校東京テクニカルカレッジ

昨年も好評であった産学懇談会は、今年度から年3回開催となりました。過去2回の産学懇談会は、9月から11月間に開催していたため、第1回産学懇談会を7月中に開催することとし、会場校の選定を進めました。実際には総会が6月後半のため、十分な準備期間もなかったのですが、本会理事山本匡氏の小山学園に快諾を頂き、専門学校東京テクニカルカレッジで開催することができました。

小山学園は4校10ジャンル、19学科の総合学園で、1969年に自動車整備士養成の学校として開校し、今年50周年を迎えています。

産学懇談会は、専門学校東京テクニカルカレッジを会場として専門学校東京工科自動車大学校の紹介を含めて行いました。

専門学校東京テクニカルカレッジはJR中央・総武線、都営地下鉄大江戸線東中野駅前に立地し、建築・インテリア、情報・Web・ゲーム、環境・バイオの各分野に多数の学科を有する工業系の専門学校です。

専門学校東京工科自動車大学校の最寄駅は中野駅になりますが、さらに世田谷校・品川校とがあり、東京テクニカルカレッジと合わせて小山学園4校を形成しています。

今回、懇談会の参加者は会場校の学園理事長・学園本部長・校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員

等合わせて47名の参加となりました。

産学懇談会は、本会副会長金子昌男の主催者挨拶、山本匡理事長の会場校挨拶に続いて、高瀬恵

悟学園本部長から学園の紹介、白井雅哲東京テクニカルカレッジ校長から授業の紹介を受けました。



山本 匡 理事長

小山学園の専門性履修システムの特長は

### ■ 独自のステップクリア授業

#### ①5期制⇒短い学期で学習成果を確認

#### ②科目配置⇒ディプロマポリシー（DP）の実現に向けて

ディプロマポリシーと科目の関係を精査する

#### ③シラバス⇒学習成果の見える化

ディプロマポリシーにしたがい各科目の学習成果を、わかる目標・できる目標として明記する

#### ④コマシラバス⇒学習成果達成への詳細

#### 計画

学習成果（わかる目標・できる目標）どのように達成するか、詳細に計画し提示する

#### ⑤授業シート⇒授業目標の設定

90分の授業ごとに、10の授業目標を設定する

#### ⑥授業カルテ⇒授業目標の達成度の確認

ミニテストで学生の理解度（教員の理解させ度）を計測する

### ■ 独自の教育質保証システム

#### ⑦授業評価⇒授業カルテの不合格者等11

#### の評価基準で、90分ごとの授業を数値評価

クラスごとや教員ごとの傾向を分析し、日々の授業改善に役立てる  
の7つに表され、日々計画的に「社会で活躍する力」



を育てる産業教育が実践しているとのこと。  
学びを確実に身に付けさせるという強い意志を感じました。

このような説明を受けたあとの授業参観や施設見学は、参加者それぞれにその視点も明確になり充実したものとなりました。校舎内は階ごとに学科が異なる配置になっており、エレベータを降りると雰囲気ガラッと変わり、その学科の学習に集中できるよう工夫されていました。

#### 【環境・バイオ】



#### 【建築・インテリア】



学生の作品



#### 【情報・Web・ゲーム】



懇談会では、会場校の白井雅哲東京テクニカルカレッジ校長、山口康之東京工科大学校長の説明の後、意見交換が行われました。

学生に社会性を身につけさせるリアルジョブプロジェクト(RJP)という「学科横断企業連携による問題解決型授業」の話題から学習の見える化と教員のモチベーションの関係まで幅広く広がり、教育の質の向上について熱心な話し合いが続きました。

参加者アンケートからは、

「初めての参加となり新しいシステムや考え方等、大変多くのことを学ばせていただきました。自校でも今回の内容を活用し、改善や改良を図っていく所存です。」(高校)

「大変刺激を受けました。学生がとても真剣に授業に取り組んでいるのは先生方の努力だと思いました。」(専修学校)

「初めて参加させて頂きましたが、学生の授業を受ける態度が素晴らしく印象に残っております。、普段聞くことができない他校の授業に対しての取り組みが聞けてよかったです。」(専修学校)

「工業系の専門学校の設備等を見ることができ良かった。授業評価、学びの可視化に早期から取り組みがあると聞き驚くとともに自分の授業に取り入れたい点や取り入れる方法を模索していきたい。」(高校)

等々、成果をうかがわせるものがたくさん寄せられました。高校の教員が専修学校の教育方法と教育環境を知り、専修学校の教員が他の学校・学科を知ることによって、自校の教育についてあらためて課題を見いだすことができることが、この産学懇談会の良さであると感じられました。



## 令和元年度 産学懇談会（第2回）

令和元年10月29日（火）14:00～17:00  
学校法人片柳学園日本工学院八王子専門学校

参加者から生の声が聞きたくて、昨年度から産学懇談会終了時に「アンケート」を実施・回収させていただいております。「今後の産学懇談会への希望」には、「IT関連の学校の取り組みが知りたい。」「IT、ロボットなどの工業系分野を見てみたいです。」との具体的な希望がありました。

そこで、企画推進委員会でその方向性を確認し、ロボット科を有する日本工学院八王子専門学校に依頼し、開催することに至りました。

学校法人片柳学園日本工学院八王子専門学校は、1947年に東京都大田区西蒲田に創立した創美学園を起源とし、1987年に八王子市に開校しており、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を有し、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療・保育」「スポーツ」の7つのカレッジより構成されているカレッジ制専門学校です。



参加者は会場校の校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて49名となりました。

産学懇談会は、本会副会長小堀紀明の主催者挨拶、会場校の前野一夫日本工学院八王子専門学校・日本工学院専門学校長の挨拶から始まりました。学校紹介は山野大星副校長から映像を使った説明を受け、見学へと進みました。

授業参観・施設見学は2班に分かれ行われ、設

置されている多くの学科のうち、「ロボット科」「電子・電気科」「応用生物学科」の授業見学、そして来春開校する「AIシステム科」の設備と「スマートハウス実習棟」の見学を行いました。



前野一男 校長

### 【ロボット科】



### 【AIシステム科】



### 【スマートハウス実習棟】



会場校校長挨拶でもふれられていた「IT関係など3年間で変わる状況、世の中の早い変化にいち早く対応するスキルを磨き社会に送り出すのが専門学校の役目」を体現するような新しい設備の中で学生たちが学んでいる姿はうらやましくも感じました。

次第に沿って懇談会に先立ち順番に自己紹介を行いました。「企業との連携密に行われている。」「未来を見すえての教育が素晴らしい。」「広大な敷地に超ハイテクの設備で学生たちが授業を楽しんでいるようだ。」「学生の挨拶がよい。」等と短い感想を交えて進みました。なかでも会場校との連携を紹介した参加者が複数おり、印象に残りました。競技会出場に備えての連携、研究会への連携など生徒から教員まで幅広い会場校における連携実績の一端を知ることができました。

懇談会の時間は限られたものでしたが、専門高校からみた専門学校に期待することなどを話題の出発点として、意見交換を進めました。

会場校前野校長からは「工業高校生は、小さいときからスマホやプログラムに慣れ、ハードとソフトの結びつきのスキルが高く、高・専連携で目的をもった学生を育てることが期待でき、世界のトップランナーとして働ける人材を育成できる。」という高大連携とは別の産業教育振興会としても心強い高・専連携へも広がりました。

美容、栄養系専門学校、農業高校からも社会との連携について報告があり、工業分野に限定することなく、参加者皆さんによる充実した意見交換となりました。



以下、アンケート結果から感想を抜粋します。  
「施設等が素晴らしい。高校ができることを考えて

いきたい。是非、協同で教育を行っていきたい。」(高校)

「とても勉強になりました。8年前に初めて日本工学院に5人の生徒を送ったことを思い出し、彼らが勉強したであろうことに思いを巡らせました。

先生方との懇談の機会が得られることは、他に少ないので大変ありがたいと思います。」(高校)

「日本工学院専門学校の素晴らしい施設を見させて頂きました。とても良い環境で学習できる生徒がうらやましいと思いました。」(高校)

「規模の大きさ、実学主義で現場の設備を多く取り入れた学習環境など、多くのことを学ばせていただきました。」(高校)

「八王子キャンパスで約1,000人の学生がいることに驚きました。非常に良い学校というイメージをもちました。」(専修学校)

「他分野が行っている授業や設備を見学することができ、非常に参考となりました。」(専修学校)

「業界を発展させる為の人材作りを基に授業を展開されており、本校としても改めて授業内容や設備を見通さなければいけないと考えさせられました。」(専修学校)

「学園の最先端の部分を見せて頂き、驚きと感動を覚えました。“未来を見すえて、今日のプログラムを考える”とても感銘を受けました。」(専修学校)

「設備だけでなく生徒も挨拶をしてくれて、とてもよい気持ちになりました。」(専修学校)

「施設が素晴らしく、大変勉強になりました。

専門学校の分野は違いますが参考にさせていただきます。」(専修学校)

「産学連携について勉強させていただきました。

これからは都立工業高校にも施設や実習・見学等で企業との連携が必要と思いました。」(専修学校)

「高、専、産と各々の立場から意見を聞けてとても興味深かったです。」(専修学校)

「学校のレベル、先進性、指導などなど圧巻です。今後、御校との「産学連携」の可能性を考えさせて頂けたらと思いました。」(産業界)

## 令和元年度 産学懇談会（第3回）

令和元年 11月28日（木）14:00～17:00

東京都立蔵前工業高等学校

年度に3回の産学懇談会を開催するのは、今年度初めての事です。第1回は中野区、第2回は八王子市で開催し、いずれも専修学校のため、地域バランスをも考え合わせ、東京東部にある高等学校を会場校として開催を計画しました。

11月末開催というとなかなか時間がとりにくいのですが、東京都立蔵前工業高等学校に協力を得て開催することができました。

蔵前工業高等学校は、大正13年に創立以来、常に時代の要請に応えるべく、工業技術のスペシャリストを育成する教育活動を行ってきています。全日制課程は機械、電気、建築、設備工業の4学科を設置し、定時制は建築工学科を設置しています。

就職希望者の内定率は、ほぼ100%。大学進学希望者にも普通科に見劣りしない多くの指定校推薦があるとのことです。



参加者は会場校の校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて32名となりました。

産学懇談会は従前の「挨拶」「見学」「懇談」というパターンを変え、「授業・施設見学」から始めました。これは学校の時程にあわせ、6時間目の時間帯を見学するためです。

2班に分かれた参加者は、全日制山本副校長、定時制佐々木副校長の二人の案内・引率により、機械科の実習と建築科・設備工業科の製図授業を見学し、その他、設備や生徒作品を見学しました。校舎は8階建て、エレベータも使用しての約1時

間の見学となりました。

### 【機械科】

学校の歴史をも感じさせる重厚な六尺旋盤を操作し、切削加工をしている生徒。無駄話など、一切ないなかで、黙々と作業（課題）が進められていました。（工業高校機械科で使われている一般的な旋盤より、一回り大きいとのことでした。）



### 【校舎内廊下】

きれいに磨かれた廊下には、ごみ一つ見当たりません。また、過去の優秀作品など生徒作品の展示や課題紹介スペースにもなり、学科の意識醸成に役立っているようでした。

「特別なことはしていません。ただ、生徒はゴミを落とさないのです。安全教育には、こだわりがあります。それは、工業は危険と隣り合わせです。大切なことは、整理整頓です。」と三神校長。



### 【建築科】

それぞれに合った角度、高さの製図版に正対し、図面に黙々と鉛筆で線を引いている。「私にはあん

なに長い時間集中できない。」と参加者から感想があったくらいに黙々と作品に向かい合っていました。おそらく5・6校時の2時間連続授業、一番集中している時間帯なのでしょう。シャープペンシルの芯先に注意を払いつつ、一本一本線を加えていました。



### 【設備工業科】

空調システムの実習装置とのこと、このように



まとめられた設備は他に例がないらしく、企業からも使いたいと希望が寄せられているそうです。

### 【電気科】

見学の時間帯は電気科の実習授業はなく、廊下の展示物を見学しました。電気工事士試験合格者の紹介など掲示され、日常的に各自の目的や目標が再確認できるようです。

### 【生徒による学科紹介】

ホームルームが終了するまで懇談会を休憩とし、生徒たちの到着を待って学科紹介に入りました。

生徒たちはプレゼンテーションソフトを使い、それぞれの学科の紹介を行い、その学科へ進学した自分の動機や将来について述べました。

このような生徒によるプレゼンは、参加者にも新鮮に受け取られ、大変好評なものになりました。

全日制4学科紹介の後に定時制の紹介が佐々木



副校長からありました。

### 【懇談会・意見交換】

会長西澤宏繁の主催者挨拶、三神幸男校長の会場校挨拶に続き、参加者全員による自己紹介・感想を共有しあい、時間の関係で意見交換はなしとし、質問への会場校回答のみとして本日の産学懇談会の成果を確認しました。

確かな工業教育への賞賛が多く、行政からも「生徒たちの確りとした実習の取り組みを見て、私たちの仕事はまだまだあると思う。」という言葉も。副会長の東京商工会議所理事・事務局長小林治彦の謝辞にて終了となりました。



三神幸雄 校長

### 【アンケートより】

- ・生徒の生き生きした姿、多様な進路、資格取得指導と感銘を受けました。(産業界)
- ・普段なかなか体験できない見学をさせていただきありがとうございました。(中学校)
- ・ちょっと未来の工業をどのように考えて教育しているのか興味を持ちました。(高校)
- ・在学中に未来像が明確化され、人生設計を確りと築かれていることは素晴らしく、勉強させていただく事の多い会となりました。ありがとうございます。(専修学校)



# 令和元年度 第 30 回東京都産業教育振興会作文コンクール

## (1) 入選者一覧

令和元年度の「作文コンクール」の応募作品数は、中学校の部では 29 校 183 作品、高等学校・専修学校の部では高等学校が 15 校 95 作品、専修学校が 3 校 20 作品で、全体総数では 47 校 298 作品でした。昨年度（平成 30 年度）の応募作品数が、中学校の部では 29 校 152 作品、高等学校・専修学校の部では高等学校が 23 校 147 作品、専修学校が 3 校 14 作品で、全体総数では 55 校 313 作品でしたので、全体としては応募校、応募作品数ともに若干減少しました。

応募作品はそれぞれの部の選考委員による第一次選考、第二次選考を経て中学校の部では 19 作品（最優秀 1、優秀 2、佳作 16）、高等学校・専修学校の部では高等学校が 15 作品（最優秀 1、優秀 1、佳作 13）、専修学校が 3 作品（最優秀 1、優秀 2）、合計では 37 作品、イラストの部は 5 作品の応募があり、1 作品をイラスト賞として決定しました。入選作品の題名及び入選者は以下のとおりです。

### 中学校の部

|                        |                 |     |         |
|------------------------|-----------------|-----|---------|
| 最優秀賞 「働く」とは何か          | 東京都立桜修館中等教育学校   | 3 年 | 清 水 結 子 |
| 優 秀 賞 両方取れば良いんじゃない？    | 大田区立大森第一中学校     | 3 年 | 東海林 千 仁 |
| 優 秀 賞 人生の大先輩           | 東京都立大泉高等学校附属中学校 | 2 年 | 横 山 千 琴 |
| 佳 作 やすりがけ              | 新宿区立西早稲田中学校     | 3 年 | 鈴 木 円 花 |
| 佳 作 木馬と父               | 新宿区立西早稲田中学校     | 3 年 | テッリンスィウ |
| 佳 作 調理実習で学んだこと         | 新宿区立西早稲田中学校     | 3 年 | 平 泉 輝 将 |
| 佳 作 ボランティアから生まれる感情     | 墨田区立文花中学校       | 3 年 | 石 島 咲 良 |
| 佳 作 私の夢                | 墨田区立吾嬬立花中学校     | 3 年 | 山 下 夢 翔 |
| 佳 作 責任と喜び              | 江東区立大島中学校       | 3 年 | 古 川 智 加 |
| 佳 作 ボランティアを通じて         | 江東区立深川第七中学校     | 3 年 | 沼 田 陽 菜 |
| 佳 作 情報技術と地球環境          | 北区立赤羽岩淵中学校      | 3 年 | 進 藤 千 歳 |
| 佳 作 挑戦から始まる世界          | 北区立稲付中学校        | 3 年 | 伊 藤 沙 保 |
| 佳 作 新しい社会とスマート農業       | 北区立稲付中学校        | 3 年 | 福 島 有 紀 |
| 佳 作 受験生の決意             | 北区立稲付中学校        | 3 年 | 森 美 郷   |
| 佳 作 勤労留学から学んだこと        | 荒川区立第七中学校       | 2 年 | 川 村 真 歩 |
| 佳 作 縁の下での力持ちになるために     | 江戸川区立松江第五中学校    | 3 年 | 村 山 想   |
| 佳 作 職場体験やボランティア体験で得ること | 調布市立第八中学校       | 1 年 | 山 口 朋 佳 |
| 佳 作 つくることの喜び           | 町田市立真光寺中学校      | 3 年 | 福 島 史 弥 |
| 佳 作 人とつながる仕事           | 東京都立桜修館中等教育学校   | 3 年 | 神 崎 朱 由 |

### 高等学校の部

|       |                  |                |    |         |
|-------|------------------|----------------|----|---------|
| 最優秀賞  | ホスピタリティ          | 岩倉高等学校         | 3年 | 長 廣 悠 真 |
| 優 秀 賞 | 人に夢を与える          | 東京都立瑞穂農芸高等学校   | 2年 | 瀧 瀬 妃 菜 |
| 佳 作   | これからの農業支援        | 東京都立農芸高等学校     | 2年 | 大 川 博 子 |
| 佳 作   | 漬物の魅力と消費量の拡大について | 東京都立農産高等学校     | 2年 | 但 田 愛 菜 |
| 佳 作   | 生命から学んだこと        | 東京都立瑞穂農芸高等学校   | 2年 | 清 水 杏 樹 |
| 佳 作   | 食品ロスについて         | 東京都立忍岡高等学校     | 3年 | 齋 藤 麗 菜 |
| 佳 作   | スマートアイランドプロジェクト  | 東京都立大島高等学校     | 3年 | 梅 田 桃 馬 |
| 佳 作   | 島の産業と生態系を守るために   | 東京都立大島高等学校     | 3年 | 川 崎 大 洋 |
| 佳 作   | ジャポネイラレモンプロジェクト  | 東京都立大島高等学校     | 3年 | 杉 山 柊 斗 |
| 佳 作   | 学校の先生            | 東京都立大島海洋国際高等学校 | 3年 | 松 川 まりも |
| 佳 作   | はたらく意味           | 岩倉高等学校         | 3年 | 高 橋 李 央 |
| 佳 作   | 我が双肩に担う          | 岩倉高等学校         | 3年 | 千 葉 聖 仁 |
| 佳 作   | 将来の夢             | 岩倉高等学校         | 3年 | 福 田 優 也 |
| 佳 作   | 想いを形に            | 日本工業大学附属駒場高等学校 | 2年 | 小 田 翔 大 |
| 佳 作   | 偏見を無くして見えてきた将来   | 日本工業大学附属駒場高等学校 | 2年 | 滝 澤 壮 太 |

### 専修学校の部

|       |                    |            |    |         |
|-------|--------------------|------------|----|---------|
| 最優秀賞  | 変化と不変 社会での経験が今に活きる | 青山製図専門学校   | 1年 | 中 村 直 也 |
| 優 秀 賞 | 旅の途中               | 青山製図専門学校   | 1年 | 渡 邊 あゆみ |
| 優 秀 賞 | 自分と相手の個性           | 国際理容美容専門学校 | 1年 | 羽 田 愛 華 |

### イラストの部

|       |  |            |    |         |
|-------|--|------------|----|---------|
| イラスト賞 |  | 東京都立農産高等学校 | 1年 | 磯 尾 梨 乃 |
|-------|--|------------|----|---------|

## (2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

### 「働く」とは何か

東京都立桜修館中等教育学校 3年 清水 結子

私は、中学二年生の十月に、保育園へ職場体験に行った。職場体験を行った上で、私は事前学習、本番、事後学習の、三つの観点で学んだことがあった。

最初は、「働くとは何か」という授業があった。その論題についてグループになって話し合った。そして、私のグループは、「社会に貢献し、その分の報酬をもらうこと。」という内容にまとまった。しかしこれは、答えが決められたものではなく、人によって違うものであると考えた。また、職業選択する際に考えるべきことも学んだ。生活できる収入であるか、失業することはないかという「経済的側面」、世の中で求められている技術や能力なのか、という「社会的側面」、自分のやってみたいことなのか、という「個人的側面」だ。以上の三つを考える必要があるのだと思った。

また、職業をタイプ別に分けるときに、人を教える職業、物を作る職業など、全部で八種類ものタイプがあり、驚いた。そして、職業によっては、資格や免許が必要なものもあった。

事前学習をすることによって、働く意義や職業の種類など、多くのことを学ぶことができたため、今後の人生に生かしていきたいと思った。

そして、本番の日になった。

最初に行ったのは、子供たちが来る前に、掃除することだ。私は、保育園内だけを掃除するのだと思っていたが、園の外の道路や公園などもきれいにした。正直最初は、わざわざ外まで掃除する必要はないのでは、と思っていた。しかし、掃除をしていると、道行く人々に「おはよう」や「ありがとう」など、たくさんの言葉をかけられ、三日目には楽しみにもなっていた。このことから、仕事というのは決してお金もうけのためだけでなく、自分に達成感を与えてくれたり、人とのつながりを深めてくれるものであると学んだ。

また、園児との交流では、自分にとっては危険ではないものも、園児にとっては危険になってしまうこともあるのだと感じた。何事も、子供の目線になって考えることが大切なのだと思う。そして、普段自分が当たり前だと思っていたことも、園児に「なぜ」と聞かれることが多くあった。そのときに、人に物を説明する大変さを学んだ。

また、園児と遊んでいる際に、転んでしまった子がいた。私はそれを見て、すぐにおきあがらせようとした。しかし、職場の方に、「できるだけ自分でやらせてあげて」と言われた。私はそれを聞いて、子供の成長のためには、時には自分でやらせてあげることも大切なのだと思う。

私が三日間の中で一番大変だったのは、園児が帰った後の仕事である。少しの異物、ごみでも園児にとっては危険なため、朝以上に念入りに掃除をした。また、窓に貼る装飾を丁寧に作った。園児たちが帰った後も仕事がたくさんあるのだと感じた。

また、私は、先生方の園児たちへの愛情を感じた。「〇〇ちゃんが最近一人でトイレへ行けるようになったよ。」「〇〇ちゃんが〇〇ちゃんが転んでいたのを助けていたよ。」「〇〇ちゃんが恥ずかしがらずに踊れるようになったよ。」など、三日間一人一人の成長したところを話し合っていた。この会話から、先生方は本当に園児を大切に思っているのだと思った。

職場体験の最後に、園長先生にインタビューをした。「この仕事のやりがいとは何か」と質問すると、「一番は子供の成長が見られること。昨年できなかったことができるようになっていて、とても嬉しくなる。」と答えてくださった。私もそれはとても大切なことだと思い、何より、それがこの仕事の一番の意義ではないかと考えた。この他にもいくつか質問をし、どれも心に残る答えをしてくださった。

職場体験で最も印象に残ったのが、笑顔である。保護者の方、先生方、園児の笑顔があふれていた。全ての人が互いに信頼し合っているように感じ、保育園に限らず、どの仕事でも人と人との信頼関係は重要だと思った。

事後学習では、お礼状を書き、体験内容をレポートや新聞にまとめた。また、職場の方が撮ってくださった写真を見て、自分の成長を感じることができた。

今回の体験を通して、働くとは何か、考えることができた。お金以上に大切なものが得られる、というのはすばらしいことだと思った。これから先、進路を決める上で、職業を選択する時がくると思う。その時は、不安にならずに、今回体験したことを思いだしたい。そして、自分が納得できることを全力で行いたい。

\*\*\*\*\*

高等学校の部 最優秀賞

ホスピタリティ

岩倉高等学校 3年 長廣 悠真

「バリアフリー」最近よく耳にする言葉だ。そして、よく形として見受けられるようになった。例えば、段差を小さくしたノンステップバス、高さの低い自動販売機、そして、駅のホームなどに増えてきているエレベーターもバリアフリーへの取り組みの一つだといえるだろう。バリアフリーとは、体が不自由な方やお年寄りの方などにとって障壁となるものを取り除く施策を意味する。しかし、その普及がまだまだだというのが現状だ。

私は高校二年生の時、「ホスピタリティ」という授業を受けた。その授業では、体の不自由な方やお年寄りの方と、どのようにコミュニケーションを取るべきなのかを学んだ。最初の段階では、特性を理解し、どのようなことを求めているのかを知ることから始めた。その後、二人組になり高齢者疑似体験や車いす体験をした。高齢者疑似体験では、白内障の方の見え方に近づけるために専用のゴーグルを付けたり、聴力を低下させるためにヘッドホンを付けたり、また、動きを鈍くするために手足に重りを付けたりして学校内を一周した。普段歩き慣れている廊下や階段を一步進むだけでも一苦勞で、何よりも足を踏み外さないかなどの恐怖が強かった。人間、五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）の一つでも欠けてしまうと私たちにとってできていることが難しくなるということを実感した。そして、すぐにそのような方を街中で見かけたら手助けしようと思う。しかし、その後の授業でこんなことを学んだ。「見守るサポート」というもの。もちろん、手助けをすることは大切なことだが、必要以上にしてしまうと、お年寄りの方は人生の先輩であるため、子ども扱いを受けているように感じられ、プライドが傷つくかもしれない。そのため、直接的なサポートに加えて自分自身で何かを頑張っている最中には近くで見守るサポートをすることも大切なのだ。

そんな中、ある日の学校からの帰宅途中、ポンポンと肩を叩かれたので振り向くと、外国人観光客と思われる二人の男性から声をかけられた。そしてスマートフォンの画面を私に見せてきて、ここに今から行きたいと指差した。その目的地へ行くには途中駅での乗り換えが必要だった。普段、外国人観光客から尋ねられることはしばしばあったので、いつものように不器用ながら簡単な英語を話して伝えてみた。しかし、表情を見ると伝わっていない様子だった。今度はもう少しはっきりと話してみた。しかし

それでも伝わらない。私の発音がおかしいのかなと最初は思い、その後も何度か頑張ってみたものの、何か様子が違う。実は、耳の不自由な方だったのだ。これまで冷静に対応できていたが、二人の状況を理解した途端、少し私自身の気持ちの中に焦りが出始めた。どのようにして伝えればいいのかと。それでも、何とかしてこの二人の力になりたい。そう決心して一度気持ちを整理した。そうすると、ふとホスピタリティで学んだ、耳の不自由な方とのコミュニケーションの仕方を思い出した。「手話」はできないので、「ジェスチャー」を使って乗り換えの駅名や目的地に着く時刻などを伝えた。また、場所の位置関係はジェスチャーでは伝わりにくいので、ポケットに入っていた手帳に書いて伝える「筆談」を交えた。そのように私自身できることを最大限に使って伝えてみると、先ほどまでとは違って明るい笑顔をみせてくれた。とても安心している様子がうかがえた。私もその様子を見て嬉しかった。そして、二人が電車に乗り、出発して行く姿を見届けた。

学校で学んだことを使える日がくるとは思わなかったもので、この日を機にホスピタリティはもちろん、その他の科目への取り組む姿勢が変わった。今まではただ、ノートに板書を写し、試験前にはそれを見返して勉強をするのが普通であったが、今では、授業中に、「何でそのようになるのだろう。」「もし～だったらどうなるのかな。」などと考えながら取り組めるようになった。

現在、高齢者(六十五歳以上)の方の総人口に占める割合が約三十パーセントになっている日本。この先も高齢化は進むだろう。また、誰にでも私が体験したように身体が不自由な方への対応をしたことが日常の中で起こり得るかもしれない。そのようなことに対応していくためには今以上にバリアフリーへの取り組みの強化が必要になってくるのではないだろうか。しかし、そのような「モノ」だけに頼っていても完璧な対応をすることはできないだろう。確かに最近急速な人工知能の普及により「ヒト」から「モノ」へ役目に変化する世の中になった。しかし、もしあなたが助けを求めているとすれば、人間と機械のどちらの対応が真のコミュニケーションと言えるだろうか。本当にこれから必要なのは私たち人間にしかできない温かい対応なのかもしれない。温かい対応とは、一人ひとりの個性に寄り添った、いわゆる前文で記した「見守るサポート」だと考える。

ホスピタリティとは何か、正確な答えを出すことは難しいが、僅かながら授業で学んだ私が考えるホスピタリティとは、「人間らしい生活を送るために人間同士が支え合うこと」である。私はその一部をあの日帰り途中に体験したが、それだけでもホスピタリティの素晴らしさを実感した。これからは更に、幅広く、的確に物事を相手に伝えられるよう手話などの難しいことにも挑戦していきたい。

\*\*\*\*\*

#### 専修学校の部 最優秀賞

## 変化と不変 社会での経験が今に生きる

青山製図専門学校 1年 中村 直也

平成から令和へ移り変わり、オリンピックを翌年に控える日本は今、人材活用の面で大きな転換点を迎えている。働き方改革に伴い労働環境や雇用体系は目まぐるしく変化し、売り手市場によって人手不足が生じ、企業は省人化対策やAIの活用、外国人登用など官民が連携し政策をとっている。これから社会に出て働く者にとっては売り手市場によって環境が良い反面、ヒトだけでなくAIや外国人などライバルが多く存在し、個々のスキルが大きく問われる実力主義的な世の中になることが想定される。そのような状況下でもこれから社会に出て働くということは大変な反面、いかにやりがいがあり、尊いことなのかを自身の体験を踏まえながら論じていきたい。

私はリーマンショックの最中に大学へ入学し、東日本大震災の年に就職活動を行い、ドル円の為替レ

トが80円を切る異常な円高の中、証券会社へ入社した。当然、現在とは大きく異なり就職氷河期の真っ只中であった為、就職活動は相当に苦労した。日経平均株価は最安値であったこともあり、親戚には何故よりによって証券会社なのかと言われてしまう始末だった。その後、入社年後半に政権交代が起き、安倍・黒田両トップによる金融緩和政策によって相場は大きく好転した。当然企業の株価は上昇し、主要産業が輸出業の日本にとって円安への転換は企業の利益を大きく押し上げた。これが今も続く経済好環境の始まりであり、企業の採用も大きく変化し売り手市場化していく。私も相場の波に乗り、証券マンとして実績を積んでいた。どの株式でも上昇し、お客様に喜んで頂ける好循環の中で仕事できたことは、私を大きく成長させると同時に大きな慢心となって今後跳ね返ってくることになる。株価上昇は一方通行で続くはずもなく、チャイナショックにより大きく下降していく。これまでのお客様との良好な関係は180度変化し連日お叱りを受け謝罪をするという日々へ変わる。顧客満足度の向上などの取引規制の強化・厳格化の波が押し寄せ、働くことが本当に辛かった。しかし今考えてみるとこの経験が今の自分を大きく変化させる要因となっている。自分ありきではなく、いかに取引相手のことを思うか。そして決められた規則や時間制限の中で、要領良く効率良く業務を進められるかの2点である。例えば初動の大切さ。悪いことをしたら謝るのは子供でもできる当たり前のことだが、大人になると意外と難しい。怒られたくない気持ちや無駄に賢くなったせいで逃げ方を知り、なんとかその場をやり過ごそうとする。これがいかに愚かな行いなのかは実際に経験して身に沁みないとわからない。企業トップの謝罪記者会見などでも初動対応の甘さが事態を大きくするように、初動対応はどんなビジネスの場でも重要な共通事項である。また働き方改革に伴い、各個人の時間管理が難しくなっている。限られた時間の中で計画を立て、その日のスケジュールを逆算しながら着実に行動していくことは少し前の時代より重要なウェイトを占める。時間管理を癖づけることが出来ていれば、社会に出て通用する人材になるのは早い。

様々なことを学んだ社会人生活に転機があったのは去年のことだ。7年間勤めた会社を離れ、幼少の頃からの夢であった建築の道を志すことを決断した。自分でもかなり思い切ったことをしたと思う。一回り歳の離れた学生が多い環境になじめるかどうか、また文系で育った環境から緻密さや発想力が多く求められる学習内容はついていけるかなど心配事は尽きなかった。だが実際に学校に通ってみると心配事は杞憂に終わり、毎日新しいことを学ぶことは本当に楽しい。製図やPC操作の技術は目に見える形で向上し、今まで普通に歩いていた街並みも捉え方が大きく変わった。過去の建築史を彩る偉人の建築物に思いを馳せ、それが現代にも現存している奇跡は建築に生きる者の大きな生き甲斐であり、私自身もそんな建築物を設計することが大きな夢となっている。学校へ入ったことで考え方が大きく変わることはない。今まで培った社会人生活の経験は大きく役立っている。殊に時間管理の癖づけにおいては学校でも同じである。期限までに課題を提出することや、自身で目標設定をして資格取得に励む勉強への取り組み方は働いている時と同様、主体がお客様でなく自分に変わっただけで大いに役立っている。また年下の多くいる環境下では私が再就職後に管理職となった際、部下をまとめ上げる時の予行練習として、多くの関わりを持つように心がけている。受け身になることなく能動的に今の環境を楽しむことは私自身を大きく成長させてくれている。長いようであつという間の学生生活の中で多くを学び、吸収しそれをアウトプットすることを心掛けていきたい。

働くということは尊いことである。最後にこれを伝えたい。人が動くと書いて働くであるが、何も動くのは身体だけではない。社会に出ることで成功体験を得ることもあれば、自分自身の甘さを痛感することもある。気持ちが大きく動くことで人はより成長できる。高収入を得ることも大切なことだが、それは結果であって目的ではない。ゴールではないと思っている。社会人での経験が今の学生生活にも影響を及ぼし、それが今後の人生においても良い作用をすると信じて、今の自分と逃げずに向き合っていきたい。

## (3) 応募校一覧・応募数の推移・テーマ別応募数等

## &lt; 中学校の部 &gt;

| 番号 | 区・市名 | 学 校 名           | 応募数 | 入選数 |
|----|------|-----------------|-----|-----|
| 1  | 中央区  | 中央区立佃中学校        | 10  |     |
| 2  | 新宿区  | 新宿区立牛込第二中学校     | 1   |     |
| 3  |      | 新宿区立西早稲田中学校     | 4   | 3   |
| 4  | 文京区  | 文京区立第九中学校       | 8   |     |
| 5  | 墨田区  | 墨田区立吾嬬第二中学校     | 5   |     |
| 6  |      | 墨田区立文花中学校       | 4   | 1   |
| 7  |      | 墨田区立寺島中学校       | 10  |     |
| 8  |      | 墨田区立吾嬬立花中学校     | 4   | 1   |
| 9  | 江東区  | 江東区立大島中学校       | 8   | 1   |
| 10 |      | 江東区立南砂中学校       | 6   |     |
| 11 |      | 江東区立深川第七中学校     | 2   | 1   |
| 12 | 品川区  | 品川区立荏原平塚学園(中学校) | 1   |     |
| 13 | 大田区  | 大田区立大森第一中学校     | 1   | 1   |
| 14 |      | 大田区立大森第六中学校     | 10  |     |
| 15 | 杉並区  | 杉並区立松溪中学校       | 1   |     |
| 16 | 北区   | 北区立赤羽岩淵中学校      | 8   | 1   |
| 17 |      | 北区立稲付中学校        | 9   | 3   |
| 18 | 荒川区  | 荒川区立第七中学校       | 10  | 1   |
| 19 | 足立区  | 足立区立第十中学校       | 9   |     |
| 20 |      | 足立区立西新井中学校      | 10  |     |
| 21 | 葛飾区  | 葛飾区立四ツ木中学校      | 10  |     |
| 22 |      | 葛飾区立堀切中学校       | 7   |     |
| 23 | 江戸川区 | 江戸川区立松江第五中学校    | 3   | 1   |
| 24 | 調布市  | 調布市立第八中学校       | 2   | 1   |
| 25 | 町田市  | 町田市立真光寺中学校      | 10  | 1   |
| 26 | 新島村  | 新島村立新島中学校       | 1   |     |
| 27 | 東京都  | 東京都立大泉高等学校附属中学校 | 10  | 1   |
| 28 |      | 東京都立桜修館中等教育学校   | 10  | 2   |
| 29 | 私立   | 愛国中学校           | 9   |     |
| 合計 |      |                 | 183 | 19  |

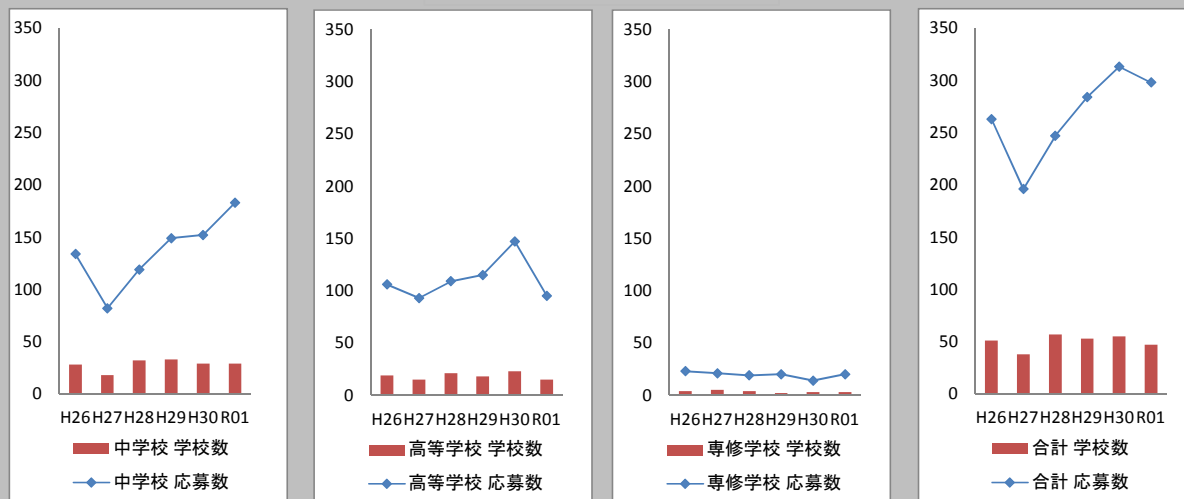
## &lt; 高等学校・専修学校の部 &gt;

| 番号 | 学 校 名          | 応募数 | 入選数 |
|----|----------------|-----|-----|
| 1  | 東京都立農芸高等学校     | 4   | 1   |
| 2  | 東京都立農産高等学校(全)  | 3   |     |
| 3  | 東京都立農産高等学校(定)  | 1   | 1   |
| 4  | 東京都立農業高等学校     | 10  |     |
| 5  | 東京都立瑞穂農芸高等学校   | 9   | 2   |
| 6  | 東京都立荒川商業高等学校   | 1   |     |
| 7  | 東京都立葛飾商業高等学校   | 1   |     |
| 8  | 東京都立第三商業高等学校   | 9   |     |
| 9  | 東京都立忍岡高等学校     | 10  | 1   |
| 10 | 東京都立大島高等学校     | 6   | 3   |
| 11 | 東京都立大島海洋国際高等学校 | 10  | 1   |
| 12 | 東京都立八丈高等学校     | 7   |     |
| 13 | 愛国高等学校         | 10  |     |
| 14 | 岩倉高等学校         | 7   | 4   |
| 15 | 日本工業大学 駒場高等学校  | 7   | 2   |
| 小計 |                | 95  | 15  |
| 1  | 青山製図専門学校       | 9   | 2   |
| 2  | 国際理容美容専門学校     | 10  | 1   |
| 3  | 中央工学校          | 1   |     |
| 小計 |                | 20  | 3   |
| 計  |                | 115 | 18  |

## (まとめ)

| 校 数 (入選校数)   | 応募数 | 入選数 |
|--------------|-----|-----|
| 中学校 29校(14校) | 183 | 19  |
| 高等学校 15校(9校) | 95  | 15  |
| 専修学校 3校(2校)  | 20  | 3   |
| 総 計 47校(25校) | 298 | 37  |

## 応募数・応募校の推移



|     | 中学校 |     | 高等学校 |     | 専修学校 |     | 合計  |     |
|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
|     | 応募数 | 学校数 | 応募数  | 学校数 | 応募数  | 学校数 | 応募数 | 学校数 |
| H26 | 134 | 28  | 106  | 19  | 23   | 4   | 263 | 51  |
| H27 | 82  | 18  | 93   | 15  | 21   | 5   | 196 | 38  |
| H28 | 119 | 32  | 109  | 21  | 19   | 4   | 247 | 57  |
| H29 | 149 | 33  | 115  | 18  | 20   | 2   | 284 | 53  |
| H30 | 152 | 29  | 147  | 23  | 14   | 3   | 313 | 55  |
| R01 | 183 | 29  | 95   | 15  | 20   | 3   | 298 | 47  |

## 応募数の変化(前年度から見た変化)

| 校種   | 平成28年度(2016) |      | 平成29年度(2017) |      | 平成30年度(2018) |      | 平成30年度(2018) |      | 令和元年度(2019) |      | 平均<br>応募数 |
|------|--------------|------|--------------|------|--------------|------|--------------|------|-------------|------|-----------|
|      | 応募数          | 増減   | 応募数          | 増減   | 応募数          | 増減   | 応募数          | 増減   | 応募数         | 増減   |           |
| 中学校  | 134⇒82       | 39%減 | 82⇒119       | 45%増 | 119⇒149      | 25%増 | 149⇒152      | 2%増  | 152⇒183     | 20%増 | 137       |
| 高等学校 | 106⇒93       | 12%減 | 93⇒109       | 17%増 | 109⇒115      | 6%増  | 115⇒147      | 28%増 | 147⇒95      | 36%減 | 112       |
| 専修学校 | 23⇒21        | 9%減  | 21⇒19        | 11%減 | 19⇒20        | 5%増  | 20⇒14        | 30%減 | 14⇒20       | 43%増 | 19        |
| 総数   | 263⇒196      | 25%減 | 196⇒247      | 26%増 | 247⇒284      | 15%増 | 284⇒313      | 7%増  | 313⇒298     | 5%減  | 268       |

## 作文コンクール 入選数の集計

| 校種   | 平成27年度(2015) |     |    | 平成28年度(2016) |     |    | 平成29年度(2017) |     |    | 平成30年度(2018) |     |    | 令和元年度(2019) |     |    | 平均% |
|------|--------------|-----|----|--------------|-----|----|--------------|-----|----|--------------|-----|----|-------------|-----|----|-----|
|      | 応募数          | 入選数 | %  | 応募数          | 入選数 | %  | 応募数          | 入選数 | %  | 応募数          | 入選数 | %  | 応募数         | 入選数 | %  |     |
| 中学校  | 82           | 13  | 16 | 119          | 18  | 15 | 149          | 23  | 15 | 149          | 23  | 15 | 183         | 19  | 10 | 14  |
| 高等学校 | 93           | 14  | 15 | 109          | 17  | 16 | 115          | 18  | 16 | 115          | 18  | 16 | 95          | 15  | 16 | 16  |
| 専修学校 | 21           | 3   | 14 | 19           | 3   | 16 | 20           | 4   | 20 | 20           | 4   | 20 | 20          | 3   | 15 | 17  |
| 総数   | 196          | 30  | 15 | 247          | 38  | 15 | 284          | 45  | 16 | 284          | 45  | 16 | 298         | 37  | 12 | 15  |
| 参考   | 選考要領は15%程度   |     |    | 選考要領は15%程度   |     |    | 選考要領は15%程度   |     |    | 選考要領は15%程度   |     |    | 選考要領は15%程度  |     |    |     |



## 作文のテーマ別応募数一覧

## 【作文の内容】

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- ・中学校における技術・家庭科の学習
- ・高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- ・勤労に関わる体験的な学習

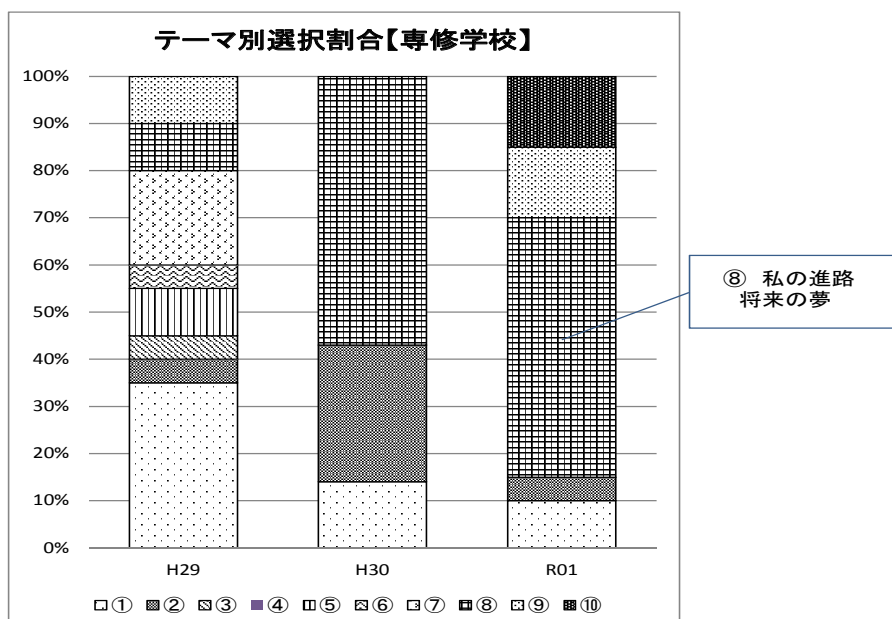
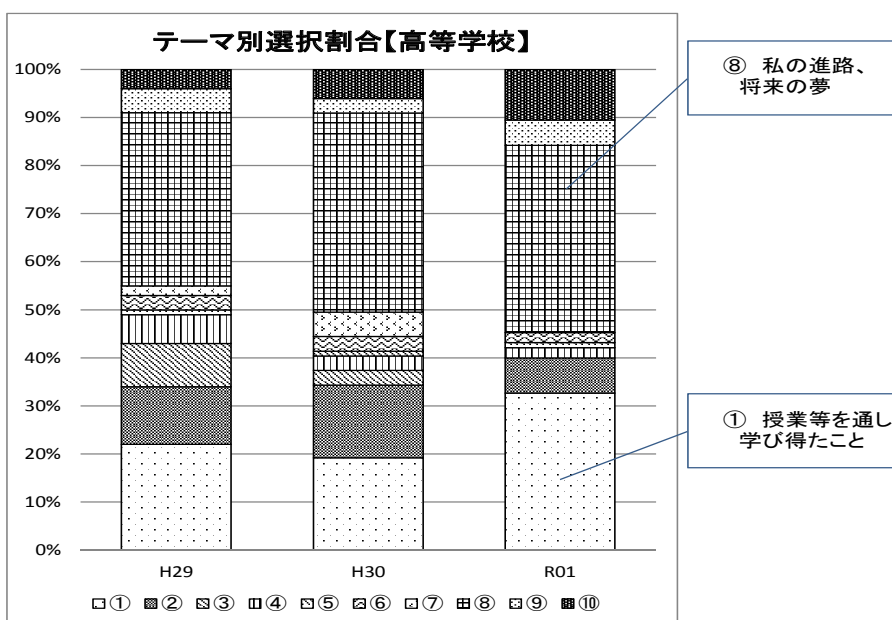
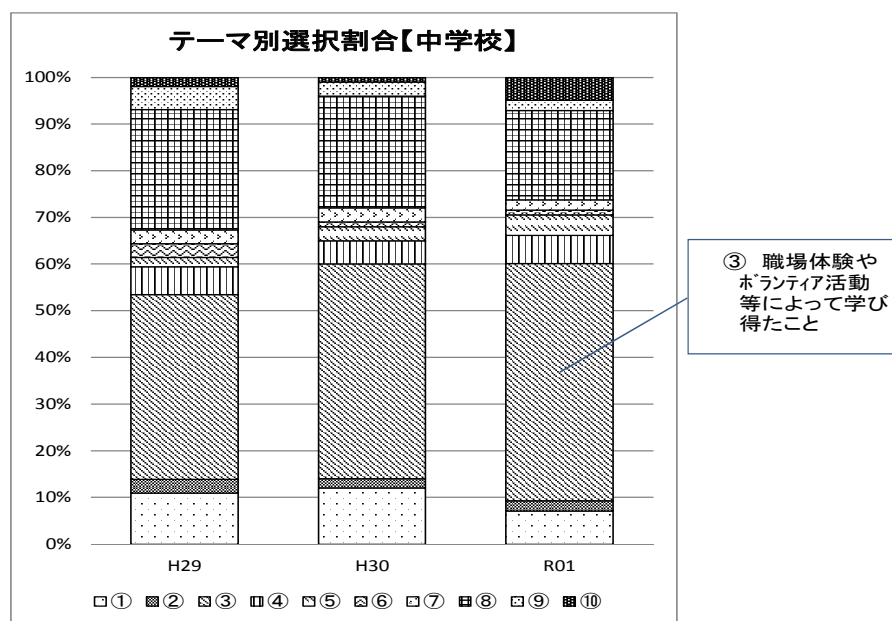
## 【テーマ】

作文の内容について、次のテーマ番号(①～⑩)から関係するものを選択して応募票の欄に記入する。

- ①授業等を通して学び得たこと
- ②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと
- ③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- ④つくることの喜び、ものづくりの喜び
- ⑤働くことの喜び
- ⑥学習に対する心構え
- ⑦私の生きがい
- ⑧私の進路、将来の夢
- ⑨私の職業観
- ⑩その他

## テーマ別選択肢とその割合

| テーマ<br>番号 | 中学校の部 |     |     |     |     |     | 高等学校の部 |     |     |     |     |     | 専修学校の部 |     |     |     |     |     |
|-----------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
|           | H29   |     | H30 |     | R01 |     | H29    |     | H30 |     | R01 |     | H29    |     | H30 |     | R01 |     |
|           | 選択肢   | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢    | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢    | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% |
| ①         | 17    | 11  | 19  | 13  | 13  | 7   | 26     | 22  | 29  | 19  | 31  | 33  | 7      | 35  | 2   | 14  | 2   | 10  |
| ②         | 4     | 3   | 4   | 3   | 4   | 2   | 14     | 12  | 23  | 15  | 7   | 7   | 1      | 5   | 4   | 29  | 1   | 5   |
| ③         | 63    | 40  | 70  | 47  | 93  | 51  | 11     | 9   | 5   | 3   | 0   | 0   | 1      | 5   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ④         | 9     | 6   | 7   | 5   | 11  | 6   | 7      | 6   | 5   | 3   | 2   | 2   | 0      | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ⑤         | 3     | 2   | 0   | 0   | 8   | 4   | 1      | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 2      | 10  | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ⑥         | 4     | 3   | 1   | 1   | 2   | 1   | 4      | 3   | 5   | 3   | 2   | 2   | 1      | 5   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ⑦         | 4     | 3   | 5   | 3   | 4   | 2   | 2      | 2   | 7   | 5   | 0   | 0   | 4      | 20  | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ⑧         | 41    | 26  | 36  | 24  | 35  | 19  | 43     | 36  | 61  | 41  | 37  | 39  | 2      | 10  | 8   | 57  | 11  | 55  |
| ⑨         | 8     | 5   | 5   | 3   | 4   | 2   | 6      | 5   | 4   | 3   | 5   | 5   | 2      | 10  | 0   | 0   | 3   | 15  |
| ⑩         | 3     | 2   | 2   | 1   | 9   | 5   | 5      | 4   | 9   | 6   | 10  | 11  | 0      | 0   | 0   | 0   | 3   | 15  |
| 合計        | 156   | 100 | 149 | 100 | 183 | 100 | 119    | 100 | 149 | 100 | 95  | 100 | 20     | 100 | 14  | 100 | 20  | 100 |



## 本会の概要

# 令和元年度 事業経過報告

(令和 2 年 2 月 20 日現在)

### 1 会計監査

4 月 19 日 (金) 午後 3 時～5 時 都庁第一本庁舎 39 階打合せコーナー A を会場として、常任監事及び監事 2 名による各種帳簿類等の監査を実施 (本会事務局長立合い)

### 2 理事会

5 月 9 日 (木) 午後 3 時～5 時 全商会館 4 階 401 会議室で開催  
出席者 21 名

### 3 総会・講演会

6 月 27 日 (木) 午後 2 時～4 時 50 分 全商会館 3 階中会議室で開催

- ・総会 出席者 44 名 (昨年度 49 名)  
令和元年度 産業界会員功労者 (永年会員) の表彰 株式会社鈴木塗装工務店
  - ・講演会 出席者 67 名 (昨年度 49 名)  
演題: Society5.0 時代の「未来の教室」  
講師: 浅野 大介 氏 (経済産業省 サービス政策課長 (併) 教育産業室長)
- (総会・講演会の報告は会報第 156 号、会誌第 57 号に掲載)

### 4 委員会

- (1) 企画推進委員会 (第 1 回) 7 月 9 日 (火) 都庁第一本庁舎 37 階教育委員会室で開催  
企画推進委員会 (第 2 回) 10 月 18 日 (金) 都庁第二本庁舎 15 階 15B 会議室で開催  
企画推進委員会 (第 3 回) 1 月 17 日 (金) 工業教育会館 5 階第 3 会議室で開催
- (2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会  
9 月 17 日 (金) 都庁第一本庁舎 37 階教育委員会室で開催

#### (3) 作文選考委員会

- 全体会 5 月 17 日 (金) 都庁第一本庁舎 36 階 36 階会議室で開催
- 分科会 (中学校の部) 10 月 21 日 (月) 都庁第二本庁舎 15 階 15A 会議室で開催
- 分科会 (高等学校・専修学校の部) 10 月 25 日 (金) 都庁第二本庁舎 15 階 15A 会議室で開催

### 5 振興奨励事業

- (1) 教育功労者表彰: 11 月 19 日 (火) 午後 3 時から全商会館由会議室において、御下賜金記念産業教育功労者 (22 名)、中学校技術・家庭科教育功労者 (5 名)、専修学校産業教育功労者 (2 名) の表彰式を挙行した。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。(本誌 P 62～63)
- (2) 研究団体助成: 産業教育関係の教育団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。
- (3) 作文コンクール: 中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は 298 点であった。その中から最優秀賞 3 名 (中学校 1 名、高校 1 名、専修学校 1 名)、優秀賞 7 名 (中学校 3 名、高校 3 名、専修学校 1 名)、佳作 36 名 (中学校 18 名、高校 18 名、専修学校 0 名) 計 37 名の入選者を選定した。  
12 月 20 日 (金) 東京商工会議所 5 階カンファレンスルームにおいて「作文コンクール表彰式」を行い、入選者及び「明日に生きる 第 30 号 ー作文コンクール入選作品集ー」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、入選者以外の応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。入選作品は「明日に生きる 第 30 号 ー作文コンクール入選作品集ー」として令和 2 年 3 月上旬に発行予定
- (4) 優良卒業生選奨: 優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

|       |       |              |      |           |
|-------|-------|--------------|------|-----------|
| 中学校   | 880 名 | 中等教育学校（前期課程） | 10 名 |           |
| 高等学校  | 215 名 | 専修学校         | 56 名 |           |
| 高専・短大 | 14 名  |              |      | 計 1,175 名 |

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校 計 112 名

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は 11 事業に対して後援名義の使用を承認した。（本誌 P 63）

## 6 産学連携事業

東京商工会議所及びあきる野商工会と連携して都立高校と企業との連携を推進した。

## 7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第 1 回）を 7 月 5 日（金）（午後 2 時～5 時）に専門学校東京テクニカルカレッジを会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は、学園理事長・本部長、会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて 47 名であった。（本誌 P 64 - 65）
- (2) 産学懇談会（第 2 回）を 10 月 29 日（火）（午後 2 時～5 時）に日本工学院八王子専門学校を会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて 49 名であった。（本誌 P 66 - 67）
- (3) 産学懇談会（第 3 回）を 11 月 28 日（木）（午後 2 時～5 時）に東京都立蔵前工業高等学校を会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて 32 名であった。（本誌 P 68 - 69）

## 8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」を年 2 回、第 156 号を 7 月 10 日に、第 157 号を 12 月 5 日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第 57 号を 3 月上旬に発行予定
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第 30 号を 3 月上旬に発行予定
- (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議が、5 月 23 日（木）に国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟 405 で開催された。本会より会長、副会長、事務局長、学校代表委員が出席した。
- (5) 文部科学省・新潟県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の第 29 回全国産業教育フェア新潟大会、第 61 回全国産業教育振興大会（新潟大会）が、10 月 26 日（土）～10 月 27 日（日）、新潟県新潟市内の会場を中心に開催され、本会から会長、事務局員及び会員校 4 校が参加した。
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月 1 回更新した。
- (7) 公益財団法人産業教育振興中央会が実施する「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」に本会から 1 名が応募した。また、同会主催の「教員海外産業教育事情研修派遣」に本会から 1 名が参加した。（本誌 P 34 ～ 35）

## 9 会員増加運動の推進

今年度末に産業界会員 2 が退会予定。また、年間を通じて会員増加運動に取り組み、新たに学校会員 4（中学校 2、専修学校 2）、個人会員 1 が入会した。

## 10 広報活動の推進

東京都産業教育振興会のロゴマークを公募した。（令和元 7 月 1 日～9 月 30 日）

高等学校、高等専門学校、専修学校合わせて 159 点の応募があった。

## 11 「今後の東京の産業教育に関する報告書」の作成

報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」を作成中

## 平成30年度 決算

総収入額 ¥3,346,504

総支出額 ¥2,746,143

差引額 ¥600,361

[収入の部]

(単位:円)

| 科 目   | 予算額       | 決算額         | 差額      | 摘 要                   |          |              |        |           |
|-------|-----------|-------------|---------|-----------------------|----------|--------------|--------|-----------|
| 会 費   | 2,365,000 | 2,394,840   | 29,840  | 1                     | 学校関係     | 単価           | 校数・口数  | 1,578,920 |
|       |           |             |         | ①                     | 国公私立中学校  | ¥2,000       | 428 校  | 856,000   |
|       |           |             |         | ②                     | 都立高校     | 全 ¥6,000     | 53 校   | 318,000   |
|       |           |             |         |                       | 定 ¥3,000 | 31 校         | 93,000 |           |
|       |           |             |         | ③                     | 国私立高校    | 全 ¥6,000     | 15 校   | 89,920    |
|       |           |             |         |                       | 通 ¥3,000 | 2 校          | 6,000  |           |
|       |           |             |         | ④                     | 短大・高専    | 3校 ¥6,000    | 3 校    | 18,000    |
|       |           |             |         | ⑤                     | 専修学校     | 32校 ¥6,000   | 33 口   | 198,000   |
|       |           |             |         | 2                     | 産業界関係    |              |        | 815,920   |
|       |           |             |         | ①                     | 企 業      | 53社 10, 000円 | 78 口   | 779,920   |
| ②     | 個 人       | 14人 2, 000円 | 18 口    | 36,000                |          |              |        |           |
| 会誌広告料 | 165,000   | 265,000     | 100,000 | 「東京の産業教育」第56号広告費 全18社 |          |              |        |           |
| 雑収入   | 346       | 10          | △ 336   | 銀行利子                  |          |              |        |           |
| 繰越金   | 686,654   | 686,654     | 0       | 前年度繰越                 |          |              |        |           |
| 合 計   | 3,217,000 | 3,346,504   | 129,504 |                       |          |              |        |           |

[支出の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額        | 決算額       | 差額        | 摘 要                           |
|-----|------------|-----------|-----------|-------------------------------|
| 事務費 | 480,000    | 422,140   | 57,860    |                               |
| 項 目 | 需用費        | 20,000    | 15,580    | 4,420 総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費      |
|     | 役務費        | 400,000   | 406,560   | △ 6,560 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
|     | 旅 費        | 60,000    | 0         | 60,000 全国産業教育フェア(山口大会)        |
| 会議費 | 80,000     | 64,872    | 15,128    | 理事会、総会、講演会、各種委員会              |
| 事業費 | 2,430,000  | 2,194,131 | 235,869   |                               |
| 項 目 | 振 興<br>奨励費 | 1,120,000 | 1,001,845 | 118,155 ①教育功労者表彰 241,220      |
|     |            |           |           | ②研究奨励助成 157,000               |
|     |            |           |           | ③作文表彰等 421,528                |
|     |            |           |           | ④永年会員表彰 34,669                |
|     |            |           |           | ⑤表彰状印刷等 110,332               |
|     |            |           |           | ⑥表彰状筆耕料 37,096                |
|     | 情 報<br>連絡費 | 1,300,000 | 1,181,388 | 118,612 ①会報発行(2回分) 194,400    |
|     |            |           |           | ②会誌第55号発行 409,428             |
|     |            |           |           | ③作文集第28号発行 380,160            |
|     |            |           |           | ④HP更新費 194,400                |
|     | 産学交流費      | 10,000    | 10,898    | △ 898 ⑤全産協参加費 3,000           |
|     |            |           |           | ⑥中央会図書費 0                     |
| 分担金 | 65,000     | 65,000    | 0         | ⑦作文集・会誌合本費 0                  |
| 予備費 | 162,000    | 0         | 162,000   | 産学懇談会                         |
| 合 計 | 3,217,000  | 2,746,143 | 470,857   | 全国産業教育振興会連絡協議会                |
|     |            |           |           | 緊急対応                          |

(注)科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

## 令和元年度 予算

総収入額 ￥3,147,000

総支出額 ￥3,147,000

差引額 ￥0

[収入の部]

(単位：円)

| 科 目   | 本年度<br>予算額(A) | 前年度<br>予算額(B) | 増△減<br>(A-B) | 摘 要                            |
|-------|---------------|---------------|--------------|--------------------------------|
| 会 費   | 2,381,000     | 2,365,000     | 16,000       | 1 学校関係 円 校数・口数 1,595,000       |
|       |               |               |              | ① 国公立中学校 2,000 427 校 854,000   |
|       |               |               |              | ② 都立高校 全 6,000 53 校 318,000    |
|       |               |               |              | 定 3,000 31 校 93,000            |
|       |               |               |              | ③ 私立・国立高校 全 6,000 14 校 84,000  |
|       |               |               |              | 通 3,000 2 校 6,000              |
|       |               |               |              | ④ 高専・短大 3 校 6,000 3 校 18,000   |
|       |               |               |              | ⑤ 専修学校 35 校 6,000 37 口 222,000 |
|       |               |               |              | 2 産業界関係 円 口数 786,000           |
|       |               |               |              | ① 企 業 50 社 10,000 75 口 750,000 |
|       |               |               |              | ② 個 人 14 名 2,000 18 口 36,000   |
| 会誌広告料 | 165,000       | 165,000       | 0            |                                |
| 雑収入   | 639           | 346           | 293          | 預金利息等                          |
| 繰越金   | 600,361       | 686,654       | △ 86,293     | 前年度繰越                          |
| 合 計   | 3,147,000     | 3,217,000     | △ 70,000     |                                |

[支出の部]

(単位：円)

| 科 目 | 本年度<br>予算額(A) | 前年度<br>予算額(B) | 増△減<br>(A-B) | 摘 要                          |
|-----|---------------|---------------|--------------|------------------------------|
| 事務費 | 480,000       | 480,000       | 0            |                              |
| 項 目 | 需用費           | 20,000        | 20,000       | 0 消耗品費等、資料管理費                |
|     | 役務費           | 420,000       | 400,000      | 20,000 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
|     | 旅 費           | 40,000        | 60,000       | △ 20,000 全国産業教育フェア（新潟大会）     |
|     | 会議費           | 80,000        | 80,000       | 0 理事会、総会、講演会、各種委員会           |
| 事業費 | 2,474,000     | 2,430,000     | 44,000       |                              |
| 項 目 | 振 興<br>奨励費    | 1,139,000     | 19,000       | ①教育功労者表彰 250,000             |
|     |               |               |              | ②研究奨励助成 122,000              |
|     |               |               |              | ③作文表彰等 450,000               |
|     |               |               |              | ④永年会員表彰 12,000               |
|     |               |               |              | ⑤表彰状印刷 160,000               |
|     |               |               |              | ⑥表彰状筆耕料 45,000               |
|     |               |               |              | ⑦ロゴマーク募集 100,000             |
|     | 情 報<br>連絡費    | 1,320,000     | 20,000       | ①会報発行(2回分) 250,000           |
|     |               |               |              | ②会誌第57号発行 450,000            |
|     |               |               |              | ③作文集第30号発行 400,000           |
|     |               |               |              | ④HP更新費 210,000               |
| 項 目 | 産学交流費         | 15,000        | 5,000        | ⑤全産協参加費 6,000                |
|     |               |               |              | ⑥中央会図書費 2,000                |
| 項 目 | 分担金           | 65,000        | 65,000       | ⑦作文集・会誌合本費 2,000             |
|     |               |               |              | 産学懇談会 15,000                 |
| 予備費 | 48,000        | 162,000       | △ 114,000    | 全国産業教育振興会連絡協議会               |
| 合 計 | 3,147,000     | 3,217,000     | △ 70,000     | 緊急対応                         |

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

## 令和元年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

令和元年7月1日現在

|         |                                                            |         |
|---------|------------------------------------------------------------|---------|
| 会 長     | Fore Vision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長<br>(前・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長) | 西 澤 宏 繁 |
| 副 会 長   | 株式会社カナック企画相談役                                              | 金 子 昌 男 |
| “       | 東京商工会議所理事・事務局長                                             | 小 林 治 彦 |
| “       | ☆ 東京都立農芸高等学校長                                              | 小 堀 紀 明 |
| 理 事 長   | ☆ 東京都教育委員会教育長                                              | 藤 田 裕 司 |
| 常 任 理 事 | 東京都教育庁都立学校教育部長                                             | 江 藤 巧   |
| “       | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長                                    | 落 合 真 人 |
| 理 事     | 公益社団法人経済同友会執行役                                             | 菅 原 晶 子 |
| “       | 一般社団法人東京経営者協会事業局長兼人事・労働部長兼人材・研修部長                          | 山 鼻 恵 子 |
| “       | 信川化学工業株式会社取締役社長                                            | 信 川 仁 道 |
| “       | 株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長                                         | 井 水 治 博 |
| “       | 三和電気工業株式会社代表取締役会長                                          | 石 井 卓 爾 |
| “       | 墨田区教育委員会教育長                                                | 加 藤 裕 之 |
| “       | 江東区教育委員会教育長                                                | 岩 佐 哲 男 |
| “       | 武蔵野市教育委員会教育長                                               | 竹 内 道 則 |
| “       | ☆ 中野区教育委員会事務局学校教育課長                                        | 石 崎 公 一 |
| “       | ☆ 墨田区教育委員会事務局学務課長                                          | 西 村 克 己 |
| “       | 東京誠心調理師専門学校長                                               | 廣 瀬 道   |
| “       | 学校法人小山学園理事長                                                | 山 本 匡   |
| “       | 岩倉高等学校長                                                    | 浅 井 千 英 |
| “       | 安部学院高等学校長                                                  | 安 部 元 彦 |
| “       | ☆ 東京都立農芸高等学校長 (副会長兼任)                                      | 小 堀 紀 明 |
| “       | ☆ 東京都立科学技術高等学校長                                            | 早 川 信 一 |
| “       | 東京都立第四商業高等学校長                                              | 高 石 公 一 |
| “       | 東京都立忍岡高等学校長                                                | 岡 島 まどか |
| “       | 東京都立つばさ総合高等学校長                                             | 小 山 公 央 |
| “       | 足立区立第七中学校長                                                 | 佐 藤 秀 直 |
| “       | 中央区立銀座中学校長                                                 | 平 松 功 治 |
| “       | ☆ 東京都教育庁指導部長                                               | 増 田 正 弘 |
| “       | 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長                                        | 佐 藤 聖 一 |
| “       | 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当)                                   | 井 上 隆   |
| “       | 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長                                 | 小 川 謙 二 |
| 理事・事務局長 | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当)                            | 多 田 緑   |
| 常 任 監 事 | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (管理担当)                            | 甲 賀 一 紀 |
| 監 事     | ☆ 株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役 学院長                                 | 芹 澤 唯 志 |
| “       | 世田谷区立上祖師谷中学校長                                              | 柄 澤 茂 之 |

# 令和元年度 東京都産業教育振興会各委員会委員（敬称略・順不同）

## 企画推進委員会

|                        |       |
|------------------------|-------|
| 東京都立農芸高等学校長            | 小堀紀明  |
| 東京都立練馬工業高等学校長          | 守屋文俊  |
| 東京都立赤羽商業高等学校長          | 山田和人  |
| 東京都立八王子拓真高等学校長         | 富川麗子  |
| 東京都立葛飾総合高等学校長          | 高坂仁   |
| 東京実業高等学校長              | 知念義裕  |
| 安部学院高等学校長              | 安部元彦  |
| マリールイズ美容専門学校顧問         | 江原美規子 |
| 東京都立産業技術高等専門学校副校長      | 渡辺和人  |
| 台東区立駒形中学校長             | 瀬川眞也  |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 山本進一  |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事   | 宮西真   |

## 作文選考委員会

|                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 東京都立農産高等学校長                 | 伊達崎 広  |
| 東京都立杉並工業高等学校長               | 高 幹 明  |
| 東京都立江東商業高等学校長               | 岡本裕之   |
| 東京都立大崎高等学校副校長               | 小川直哉   |
| 東京都立青梅総合高等学校長（高校・専修学校の部委員長） | 鈴木信也   |
| 日本工業大学附属駒場高等学校教諭            | 原田宏子   |
| 安部学院高等学校長                   | 安部元彦   |
| 国際理容美容専門学校副校長               | 佐谷 肇   |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課課長代理      | 浦島真由美  |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事      | 金子将之   |
| 江東区立深川第七中学校長                | 佐川明夫   |
| 足立区立第十中学校長                  | 早乙女雄一郎 |
| 中央区立日本橋中学校副校長               | 磯田耕司   |
| 小平市立小平第六中学校副校長              | 吉田 功   |
| 江戸川区立松江第五中学校副校長             | 濱川一彦   |
| 稲城市立稲城第一中学校長（中学校の部委員長）      | 跡邊昭枝   |
| 町田市立真光寺中学校長                 | 矢島加都美  |
| 荒川区立第五峽田小学校長                | 出井玲子   |
| 小平市立小平第五中学校副校長              | 深井明美   |
| 足立区立伊興中学校副校長                | 千葉千登勢  |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事      | 鈴木太郎   |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事        | 宮西真    |



## 東京都産業教育振興会会則

### 第 1 章 総 則

第 1 条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第 2 条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

### 第 2 章 会 員

第 4 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

### 第 3 章 役員及び職員

第 5 条 この会に会長 1 名、副会長 3 名、理事 25 名以上 35 名以内及び監事 3 名をおく。

第 6 条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第 7 条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第 8 条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち 1 名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第 9 条 この会の役員の任期は 1 年とする。ただし再任を妨げない。

第 10 条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第 11 条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

#### 第 4 章 総 会

第 12 条 総会は年 1 回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第 13 条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

#### 第 5 章 部会分会

第 14 条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

#### 第 6 章 会 計

第 15 条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第 16 条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1 口 年額 1 万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1 口 年額 6 千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1 口 年額 3 千円

○中学校 1 口 年額 2 千円

(2) 個人会員 1 口 年額 2 千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第 17 条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

#### 第 7 章 支 部

第 18 条 この会に支部をおくことができる。

#### 第 8 章 会則の変更及び解散

第 19 条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

#### 第 9 章 付 則

第 20 条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和 30 年 5 月 20 日制定

以下の総会で一部改正

昭和 46 年度、52 年度、58 年度、平成 18 年度、20 年度、22 年度、27 年度、28 年度

## 産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

|   | 企業会員名                         | 所在地 / 電話 / URL                                                                  | 過去5年間の採用実績                | 企業の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 株式会社<br>明石スクールユニ<br>フォームカンパニー | 〒 103-0006<br>中央区日本橋富沢町 5-5<br>03-5695-5300<br>http://www.akashi-suc.jp         | 専修卒<br>四大卒                | 富士ヨット詰襟学生服及び、別注学校制服・体育着・実習服・企業ユニフォームを製造している制服メーカーです。<br>学校オリジナル制服としては、50 校超の都立高校制服や、私立学校制服、公立中学校・小学校の標準服を製造しております。またデザート体育着も好評をいただいております。                                                                                                                             |
| 2 | あきる野商工会                       | 〒 197-0804<br>あきる野市秋川 1-8<br>あきる野ルピア 3 階                                        | 短大卒<br>四大卒                | 商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となって、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。                                                                                                                                                                                                          |
| 3 | 株式会社<br>秋月電子通商                | 〒 158-0095<br>世田谷区瀬田 5-35-6                                                     | 四大卒                       | 電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。<br>世界各国の最新機器の日本への紹介。                                                                                                                                                                                 |
| 4 | 有限会社 飯吉製作所                    | 〒 124-0023<br>葛飾区東新小岩 5-14-22<br>03-3697-5645                                   | —                         | 金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス加工分野に進出、傍ら自社ブランドのキャスターを開発、製造販売を始め、現在に至る。                                                                                                                                                   |
| 5 | 株式会社 エイコー                     | 〒 124-0024<br>葛飾区新小岩 2-7-4<br>サンシティ新小岩                                          | 高校卒                       | 昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。                                                                                                                                                                               |
| 6 | エス・イー・シーエ<br>レベーター株式会社        | 〒 110-0016<br>台東区台東 3-18-3<br>03-5256-1171<br>https://secev.co.jp               | 高校卒<br>専修卒<br>短大卒<br>四大卒  | エレベーター・エスカレーターの保守点検、新設・リニューアル工事・LED・サイネージ・太陽光事業等を行っております。                                                                                                                                                                                                             |
| 7 | エンゼルフーズ<br>株式会社               | 〒 114-0003<br>北区豊島 8-1-1<br>03-3927-1123<br>http://www.angel-foods.com          | 短大卒<br>四大卒<br>大学院卒        | 1965 年創業、「永遠に未完成の給食づくり」を企業理念として、未来を担う子供たちの健康と幸せのためのサポートをさせて頂いております。幼稚園給食のリーディングカンパニーとして日本一の生産食数を誇っており、東京、神奈川、埼玉、千葉の一都三県において、一日 5 万食を提供しております。                                                                                                                         |
| 8 | 株式会社<br>カナック企画                | 〒 125-0054<br>葛飾区高砂 1-21-4                                                      | 高校卒<br>短大卒<br>四大卒<br>大学院卒 | 弊社はメイン事業であるカー AV 取付キットビジネスで市場シェア約 6 割を占めており、オールインワン企業としてカーライフ事業を開拓し続けるリーディングカンパニーです。最近ではカーナビの大画面化が進み、益々弊社の重要性が高まり AV メーカーと車メーカー、それとユーザーの皆様のニーズに応えるべき商品開発に力を入れております。もう一つの事業である鉄道グッズ事業では、大人でも使える新幹線をモチーフにした USB メモリや子供用のリュックサック、自転車ヘルメットなど色々な商品ラインナップを繰り広げ、事業を展開しております。 |
| 9 | 亀有信用金庫                        | 〒 125-8508<br>葛飾区亀有 3-13-1<br>03-3603-0185<br>http://www.shinkin.co.jp/kameari/ | 短大卒<br>四大卒                | 信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に 23 店舗を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。                                                                                                                                                                                       |

|    | 企業会員名           | 所在地 / 電話 / URL                                                                                                         | 過去5年間の採用実績                              | 企業の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | 株式会社 川邑研究所      | 〒153-0063<br>目黒区目黒 1-5-6                                                                                               | 専修卒<br>四大卒                              | 固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。                                                                                                                                                                                                                       |
| 11 | 株式会社 キクチ        | 〒140-0013<br>品川区南大井 6-11-7<br>キクチビル<br>03-3767-0673<br><a href="http://kikuchi-corp.com/">http://kikuchi-corp.com/</a> | 高校卒<br>専修卒<br>高専卒<br>短大卒<br>四大卒<br>大学院卒 | ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス、設備管理サービス、電気計装工事、内装・補修工事、省エネソリューションビジネス。<br>キクチは、『人と地球と建物のより良い未来を切り拓く』ため、建物環境がいつでも安全・快適で省エネルギーであること、すなわち、『ビルの明日をまもる』ことを、企業使命と考えライフサイクルソリューションビジネスを展開しています。                                                    |
| 12 | 株式会社 キトウ        | 〒101-0052<br>千代田区神田小川町 1-10                                                                                            | 四大卒                                     | 中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。                                                                                                                                                                       |
| 13 | 株式会社<br>きらぼし銀行  | 〒106-0062<br>港区南青山 3-10-43                                                                                             | 四大卒                                     | きらぼし銀行は、2018年5月に東京都民銀行、八千代銀行、新銀行東京の3行が合併し、新たなスタートを切りました。<br>「首都圏における中小企業と個人のお客様のための金融グループとして、総合金融サービスを通じて、地域社会の発展に貢献します。」という経営理念を掲げ、首都圏においてお客様から真に愛される地域 No.1 の都市型地銀グループを目指します。                                                            |
| 14 | 株式会社 小葉印刷所      | 〒104-0042<br>中央区入船 2-7-4                                                                                               | —                                       | 創業90年の印刷会社。学術学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。                                                                                                                                                                          |
| 15 | 株式会社<br>興銀不動産開発 | 〒125-0041<br>葛飾区東金町 5-7-6                                                                                              | 四大卒                                     | 平成2年創業以来27年、地元根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動しております。尚若い力を注入して活気ある会社運営を目指します。                                                                                                                                                              |
| 16 | 国光施設工業<br>株式会社  | 〒144-0041<br>大田区羽田空港 1-7-1                                                                                             | 専修卒<br>高専卒                              | 創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光発電）を計画段階から建設、メンテ及び施設の取壊しまで長期に渡り担当するエンジニアリング集団です。                                                                                                                                                          |
| 17 | 三和電気計器<br>株式会社  | 〒101-0021<br>千代田区外神田 2-4-4                                                                                             | 高校卒                                     | 1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。                                                                                                                |
| 18 | 三和電気工業<br>株式会社  | 〒164-8522<br>中野区中野 4-15-9<br>03-5213-3035<br><a href="http://www.snwd.co.jp/">http://www.snwd.co.jp/</a>               | 専修卒<br>四大卒<br>大学院卒                      | 1947年に電気通信部品メーカーとして発足しました。光コネクタのパイオニアメーカーのひとつです。光コネクタのメーカーとしては日本及び海外のお客様に製品を提供しており、現代社会の高度情報化の発展に寄与しています。近年は信頼性の高さから、通信分野以外（新幹線等）で光トランシーバーが好評を博しております。今後も通信技術の革新が進んでいく中で、当社のコアコンピタンスを活かして、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形で、時代をリードする製品を開発・提供していきます。 |

|    | 企業会員名           | 所在地 / 電話 / URL                                                                                                                 | 過去5年間の採用実績                        | 企業の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 19 | 実教出版株式会社        | 〒102-8377<br>千代田区五番町 5<br>03-3238-7777<br><a href="http://www.jikkkyo.co.jp/">http://www.jikkkyo.co.jp/</a>                    | 四大大卒<br>大学院卒                      | 高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941 年創業、従業員 150 名。                                                                                                                                                                                      |
| 20 | 株式会社 昭和理化       | 〒171-0022<br>豊島区南池袋 2-41-12<br>03-3987-0731                                                                                    | 高校卒                               | 消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。                                                                                                                                                        |
| 21 | 株式会社<br>鈴木塗装工務店 | 〒120-0022<br>足立区柳原 2-30-14<br>03-3882-2828<br><a href="http://www.suzukitosou.com">http://www.suzukitosou.com</a>              | 高校卒<br>専修卒<br>短大卒<br>四大大卒         | 全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO9001：2008 認証取得により品質管理を徹底しております。                                                                                                                                                     |
| 22 | 青和信用組合          | 〒125-0054<br>葛飾区高砂 2-40-4                                                                                                      | 高校卒<br>四大大卒                       | 「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。                                                                                                                                                                                        |
| 23 | 千住金属工業株式会社      | 〒120-8555<br>足立区千住橋戸町 23                                                                                                       | 高校卒<br>高専卒<br>短大卒<br>四大大卒<br>大学院卒 | 1938 年創業以来、エレクトロニクス、自動車など各種産業分野になくはない、はんだ材料と自動はんだ付け装置やすべり軸受けを提供してきました。また、社会のニーズに応えるため、国内に 17 箇所、海外に 25 箇所以上の拠点を置き、グローバルな視点で事業を展開しています。創業理念である先進技術への挑戦を続け、次世代先端分野に相応しい新領域への研究開発・製品化の取り組みを一層強化していきます。                                                                             |
| 24 | 第一科学株式会社        | 〒113-0021<br>文京区本駒込 5-28-5                                                                                                     | 高校卒                               | 高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 25 | 株式会社<br>第一成和事務所 | 〒103-8214<br>中央区日本橋久松町 11-6<br>日本橋 TS ビル 8F<br>03-3669-2831<br><a href="http://www.d-seiwa.co.jp">http://www.d-seiwa.co.jp</a> | 四大大卒                              | 1957 年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターシップ・ボランティア等体験活動保険」を提供させていただいております。                                                                                                                                                  |
| 26 | 株式会社 竹尾         | 〒101-0054<br>千代田区神田錦町 3-12-6<br>03-3292-3622<br><a href="http://www.takeo.co.jp/">http://www.takeo.co.jp/</a>                  | 高校卒<br>短大卒<br>四大大卒<br>大学院卒        | 1899 年の創業以来、「紙の専門商社」として、一般印刷用紙とファインペーパーの販売を通して環境と文化に貢献してきました。特にファインペーパーでは、メーカーと共同開発し、国内市場の 60% をシェアし市場を牽引してきました。ファインペーパーとは色合いや風合いで人間の五感に訴える紙であり、書籍、パッケージ、カタログ、カレンダーやタグ等数多くの場面で使われております。また、神田の見本帖本店、青山見本帖、銀座の竹尾見本帖 at Itoya、大阪の淀屋橋見本帖、福岡見本帖にて紙の販売の他、紙、デザインとテクノロジーに関する情報を発信しています。 |
| 27 | 株式会社 チバダイス      | 〒125-0054<br>葛飾区高砂 1-26-2<br>03-3696-4441<br><a href="http://www.chibadies.co.jp">http://www.chibadies.co.jp</a>               | 高校卒<br>高専卒<br>専修卒<br>四大大卒         | プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの 3 割は海外との取引です。                                                                                                                                                                                                         |

|    | 企業会員名                       | 所在地 / 電話 / URL                                                                                             | 過去5年間の採用実績                | 企業の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 28 | 株式会社 ツバサ・翼学院グループ            | 〒125-0054<br>葛飾区高砂 8-28-12                                                                                 | 短大卒<br>四大卒<br>大学院卒        | 学習障がい、不登校、非行歴のある子など約400名の塾生が在籍（青砥駅前校、高砂校、水元校、青砥西口）、当塾から都立高、私立中高、大学へと巣立っていきます。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して生活訓練や、社会との関わりに関する訓練も行っています。また第一薬科大学付属高校学習センターとして高校卒業のサポートを行っています。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。第7回日本でいちばん大切にしたい会社実行委員会特別賞、平成28年東京都経営革新奨励賞受賞。 |
| 29 | 鉄道機器株式会社                    | 〒103-0027<br>中央区日本橋 2-3-6<br>03-3271-5341                                                                  | 高校卒<br>高専卒<br>四大卒         | 大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に東北新幹線、九州新幹線、北陸新幹線、北海道新幹線用の高速分岐器の納入実績があり、海外にも輸出をしております。                                                                                                                           |
| 30 | 東京ガス株式会社                    | 〒105-8527<br>港区海岸 1-5-20                                                                                   | 高校卒<br>高専卒<br>四大卒<br>大学院卒 | 東京ガスグループは、1885年の創立以来、130余年にわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。2017年には電力小売り事業にも参入し「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。                                                                                                                              |
| 31 | 東京商工会議所                     | 〒100-0005<br>千代田区丸の内 3-2-2 6F<br><a href="https://www.tokyo-cci.or.jp/">https://www.tokyo-cci.or.jp/</a>   | 四大卒<br>大学院卒               | 東京商工会議所は東京23区内の会員（商工業者）で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。                                                                                                                                                                           |
| 32 | 東京書籍株式会社                    | 〒114-8524<br>北区堀船 2-17-1                                                                                   | 四大卒<br>大学院卒               | 1909（明治42）年創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書やアプリなどのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。                                                                        |
| 33 | 東京スマイル農業協同組合                | 〒125-0063<br>葛飾区白鳥 4-11-17<br>03-5680-5550                                                                 | 高校卒<br>四大卒                | 東京スマイル農業協同組合（JA東京スマイル）は平成13年、江東三区にある足立農業協同組合、葛飾農業協同組合、江戸川区農業協同組合の3農協が合併し誕生しました。当組合は「地域社会への貢献」と「健全経営」を目指し、お客様のニーズに応えるべく、経営体制の構築を図っており、地域の農業を活性化させることを使命に、営農指導をはじめ、信用（金融）事業、共済（保険）事業、購買事業、販売事業（直売所）、宅地等供給事業、遺言信託事業、利用（葬儀）事業など、さまざまな事業を展開しています。                                               |
| 34 | 公益社団法人<br>東京都専修学校<br>各種学校協会 | 〒151-0053<br>渋谷区代々木 1-58-1<br>石山ビル 6F<br>03-3378-9601<br><a href="https://tsk.or.jp">https://tsk.or.jp</a> | —                         | 東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は340校（2019年11月現在）。                                                                                                                                                       |
| 35 | 有限会社<br>東京プリンテック            | 〒154-0023<br>世田谷区若林 1-23-4                                                                                 | —                         | “信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。                                                                                                                                                                                                          |
| 36 | 株式会社<br>日刊工業新聞社             | 〒103-8548<br>中央区日本橋小網町 14-1                                                                                | 四大卒<br>大学院卒               | 「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とする我が国唯一の産業総合紙。創刊は1915年（大正4）。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。                                                                                                                                                                                                       |

|    | 企業会員名           | 所在地 / 電話 / URL                                                                                                  | 過去5年間の採用実績                      | 企業の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 37 | 日本広告株式会社        | 〒170-0001<br>豊島区西巣鴨 4-19-1<br>03-3918-3161<br><a href="http://nihon-ad.c.ooco.jp">http://nihon-ad.c.ooco.jp</a> | 高校卒<br>専修卒<br>四大卒               | 昭和 20 年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。                                                                                                                                                        |
| 38 | 日本自動ドア株式会社      | 〒165-0031<br>中野区上鷺宮 3-16-5                                                                                      | 高校卒<br>専修卒<br>高専卒<br>短大卒<br>四大卒 | 日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。                                                                                                                                                                                  |
| 39 | 信川化学工業株式会社      | 〒124-0022<br>葛飾区奥戸 2-20-18                                                                                      | —                               | 超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機 2,700t、2,200t、1,600t×2、1,200t、850t×4、650t×2 他計 21 台。クレーン 20t、10t 他。                                                                                    |
| 40 | 株式会社 箸勝本店       | 〒101-0021<br>千代田区外神田 3-1-15                                                                                     | —                               | 明治 43 年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め 300 種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和 25 年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。                                                                                                                                              |
| 41 | 株式会社 ハチオウ (八嬰)  | 〒130-0004<br>墨田区本所 4-29-2                                                                                       | 四大卒<br>大学院卒                     | 産業廃棄物処理業として多品種の廃液や化学薬品の特殊な廃棄物の処理を行っています。これらの廃棄物処理は化学的知識や専門性を必要とします。都内では処理業者の数が少なく、各種研究機関や大学、民間企業の工場より評価・受注を頂いております。外国人の博士課程卒業生も採用しております。                                                                                                                   |
| 42 | 日野自動車株式会社       | 〒191-8660<br>日野市日野台 3-1-1                                                                                       | 中学卒                             | 「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。                                                                                                                           |
| 43 | 株式会社 Five Rings | 〒105-0004<br>港区新橋 3-9-10 5F<br>03-6402-4402                                                                     | —                               | 資産形成コンサルタント業。100 年時代という言葉をよく目にしますが、弊社では 10 年以上前から「人生計画」「資産計画」の必要性を感じ、会社の将来、また家庭や人生のコンサルティングを行ってきました。<br>【経営支援事業】<br>①経営計画：理念、目的、方針、PDCA ②人材：組織研修、パートナー③リスクマネジメント：人、金、生損保、融資④マーケティング⑤社会貢献<br>【資金形成事業】仕事、家庭、お金、知識、健康を豊かなものにしていく<br>【エクスペリエンス事業】人生を豊かにする活動すべて |
| 44 | ベストワールド株式会社     | 〒101-0047<br>千代田区内神田 1-7-4<br>03-3295-4111                                                                      | 四大卒                             | 海外視察・研修旅行をお世話して 50 年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。                                                                                                                                                           |
| 45 | 明和製紙原料株式会社      | 〒700-0941<br>岡山市北区青江 1-20-26                                                                                    | —                               | 古紙リサイクル出前講座<br>『紙はゴミじゃない!!』<br>を全国どこでも無料で実施しています。<br>詳しくは<br><a href="http://www.korokkesensei.com/">http://www.korokkesensei.com/</a><br>をご覧ください。                                                                                                         |

|    | 企業会員名                  | 所在地 / 電話 / URL                                                                                                              | 過去5年間の採用実績  | 企業の概要・特色                                                                                                                                                                                                                      |
|----|------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 46 | 山崎教育システム株式会社           | 〒189-0003<br>東村山市久米川町 5-33-24                                                                                               | 四大卒         | 全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売（全国代理店 350 社）。                                                                                                                                                                           |
| 47 | ヤマ産業株式会社               | 〒112-0015<br>文京区文京区目白台 3-26-8                                                                                               | —           | 教育備品を販売して 50 年。学校より信用を得て、安定している。                                                                                                                                                                                              |
| 48 | 株式会社<br>読売新聞東京本社       | 〒100-8055<br>千代田区大手町 1-7-1                                                                                                  | 四大卒<br>大学院卒 | 「読売新聞」は 1874 年（明治 7 年）11 月の創刊。全国紙として成長し、1994 年に発行 1000 万部を達成した。発行部数は世界一。2011 年に「読売 KODOMO 新聞」、2014 年に「読売中高生新聞」を創刊した。                                                                                                          |
| 49 | 涼和総合法律事務所<br>弁護士 飯田 豊浩 | 〒105-0001<br>港区虎ノ門 2-2-5<br>共同通信会館 9 階<br>03-3586-2418<br><a href="http://www.ryowa-law.com/">http://www.ryowa-law.com/</a> | —           | 2003 年に弁護士登録し、17 年目を迎えました。<br>2011 年以降、埼玉県内の地方自治体の教育委員会顧問として、学校や教育委員会からの様々なご依頼に対応すると共に、学校の法的対応に関する研修の講師も務めています。<br>学校で起きる諸問題への対応のほかにも、企業からのご依頼（契約書の作成・確認、債権回収、労務対応等）、個人からのご依頼（遺言・相続、離婚、不動産取引等）に幅広く対応すると共に、遺言や相続に関する講演も行っています。 |
| 50 | 株式会社 開倫塾               | 〒326-8505<br>栃木県足利市堀込町 145<br>0284-72-5945<br><a href="http://www.kairin.co.jp">http://www.kairin.co.jp</a>                 | 四大卒<br>大学院卒 | 創業 40 周年の学習塾。小学生・中学生・高校生を対象とします。北関東 3 県（栃木・群馬・茨城県）と東京都川の手地区（墨田・荒川・葛飾・足立区）に展開。自己学習能力の育成を教育目標とします。毎年 5 月、全国模擬授業大会を開催。NIE に力を入れています。                                                                                             |



## 私立高等学校会員名簿

50 音順

|   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                                     | 課程 | 令和 2 年度年度募集学科<br>及び募集人数                                                                                         | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <b>愛国高等学校</b><br>〒 133-8585<br>江戸川区西小岩 5-7-1<br><a href="http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/">http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/</a> | 全  | 普通科 (160)<br>商業科 (80)<br>家政科 (80)<br>衛生看護科 (40)<br>衛生看護専攻科 (40)                                                 | 昭和 13 年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科は A (一般教養)・B (進学) の 2 コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の 2 コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科 (上級 2 年課程) は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学 (人間文化学部)・短期大学 (家政科・栄養士資格)・保育専門学校 (幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格) がある。                                                                                                                                                                                                   |
| 2 | <b>安部学院高等学校</b><br>〒 114-0005<br>北区栄町 35-4                                                                                                          | 全  | 商業科 (200)                                                                                                       | 1940 年 (昭和 15 年) に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、今年、満 78 年を迎えました。在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2 年次よりコース制になり、簿記 1 級の取得を目指す「会計コース」と、パソコン等の実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の 2 コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、就職希望者よりも進学希望者が多く占めています。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 3 | <b>岩倉高等学校</b><br>〒 110-0005<br>台東区上野 7-8-8                                                                                                          | 全  | 普通科 (330)<br>S 特コース (50)<br>特進コース (60)<br>総進コース (160)<br>L 特コース (60)<br>運輸科 (120)                               | 我が国初の鉄道学校として明治 30 年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。平成 26 年度の入学生から「男女共学化」、「普通科・運輸科の 2 科システム」を実施し、学校の変革を進めている。普通科には S 特・特進・L 特・総進の 4 コースを設置し、進学教育に注力している。電子黒板を全ホームルーム教室に導入するなど、充実した環境の中で、特色ある教育内容や様々な進路指導を通じて、生徒の夢を具現化するカリキュラムで学力の向上に取り組んでいる。                                                                                                                                                                                                                               |
| 4 | <b>NHK 学園高等学校</b><br>〒 186-8001<br>国上市富士見台 2-36-2<br><a href="https://www.n-gaku.jp/sch/">https://www.n-gaku.jp/sch/</a>                            | 通  | 普通科 (3475)                                                                                                      | 昭和 38 年 (1963 年) にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校しました。学習に放送 (NHK 高校講座) を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供しています。不登校傾向の生徒に向けた登校回数の少ないコースから、週 3 日登校のコースまで生徒の個に応じた学び方を用意しています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 5 | <b>大森学園高等学校</b><br>〒 143-0015<br>大田区大森西 3-2-12                                                                                                      | 全  | 普通科 (280)<br>国立コース (40)<br>選抜コース (80)<br>総進コース (120)<br>英語コース (40)<br>工業科 (80)<br>機械技術コース<br>電気技術コース<br>情報技術コース | 昭和 14 年、大森地区の中小機械工場主により大森工業徒弟学校を創立。平成 17 年、学校名を大森工業高校から大森学園高校に変更。同時に普通科を設置。平成 19 年度より男女共学化。平成 31 年、創立 80 周年を迎える。普通科は 4 コース。国立コースは、国公立大学への大学進学を目指すことに特化したカリキュラムで学ぶ。選抜コースは、GMACH などの難関私立大学への現役合格を目指す。総進コースは日東駒専などの有名私立大学への現役合格を目指す。選抜コース・総進コースのカリキュラムは同じだが、総進コースは基礎的な内容からしっかり学習する。平成 30 年度に設置された英語コースでは、英語の授業が週に 10 時間。総合学習では「国際人」を育成する授業を行う。実習などの授業で次世代を担う人材の育成を目的とした工業科は、1 年次には各分野の基礎を勉強し、2 年次から機械技術・電気技術・情報技術の 3 コースに分かれて専門知識を身につける。就職や進学に有利な資格にも挑戦し、就職の内定率は 100%。 |
| 6 | <b>科学技術学園高等学校</b><br>〒 157-8562<br>世田谷区成城 1-11-1                                                                                                    | 通  | 普通科 (2,750)<br>電気科 (900)<br>機械科 (600)                                                                           | 昭和 39 年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和 52 年現校名に変更する。企業内訓練校を中心とした技能連携コースと個人を対象とした単位制コースがあり、単位制コースは、登校日数を選んで登校する「通学型クラス」、インターネットでスクーリングを受ける「e ラーニングコース」があり、生徒個々人のライフスタイルに合わせた学習環境を選べるコースを設置している。また、様々な分野で海外へ留学する生徒も多数在籍している。                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 7 | <b>蒲田女子高等学校</b><br>〒 144-8544<br>東京都大田区本羽田 1-4-1<br><a href="https://www.kanno.ac.jp/">https://www.kanno.ac.jp/</a>                                 | 全  | 普通科<br>幼児教育コース 80 名<br>キャリアコース 145 名<br>特別進学コース 25 名                                                            | 漢学者・教育者である学祖簡野道明の「子どもの教育にとって最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である」「人間生活を律する根本の筋金は道徳なり」との教育理念に基づき昭和 16 年に夫人の信衛によって設立された。幼児教育コースは、保育者に必要な知識・技術を学び幼稚園教諭と保育士資格の同時取得を目指す。キャリアコースは、14 パターンのカリキュラムの中から学びたい授業展開を選ぶことが出来る。国際教養やフード&ファッション・スポーツ健康などの選択も可。特別進学コースは、生徒一人ひとりに的確な学習計画を提供し、合格まで担当教員全員でサポート。個別型の自習室も完備し、個別指導でわかるまで徹底的に指導。                                                                                                                                             |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                   | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数                                                                                                 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8  | 京華商業高等学校<br>〒112-8612<br>文京区白山 5-6-6                                                                                              | 全  | 商業科 (150)                                                                                                             | 「天下の英才を得て之を教育す」創立者磯江潤の精神を永きにわたり実践し、多くの優秀な人材を時代の要請に応え輩出してきました。生徒個々の個性を伸ばすことはもちろんのこと、資格取得に特化したカリキュラムの編成や放課後講習の実施により、資格をいかした進学実績も年々増加の一途です。インターンシップなどのキャリア教育にも力入れており、実学教育を中心とした人間形成に重きをなした教育活動を実施しています。                                                                                                       |
| 9  | 昭和第一学園高等学校<br>〒190-0003<br>立川市栄町 2-45-8                                                                                           | 全  | 普通科 (456)<br>特別選抜コース (16)<br>選抜進学コース (120)<br>総合進学コース (320)<br>工学科 (120)                                              | 1940 (昭和 15) 年昭和第一工業学校として創立。1989 (平成元) 年より昭和第一学園高等学校と改称し、男女共学、普通科・工学科の総合学園となる。2018 (平成 30) 年 4 月より普通科に新たなコースを設置、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す。工学科は 2017 (平成 29) 年度よりコースを統合。他分野を総合的に学びつつ進路希望に合わせて履修科目を選択できる。高大専連携により大学等の実習機材でデジタルなものづくりを学ぶ。進学支援センターによる学習支援、キャリアカウンセラーによる相談、資格取得支援により「確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成」を目指す。 |
| 10 | 昭和鉄道高等学校<br>〒170-0011<br>豊島区池袋本町 2-10-1                                                                                           | 全  | 鉄道科 (215)                                                                                                             | 校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和 3 年 (1928 年) 創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめる、現在まで 19,000 名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成 16 年 (2004 年) に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。                                                                                                                                                  |
| 11 | 大成高等学校<br>〒181-0012<br>三鷹市上連雀 6-7-5                                                                                               | 全  | 普通科：<br>特別進学コース (75)<br>文理進学コース (290)<br>情報進学コース (40)                                                                 | 1897 年大成学館尋常中学校として創立以来、校名由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の個性や可能性をさらに磨き、将来社会に役立つ人間として大きく成長するように、一人ひとりを丁寧に育てる教育方針のもと発展している高等学校です。特に学んだことを活かすための知力を育て、人としての徳を重んじ、課題発見力、問題解決力を身につける教育および何事にも積極的にチャレンジしていく心の教育により、時代に合った人材育成を行っています。情報進学コースは時代を先取りしたカリキュラムが組み込まれているコースです。                                                  |
| 12 | 中央学院大学中央高等学校<br>〒136-0071<br>江東区亀戸 7-65-12<br><br><a href="http://www.cguch.ed.jp/index.php">http://www.cguch.ed.jp/index.php</a> | 全  | 普通科 (50)<br>商業科 (50)                                                                                                  | 本校は 1900 年 (明治 33 年) に創立し、令和 2 年に 120 周年を迎えます。永い歴史と伝統の中で、「誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな 常に身を慎み 反省と研鑽を忘れるな」の建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。全生徒がタブレットを持ち、電子黒板兼用プロジェクターを活用した ICT 教育を実施し、進学においても中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導を行っています。    |
| 13 | 東京実業高等学校<br>〒144-0051<br>大田区西蒲田 8-18-1                                                                                            | 全  | 機械科 (135)<br>電気科：<br>電気コース (45)<br>ゲーム IT コース (45)<br>普通科：<br>ビジネスコース (180)<br>文理コース (90)                             | 1922 年創立の総合学園として各科・コースの生徒は目的を持って学校生活を送っており、特に各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定にも役立てています。また、1967 年より国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との交換留学生制度を設けています。電気科ゲーム IT コースと文理コースの生徒は土曜日に特別授業を実施しています。                                                                                                                               |
| 14 | 日本工業大学駒場高等学校<br>〒153-8508<br>目黒区駒場 1-35-32<br><br><a href="http://nit-komaba.ed.jp/">http://nit-komaba.ed.jp/</a>                 | 全  | 普通科：<br>特進コース (50)<br>理数特進コース (40)<br>総合進学コース (140)<br>工学科：<br>理数工学科 (40)<br>創造工学科 (30)<br>機械コース・建築コース<br>電子情報システムコース | 本学の発祥は、明治 40 年に設立された東京工科学校に遡り、平成 29 年には学園創立 110 周年の節目を迎えました。「高い自己目標の実現と楽しい学校生活の調和」を目指すこと、他人には優しく、自己には厳しく律する勁い心を育てる努力を続けること、を揚げ教育運営にあたっています。生徒一人ひとりの希望進路の実現を目指す普通科 (特進、理数特進、総合進学コース) と多様な進路選択ができる工学 2 学科 (理数工学科、創造工学科は、機械・建築・電子情報システムの 3 コースを括り募集し、2 年進級段階でコースを選択) を設置しています。                                |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                        | 課程 | 令和 2 年度年度募集学科<br>及び募集人数                                          | 学校の概要・特色                                                                                                                   |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 | 日野工業高等学園<br>〒 191-8660<br>日野市日野台 3-1-1                                                                 | 通  | (60)                                                             | 日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。 |
| 16 | 村田女子高等学校<br>〒 113-8665<br>文京区本駒込 2-29-1<br><a href="http://hs.murata.ac.jp">http://hs.murata.ac.jp</a> | 全  | 普通科 (162):<br>グローバルリーダーコース (22)<br>スーパー特進コース (40)<br>進学コース (100) | 世界中で活躍できるトップレベルの国際人を目指すグローバルリーダーコース・幅広い選択肢の中で自分の将来を見だし難関私大を目指すスーパー特進コース・効率のよい学びとクラブ活動の両立で私立大を目指す進学コースの 3 コースです。            |

## 都立高等学校会員名簿

## 農業に関する学科

|   |                                                                                                                                     |        |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 都立園芸高等学校<br>〒 158-8566<br>世田谷区深沢 5-38-1<br><a href="http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/</a>      | 全<br>定 | 園芸科 (70)<br>食品科 (35)<br>動物科 (35)<br><br>園芸科 (30)                                                                                                     | 1908 年 (明治 41 年) に創立し 111 年の歴史を有する、全国農業系高校の中心校です。100 年前に日本からのサクラを送ったお礼に米国から頂いた「ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、100 年の樹齢を重ねています。さらに、三代将軍徳川家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にあります。全日制は園芸科、食品科、動物科があり、「体験・体感」を重視し、生徒の多様な進路に応じています。進学が 7 割、就職が 3 割です。定時制園芸科では農業に関する資格取得に取組むとともに、大人を対象とした園芸技術専修生制度もあり、夜間 2 年間の専門学習で卒業ができます。                                                                                                              |
| 2 | 都立農業高等学校<br>〒 183-0056<br>府中市寿町 1-10-2<br><a href="http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/</a>       | 全<br>定 | 【農業に関する学科】<br>都市園芸科 (35)<br>緑地計画科 (35)<br>食品科学科 (35)<br>服飾科 (35)<br>食物科 (35)<br><br>【家庭に関する学科】<br>服飾科 (35)<br>食物科 (35)<br><br>食品化学科 (30)<br>普通科 (30) | 全日制課程の農業に関する学科 (都市園芸科、緑地計画科、食品科学科) では、都立高校初の東京都 GAP 認証取得や、府中市と連携した環境保全活動に取り組んでいる。都立高校唯一の学科である家庭に関する学科の服飾科と食物科 (調理師免許が取得できる) では、ファッションクリエイターや食生活の充実に貢献する調理師を育成している。定時制課程では、「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」の教育目標を達成するため、食品化学科と普通科において特色ある教育活動を実践し、生徒たちの進路実現を図っている。                                                                                                                                                 |
| 3 | 都立農芸高等学校<br>〒 167-0035<br>杉並区今川 3-25-1                                                                                              | 全<br>定 | 園芸科学科 (35)<br>食品科学科 (70)<br>緑地環境科 (35)<br><br>農芸科 (30)                                                                                               | 創立 1900 年 (明治 33 年) に創立された都立農業系専門高校の中で一番歴史と伝統のある学校です。全日制に園芸科学科、食品科学科、緑地環境科の 3 学科 12 学級、定時制に農芸科 1 学科 4 学級を設置しています。都心の住宅地の真ん中に位置し、緑に囲まれた校舎、実習棟や農場など合わせて広い敷地があります。都庁前広場や地元阿佐ヶ谷駅前の花壇作りに加え保育園、小学校等の児童との農場体験活動など地域社会との連携を積極的に行っています。また、「環境教育実践宣言校」として、都市及び自然環境、食環境などの創造とゴミの減量・節電等に取組んでいます。さらに、東京都 GAP、JGAP 認定を取得し安心安全な野菜作り教育を推進しており、持続可能な産業社会を担う人材育成に取組む農業高校です。なお、都立高校唯一の馬術部を設置し馬術競技の練習に励んでいます。                    |
| 4 | 都立農産高等学校<br>〒 124-0002<br>葛飾区西亀有 1-28-1                                                                                             | 全<br>定 | 園芸デザイン科 (70)<br>食品科 (70)<br><br>農産科 (30)                                                                                                             | 東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。全日制では、2 学科 4 類型を設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験・体感しながら学んでいる。定時制は、農産科として園芸系と食品系の両方を学ぶことができる農業高校として、生徒は落ち着いた環境の中で生き生きと学習や部活動に取り組んでいる。全日制・定時制ともに、キャリア教育の充実や農業の 6 次産業化を踏まえた実践的な経営学習、学校農業クラブ活動の充実、FFJ 検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをおして自己の可能性を伸長させるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。 |
| 5 | 都立瑞穂農芸高等学校<br>〒 190-1211<br>西多摩郡瑞穂町石畑 2027<br><a href="http://www.mizuho-h.metro.tokyo.jp/">http://www.mizuho-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全<br>定 | 畜産科学科 (35)<br>園芸科学科 (35)<br>食品科 (35)<br>生活デザイン科 (70)<br><br>併合科 (普通・農業) (30)                                                                         | 生命 (いのち) に学ぶ学校～生命 (いのち) に学び夢を叶える～をキャッチコピーに、地域密着型の教育を推進している。園芸科学科の駅や町をはじめ都民広場での花壇作り。畜産科学科の移動動物園や動物ふれあい体験活動。食品科の江戸東京野菜を用いた「七色唐辛子」による地域活性化プロジェクト。生活デザイン科の高齢者施設や保育所等への訪問とボランティア活動。また、定時制課程の里山保全への取組や瑞穂町ボランティア、農業ボランティアなど、グローバル校としての活動は、地域の方々から感謝されるとともに大きな期待をもたれている。                                                                                                                                             |

|                 | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                 | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数                                                         | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>工業に関する学科</b> |                                                                                                                                 |    |                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 6               | 都立足立工業高等学校<br>〒123-0841<br>足立区西新井 4-30-1                                                                                        | 全  | 総合技術科 (175)                                                                   | 本校は、昭和38年に開校した工業高等学校で、平成9年に学科改編し総合技術科となった。<br>平成30年度より教育課程を見直し、機械加工コース・生産技術コース・電気システムコース・制御システムコース・情報コミュニケーションコースの5コースを2年生から選択します。2年生全員のインターンシップでは足立区内の企業限定で実施し、地域密着と地域連携を推進している。施設・設備拠点校に指定され、先端設備が充実している。                                                                                                                                                                                                                              |
| 7               | 都立荒川工業高等学校<br>〒116-0003<br>荒川区南千住 6-42-1                                                                                        | 全  | 電気科 (70)<br>電子科 (35)<br>情報技術科 (70)                                            | 「ものづくりは、ひとづくりから」をモットーに、人間力の育成を目指している。電気工事士などの資格取得など、産業社会を支える人材として活躍するためにも、ものづくりに関する技術・技能はもちろんのこと、社会人としての常識やマナーを確実に身に付ける取組を行っている。特に、運動系部活動や学校行事への積極的な参加を推奨し、仲間とともに目標に向かって努力することの大切さを体感させる充実した高校生活へと導く生徒支援体制を強化している。就職希望者の決定率は、例年100%である。                                                                                                                                                                                                  |
|                 |                                                                                                                                 | 定  | 電気・電子科 (30)                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 8               | 都立葛西工業高等学校<br>〒134-0024<br>江戸川区一之江 7-68-1                                                                                       | 全  | 機械科 (35)<br>電子科 (35)<br>建築科 (70)<br>デュアルシステム科 (35)                            | 昭和38年に開校した本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム科設置の指定を受け平成30年度より新しくなりました。機械科・電子科・建築科・デュアルシステム科の4科5クラスの学校になりました。<br>①地域産業会と連携した授業を行っています。②施設が充実しており、設備拠点校実習を行っています。③地元の「ねぶた祭」とおして、小中学校と連携しています。④防災教育として地域の消防関係と連携しています。また、幼稚園の避難訓練をサポート等、様々な機関と連携し地域貢献をおとした、工業人・職業人の育成を目指しています。                                                                                                                                                                          |
| 9               | 都立北豊島工業高等学校<br>〒174-0062<br>板橋区富士見町 28-1                                                                                        | 全  | 総合技術科 (140)                                                                   | 全日制課程は大正9年に創立され、令和2年に100周年を迎える。社会に有用な人材育成を行い、約2万名の卒業生を社会に送り出している。機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を広く学び、社会に貢献出来る人材育成に取組、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などの社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定100%を保持している。東京都教育委員会より、デュアルシステム推進校として指定を受け、企業と高校が連携した新しい職業教育システムであるデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成して、日本のものづくりの後継者の育成を目指している。また、工業実習の設備拠点校としての指定を受け、施設設備を整え、近隣の工業高校と連携し、ものづくりの技術・技能の習得と継承に力を入れている。<br>定時制課程は機械科の単科であり、各学年一学級30人定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。 |
|                 |                                                                                                                                 | 定  | 機械科 (30)                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 10              | 都立蔵前工業高等学校<br>〒111-0051<br>台東区蔵前 1-3-57                                                                                         | 全  | 機械科 (70)<br>建築科 (35)<br>電気科 (35)<br>設備工業科 (35)                                | 創立90年を超える伝統に裏打ちされた教育活動により、多くの卒業生が産業界で活躍し、日本の工業界をリードしている。<br>○全日制<br>東京都教育委員会より、「ものづくり人材育成教育プログラム特定分野推進校」指定を受け、都立工業高校を牽引する役割を担い、スペシャリストの育成を目指したものづくり人材育成教育を実践している。さらに、「パワーアップハイスクール指定校」として、生徒の体力向上や心身の健康の保持増進、部活動の活性化を図っている。進路指導では、就職希望者は、高度な技術・技能と資格取得により企業で即戦力となる人材、進学希望者は、理工系大学へ進学する学力を確実に身に付ける指導を実践している。<br>○定時制<br>都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。学修方法によっては、3年間で卒業も可能。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。                               |
|                 |                                                                                                                                 | 定  | 建築工学科 (30)                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 11              | 都立工芸高等学校<br>〒113-0033<br>文京区本郷 1-3-9<br><br><a href="http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全  | マシクラフト科 (35)<br>アートクラフト科 (35)<br>インテリア科 (35)<br>デザイン科 (35)<br>グラフィックアーツ科 (35) | 本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only One のものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。<br>開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。<br>卒業後の進路は、進学の割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。                                                                               |
|                 |                                                                                                                                 | 定  | マシクラフト科 (30)<br>アートクラフト科 (30)<br>インテリア科 (30)<br>グラフィックアーツ科 (30)               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 12              | 都立小金井工業高等学校<br>〒184-0004<br>小金井市本町 6-8-9                                                                                        | 定  | 機械科 (30)<br>電気科・電子科 (30)                                                      | 平成22年3月に全日制課程が閉課程となり、平成22年度から定時制単独校になる。施設・設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。校舎の改築・改修工事が進み、新校舎が平成23年8月に完成した。平成23年9月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは改修した新しい実験・実習棟で行っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                       | 課程 | 令和 2 年度年度募集学科<br>及び募集人数                             | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13 | 都立杉並工業高等学校<br>〒 167-0023<br>杉並区上井草 4-13-31                                                            | 全  | 機械科 (70)<br>電子科 (70)<br>理工環境科 (35)                  | 本校は、昭和 38 年に開校し、教育目標として (1) 勤労と責任を重んじる誠実な人をつくる、(2) 個性を伸ばし、自主的にして協調性のある人をつくる、(3) 豊かな教養を備えた地球環境に配慮できる技術者をつくる、ことを掲げています。東京都 No.1 の資格取得を目指して朝講習などや期末考査後に様々な講習会を行い、生徒を全面的に応援しています。また、部活動を通じて、顧問や友人同士の絆を深める取組みや近隣の小中学校生に対してものづくり体験の機会を提供するなど、地域との連携を通じて多くのことを学ばせています。                                |
| 14 | 都立墨田工業高等学校<br>〒 135-0004<br>江東区森下 5-1-7<br><br>http://www.sumida-th.metro.tokyo.jp/                   | 全  | 機械科 (35)<br>自動車科 (35)<br>電気科 (70)<br>建築科 (35)       | 令和 2 年に創立 120 年を迎える伝統校である。全日制は、4 学科をもつ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100% を維持している。創立 119 年を迎える歴史と伝統があり、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100% を実現しており、生徒一人一人に応じた実践的教育に取り組んでいる。                                              |
|    |                                                                                                       | 定  | 総合技術科 (30)                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 15 | 都立総合工科高等学校<br>〒 157-0066<br>世田谷区成城 9-25-1<br><br>http://www.sougou-kouka-h.metro.tokyo.jp/            | 全  | 機械・自動車科 (70)<br>電気・情報デザイン科 (70)<br>建築・都市工学科 (70)    | 平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校した。全日制では、理工系大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、約 40 科目の自由選択科目を設定することで、さまざまな進路希望に対応している。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図っている。定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間での卒業が可能な三修制を実施している。    |
|    |                                                                                                       | 定  | 総合技術科 (30)                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 16 | 都立田無工業高等学校<br>〒 188-0013<br>西東京市向台町 1-9-1<br><br>http://www.tanashikougyou-h.metro.tokyo.jp/site/zen/ | 全  | 機械科 (70)<br>建築科 (70)<br>都市工学科 (35)                  | 本校は昭和 37 年 4 月に開校し、創立 57 年目を迎える工業高校である。設置学科は機械科、建築科、都市工学科の三科からなり、都市工学科は全国でも数少ない学科である。また建築科は多摩地区の工業高校では本校のみに設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの学科も地域に根差した技術者の育成を目標としている。またデュアルシステムを導入し、三年間を通して体系的にキャリア教育を実践している。令和元年度、2 年度は東京都西部学校経営支援センター特別指定校として指定され「ものづくり」を通じた障害者・高齢者理解教育の推進に取り組んでいる。 |
| 17 | 都立多摩工業高等学校<br>〒 197-0003<br>福生市熊川 215                                                                 | 全  | 機械科 (70)<br>電気科 (35)<br>環境化学 (35)<br>デュアルシステム科 (35) | 本校は、都立工業高校モデル校として、平成 30 年度より機械・電気・環境化学の 3 科すべてを学べるデュアルシステム科を開設した。地域企業の求める人材の育成につながり、産業界から評価されている。都立で唯一の「環境省認定エコアクション 21」認証校であり、環境化学科は都内唯一の学科である。各科とも資格取得に向けて積極的に指導が実践され成果を出している。多くの部活動で本校が会場校になるなど、活発に活動し大きな成果をあげている。                                                                          |
| 18 | 都立中野工業高等学校<br>〒 165-0027<br>中野区野方 3-5-5                                                               | 全  | キャリア技術科 (140)                                       | 全日制課程では、令和 2 年度に工業高校としては 2 校目のエンカレッジスクールとして完成を迎えます。可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3 年間を通して社会人として必要な基礎・基本を身に付けるとともに、ものづくりを通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために自らの可能性を信じてチャレンジする学校です。また、定時制課程では、1 年次後半から機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深めることができます。                                                            |
|    |                                                                                                       | 定  | 総合技術科 (30)                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 19 | 都立練馬工業高等学校<br>〒 179-8909<br>練馬区早宮 2-9-18                                                              | 全  | キャリア技術科 (175)                                       | 平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列（機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。                                               |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                          | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数                            | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----|------------------------------------------|----|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20 | 都立府中工業高等学校<br>〒183-0005<br>府中市若松町 2-19-1 | 全  | 機械科 (35)<br>電気科 (70)<br>情報技術科 (35)<br>工業技術科 (35) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け旋盤技能士、電気工事士などの各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。</li> <li>・インターハイ出場の陸上競技部、全国大会出場のパソコン部をはじめ、硬式野球部、バスケットボール部、軽音楽部など活発に活動し、実績を上げている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                            |
| 21 | 都立本所工業高等学校<br>〒125-0035<br>葛飾区南水元 4-21-1 | 定  | 総合技術科 (30)                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、80年以上の伝統ある夜間定時制の工業高校として機械・電気・電子の有能な技術者を育成することを目的としています。</li> <li>・総合技術科として、1学年では工業の基礎全般を学び、2学年からは機械・電気・電子の各類型に希望で分かれて、専門知識や技術を学習します。</li> <li>・特色ある教育活動を通して4年間にわたるキャリア教育を充実させ、生徒の意欲を引き出し進路実現に繋げる「面倒見のよい学校」です。</li> <li>・基礎学力の充実とものづくりの技術力向上を推進し、きめ細かい専門教育や生活指導、資格取得の推奨、オリパラ学習、校外学習、奉仕体験活動、文化祭、防災活動、インターンシップなど、地域連携を行いながら交流を深めていく学校です。</li> </ul> |
| 22 | 都立町田工業高等学校<br>〒194-0035<br>町田市忠生 1-20-2  | 全  | 総合情報科 (175)                                      | 本校は、きめ細かな指導体制と充実した施設・設備（特にPC台数やネットワーク環境）を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工業高校です。1年では全系列に関連する工業基礎科目を学習し、2・3年では興味・関心、進路希望に基づき、情報デザイン、情報テクノロジー（旧アプリケーションと情報システムを改編した新系列）、電気システム、機械システムの4系列の中から一つに所属し（令和2年度入学生から）、企業等との連携を通して専門性を高めるとともに社会人基礎力を高め、「Society5.0」で活躍できる技術者の育成を目指しています。                                                                                                                             |

工業に関する学科（単位制）

|    |                                                                                                                                               |                |                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23 | 都立六郷工科高等学校<br>〒144-0046<br>大田区東六郷 2-18-2<br><br><a href="http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/">http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全<br><br><br>定 | プロダクト工学科 (70)<br>オートモビル工学科 (35)<br>システム工学科 (35)<br>デザイン工学科 (35)<br>デュアルシステム科 (35)<br><br>普通科 (30)<br>生産工学科 (30) | 平成16年4月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。全国初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車3級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の4科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科科目も1学年と2学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大20単位卒業の単位として認めている。平成30年度から在京外国人入学者をデュアルシステム科とオートモビル工学科に各5名設置して、城南地域ものづくり人材の確保に繋げていく。定時制には、単位制と3修制を取り入れた生産工学科と普通科の2科がある。 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

科学技術科

|    |                                           |   |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|-------------------------------------------|---|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 24 | 都立科学技術高等学校<br>〒136-0072<br>江東区大島 1-2-31   | 全 | 科学技術科 (210) | 平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した新しいタイプの進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者・研究者として工学系、理学系、農学系、薬学系、医療系などの分野で活躍できる人材の育成を目指しています。材料・流体・力学系、電子・情報系、化学・バイオ系などの科学技術の基礎的な知識や基本的な技能に関する幅広い学習と、理系大学進学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習、自ら深く考え他者と対話しながらまとめ外部に発表する力を身に付ける特色ある教育活動に力を入れています。 |
| 25 | 都立多摩科学技術高等学校<br>〒184-8581<br>小金井市本町 6-8-9 | 全 | 科学技術科 (210) | 理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高める。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。                                                                                              |

商業に関する学科

|    |                                          |   |    |                                                                      |
|----|------------------------------------------|---|----|----------------------------------------------------------------------|
| 26 | 都立赤羽商業高等学校<br>〒115-0056<br>北区西が丘 3-14-20 | 全 | 閉校 | 商業の専門高校として57年間、多くのビジネス社会の発展に寄与する人材を輩出してまいりました。本校は2020年3月をもって閉校いたします。 |
|----|------------------------------------------|---|----|----------------------------------------------------------------------|

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                           | 課程     | 令和 2 年度年度募集学科<br>及び募集人数                   | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 27 | 都立足立高等学校<br>〒 120-0011<br>足立区中央本町 1-3-9                                                                                                   | 定      | 普通科 (60)<br>商業科 (30)                      | 学級数 12、在籍生徒数約 200 名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は 4 学級（各学年 1 学級）である。学校規模を生かし定時制単独の文化祭やスポーツ大会など、数多くの学校行事が行われている。運動部を中心に部活動も盛んであり、定通の全国大会にも出場している。定時制専用の情報処理教室があり、令和 2 年度に更新する予定である。コンピュータ会計の資格取得の指導を行っている。                                                                                                                                                                                          |
| 28 | 都立荒川商業高等学校<br>〒 120-8528<br>足立区小台 2-1-31                                                                                                  | 全<br>定 | 募集停止                                      | 本校は生徒が運営するレガロ工房模倣株式会社による、地域に根ざした取り組みが高く評価されている。平成 30 年度と令和元年度は東京都生徒商業研究発表大会にて活動を発表、「最優秀賞」を受賞し全国大会に 2 年連続で出場した。平成 30 年度には夕張メロンカップを開催した。毎年全国産業教育フェアにも参加している。デザイン系列の生徒は地元商店会の PR フラグのデザインを考案（年 4 回更新）したり、情報系列の生徒は企業からの注文を受け Web 制作をしている。会計系列の生徒は平成 29 年度全国高等学校簿記コンクールで最優秀賞を受賞し、全国大会に出場した。学習活動では「生活英語」の生徒が平成 30 年度イングリッシュビジネスプランコンテストで準優勝を獲得した。部活動ではダンス部が平成 28 年度と 29 年度に全国大会に出場した。        |
| 29 | 都立五日市高等学校<br>〒 190-0164<br>あきる野市五日市 894                                                                                                   | 全      | 普通科：<br>「ことばと情報」のコース<br>(160)<br>※商業科募集停止 | 本校は四季折々に変化する山並みに囲まれた静かな五日市に位置しています。全日制普通科は平成 17 年度より「ことばと情報コース」に改編しました。令和 2 年度入学生から学科改編となり、商業科の募集を停止し普通科のみとなりました。また、教育課程も大幅に変更となり、大学進学もできる科目を学びます。2 年からはアウトドア、マネジメント、アドバンスの 3 類型となり地域の特色を活かした教育活動を行います。入学者選抜では、野球、サッカー、男子テニス、剣道、女子バスケットボール部で文化・スポーツ等特別推薦を実施します。なお、定時制課程は平成 31 年度入学者から普通科のみとなりました。                                                                                      |
| 30 | 都立葛飾商業高等学校<br>〒 125-0051<br>葛飾区新宿 3-14-1                                                                                                  | 全      | ビジネス科 (210)                               | 全日制は、令和 3 年に創立 60 周年を迎える、地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現に取り組んでいる。また、健全育成に努めるとともに、資格取得指導と実学のビジネス教育の充実を図り、商品開発や店舗販売実習などを実施し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。29～31 年度アクティブ・ラーニング推進校、30～31 年度 NIE 実践校、31～令和 3 年度 ALCM コミュニティ参加校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。なお、29 年度より、JRC 学校加盟校として、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動が盛んで、31 年度は、陸上競技、自転車競技で全国大会に出場している。 |
|    |                                                                                                                                           | 定      | 普通科 (30)<br>商業科 (30)                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 31 | 都立江東商業高等学校<br>〒 136-0071<br>江東区亀戸 4-50-1<br><a href="http://www.kotoshogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.kotoshogyo-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全      | ビジネス科 (175)                               | 今年創立 114 年を迎え、都立商業高校の伝統校としての役割を担っています。ビジネス三言語（IT、会計、英語）に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでおり、社会人としての必須のマナーを身に付け学んで楽しい学校作りを目指しています。生徒に愛され、地域から親しまれ、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動を推進しています。                                                                                                                                                                                                  |
| 32 | 都立芝商業高等学校<br>〒 105-0022<br>港区海岸 1-8-25<br><a href="http://www.shibashogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.shibashogyo-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全      | ビジネス科 (210)                               | 創立 95 周年を迎えた東京都の商業高校の拠点校です。これからの社会で必要とされる「創造的な力」と「実践的な態度」を育成するために、1 年生全員のインターンシップ、浜松町・竹芝地区の企業等との連携、福井県池田町との交流等、特色ある教育活動を展開しています。また、資格取得やマナー指導にも定評があり、これらの取組が評価され平成 30 年度にはキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞しました。JR 浜松町駅・都営地下鉄大門駅・ゆりかもめ竹芝駅徒歩 5 分に位置する、ビジネス教育には最適な環境にある伝統校です。                                                                                                                     |
| 33 | 都立第一商業高等学校<br>〒 150-0035<br>渋谷区鉢山町 8-1                                                                                                    | 全      | ビジネス科 (210)                               | 学校創立 100 年を迎える商業の伝統校である。東京都の商業高校のリーダーとして、生徒から「第一商業に入学してよかった」、地域から「第一商業があってよかった」、職員から「第一商業に勤務して良かった」と言われる学校を目指している。大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導が充実している。進学では、商業科目等での学びの成果として取得した高度な資格等を活用し、指定校推薦や公募推薦等で多くの大学に現役合格している。部活動では、ソフトボール部や女子バレー部、簿記部、軽音楽部などが盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。                                                               |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                                                        | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 34 | <b>都立第三商業高等学校</b><br>〒135-0044<br>江東区越中島 3-3-1<br><a href="http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/</a>                    | 全  | ビジネス科 (210)           | 全・定ともに、多くの卒業生が実業界や経済界の中枢で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次の Mission Statement (使命宣言) を約束します。<br>①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。<br>②習熟度別による丁寧な指導により、国語・数学・英語の基礎学力を向上させます。<br>③卒業後の進路実現 100%を目指します。<br>④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。                                                    |
|    |                                                                                                                                                                        | 定  | 商業科 (30)              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 35 | <b>都立第四商業高等学校</b><br>〒176-0021<br>練馬区貫井 3-45-19<br><a href="http://www.daiyonshogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/">http://www.daiyonshogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/</a> | 全  | ビジネス科 (210)           | 一マナーの四商、資格の四商、実学の四商、社会人基礎力を養成する学校ー昭和 15 年の開設から今日に至るまで、79 年の伝統と歴史の中で一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。<br>平成 30 年度より商業科と情報処理科が統合されビジネス科となりましたが、情報処理科の学びについても選択科目で学べます。大学や企業等外部機関と連携した調査・研究・販売・商品開発等の実践的な実学のビジネス教育と IT パスポート試験や各種検定合格で着実に力をつけています。<br>部活動も盛んで、アーチェリー部は関東大会出場、他にも硬式野球部、サッカー部、女子バスケットボール部、女子バレーボール部、女子ソフトボール、吹奏楽部なども学校として力を入れています。 |
| 36 | <b>都立第五商業高等学校</b><br>〒186-0004<br>国立市中 3-4-1                                                                                                                           | 全  | ビジネス科 (210)           | 全日制課程は、創立 78 年を迎えた多摩地区唯一の伝統ある商業高校です。平成 30 年度から都教育委員会の施策による商業科からビジネス科への改編にあたり、教育課程を変更し、7 時限 45 分授業をスタートしました。これまで取り組んできた高度資格指導に加えて、高大連携や地域連携等の充実を図り、新しいビジネス教育を推進します。また、大学進学指導と都立高校屈指の就職実績についてもさらに磨きをかけていきます。<br>定時制課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事」「部活動がさかん」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」を特色とする伝統校です。平成 28 年度から標準服を制定しました。過去にパソコン部が全商ワプロ全国大会に 4 年連続出場しています。   |
|    |                                                                                                                                                                        | 定  | 商業科 (30)              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

ビジネスコミュニケーション科

|    |                                                  |   |                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----|--------------------------------------------------|---|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 37 | <b>都立千早高等学校</b><br>〒171-0044<br>豊島区千早 3-46-21    | 全 | ビジネスコミュニケーション科 (210) | <ul style="list-style-type: none"> <li>英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。</li> <li>「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年) と行事で実践。</li> <li>新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。</li> </ul>                                                                     |
| 38 | <b>都立大田桜台高等学校</b><br>〒143-0027<br>大田区中馬込 3-11-10 | 全 | ビジネスコミュニケーション科 (175) | 「使える英語」教育と「役立つビジネス」教育を学校教育の 2 本柱とした進学型専門高校です。13,000 冊以上の英語図書を活用した「多読・多聴」の授業や、1 年生英語合宿「イングリッシュ・サマーキャンプ」、2 年生海外修学旅行、海外からの交流生受入れなどを通して、「使える英語」を楽しく学びます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション」等のビジネス科の特色ある授業や、各種コンテストへの出場、企業と連携したビジネスに関する研究活動などを通して、「役立つビジネス」を社会から学びます。さらに、ブックトーク・フェスティバル、百人一首大会、読書力新聞の発行などを行い、生徒の言語活動を推進しています。 |

家庭に関する学科

|    |                                                                                                                                                  |   |                         |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 39 | <b>都立忍岡高等学校</b><br>〒111-0053<br>台東区浅草橋 5-1-24<br><a href="http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp">http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp</a> | 全 | 普通科 (160)<br>生活科学科 (70) | 普通科と生活科学科の併置する全日制・単位制の学校として、平成 18 年度に開校。<br>学科の目標は、「大学進学希望の実現」、「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成」である。単位制を活用した、多様な選択科目を設置するとともに、大学および専門学校との連携授業を展開している。7 限自由選択科目では、茶道、華道、将棋、日本舞踊などの「日本の伝統文化」を学ぶ講座のほか、中国語、フランス語、韓国語などの「語学」、「自己表現」力を高める朗読、モダンバレエなどの講座を設置している。 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

福祉に関する学科

|    |                                               |   |          |                                                                                                  |
|----|-----------------------------------------------|---|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 40 | <b>都立野津田高等学校</b><br>〒195-0063<br>町田市野津田町 2001 | 全 | 福祉科 (35) | 平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。 |
|----|-----------------------------------------------|---|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|



|                   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                                                | 課程 | 令和 2 年度年度募集学科<br>及び募集人数                                                 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>国際関係に関する学科</b> |                                                                                                                                                                |    |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 41                | 都立大島海洋国際高等学校<br>〒 100-0211<br>大島町差木地字下原 996-1<br><a href="http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/">http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全  | 海洋国際科 (80)                                                              | 「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21 世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、遅しさをもつ国際人を育成します。2 年生からは「国際系」と「海洋系」に分かれ、前者は国際的な視野を持ち 4 年制大学を目指し、後者は海洋系大学進学向けに海洋のスペシャリストを目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による航海学習を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、「宅習 3 時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。                                                                           |
| <b>併合科</b>        |                                                                                                                                                                |    |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 42                | 都立大島高等学校<br>〒 100-0101<br>大島町元町字八重の水 127                                                                                                                       | 全  | 普通科 (80)<br>併合科 (農林・家政) (35)                                            | 併合科の農林と家政では、専門科目の基礎から応用まで発達段階に応じた実習を多く取り入れて実践力を身に付けます。農林では産学公連携を拡大して、野菜・畜産・草花・森林分野の地域産業振興を重視して学びます。島の特産であるツバキに関しては、世界水準の学校椿園 (平成 28 年 2 月 26 日に ICS 優秀ツバキ園認定) での研究も可能です。家政はスペシャリストの育成に向けて、技能オリンピックメダリストの招聘において、教科書にはない専門技術、知識を習得できるようにしています。その他、グローバル化や地域社会貢献に向けた体験的活動や奉仕活動もあり、恵まれた大島の自然環境においてジオパーク等の調査、地元産業の研究などの世界水準のブレ研究を可能にしています。                            |
|                   |                                                                                                                                                                | 定  | 普通科 (30)                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 43                | 都立八丈高等学校<br>〒 100-1401<br>八丈町大賀郷 3020<br><a href="http://www.hachijo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.hachijo-h.metro.tokyo.jp/</a>                               | 全  | 普通科 (80)<br>併合科 (園芸・家政) (35)                                            | 教育目標は全日制課程「誠実」「慈愛」「自立」、定時制課程「自主」「健康」「民主」で 70 年の歴史のある伝統校です。八丈町はハワイと姉妹都市で、黄八丈、八丈太鼓と歌や踊り、海洋文化など、歴史と伝統、文化の町です。全・定ともに島留学生を受入れています。町や小・中学校との連携を大切にした系統的な学習を行う少人数授業が特色で、国公立大学等の受験から基礎基本の習得を目指す生徒まで、きめ細かく丁寧に指導します。「わかりやすい授業」から「生徒が自ら学ぶようになる授業」を学校全体で目指しています。生徒の卒業後の進路は、国公立大学をはじめとする進学や、公務員を含む就職と多様です。生徒会活動や、全・定合同の八高祭などの学校行事も盛んです。詳細は本校ホームページや Twitter をご覧ください。          |
|                   |                                                                                                                                                                | 定  | 普通科 (30)                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 44                | 都立三宅高等学校<br>〒 100-1211<br>三宅村坪田 4586                                                                                                                           | 全  | 普通科 (40)<br>併合科 (農業・家政) (35)                                            | 併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <b>産業科</b>        |                                                                                                                                                                |    |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 45                | 都立橋高等学校<br>〒 131-0043<br>墨田区立花 4-29-7                                                                                                                          | 全  | 産業科 (210)                                                               | 本校は、都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合し、平成 19 年 4 月に開校しました。生産から流通・消費までを総合的かつ実践的に学ばせる、わが国初の産業科高校です。今日の高度に発展した産業社会においては、専門的なスキルが求められる一方で、工業や商業という産業が融合する中に、新たなニーズや可能性があると考えています。従来の工業、商業という枠を超えた幅広い専門教育を展開することで、多様化・複雑化する産業社会に対応して活躍する人材の育成を目指しています。                                                                                                                         |
|                   |                                                                                                                                                                | 定  | 産業科 (30)                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 46                | 都立八王子桑志高等学校<br>〒 193-0853<br>八王子市千人町 4-8-1<br><a href="http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/">http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/</a>          | 全  | 産業科<br>：デザイン分野 (70)<br>：クラフト分野 (35)<br>：システム情報分野 (35)<br>：ビジネス情報分野 (70) | 日本初の産業科高校として、高度な資格取得や検定合格及び大学等への進学に力を入れ、「未来の産業人」を育てる学校です。教育課程は 45 分授業 7 時間授業により、専門教科の学習とともに、普通教科の学習を充実させることで大学進学にも対応しています。大学等への進学者は約 80% で、平成 30 年度卒業生の現役合格者は国公立大学 3 名、早慶 2 名、MARCH 5 名、日東駒専 19 名、多摩美術大学 18 名等です。就職希望者は全員合格しています。産業界との連携にも力を入れ、八王子商工会議所等と連携した企業展示会の開催をはじめ、八王子織物工業組合、八王子青年会議所、地元八王子市の商店等と連携した事業を展開しています。                                          |
| <b>情報科 (単位制)</b>  |                                                                                                                                                                |    |                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 47                | 都立新宿山吹高等学校<br>〒 162-8612<br>新宿区山吹町 81<br><a href="http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp">http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp</a>                             | 定  | 普通科 (100)<br>情報科 (65)                                                   | 各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び、幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります (単位制)。定時制 (普通科・情報科) と通信制 (普通科) があり、どちらも、努力次第で 3 年間で卒業ができます (三修制)。定時制は、朝から夜まで、四つの部に分かれます (4 部制)。情報科は、東京都唯一の「情報」の専門学科です。29～31 年度は SPH (スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール) に指定されました。通信制は、自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力高め、夏期講習等も行っています。昨年度は、国公立大や、早慶上理大・GMARCH 等の難関私大に定通合わせて現役で 30 名以上が合格しています。 |
|                   |                                                                                                                                                                | 通  | 普通科 (50)                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|             | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                                   | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>総合学科</b> |                                                                                                                                                   |    |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 48          | 都立王子総合高等学校<br>〒114-0023<br>北区滝野川 3-54-7                                                                                                           | 全  | 総合学科 (240)            | 平成23年度開校、全日制総合学科高校<br>○“Design your Dream”（自分らしく生きるために）をキャッチフレーズとしている。自己の進路への自覚を深め、自ら夢を描き、その実現に向けて意欲的に計画し、実行する行動力と態度を身に付けます。<br>○「国際・ビジネス」「文化・芸術」「メディア・ネットワーク」「サイエンス・テクノロジー」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。                                                                                                                                                                                               |
| 49          | 都立青梅総合高等学校<br>〒198-0041<br>青梅市勝沼 1-60                                                                                                             | 全  | 総合学科 (240)            | 平成18年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。全日制課程は文科・理科、国際・文化、生命・環境、食品・生活、人間・健康の5系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の2系列を設けている。                                                                                                                                                                                                |
|             |                                                                                                                                                   | 定  | 総合学科 (90)             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 50          | 都立葛飾総合高等学校<br>〒125-0035<br>葛飾区南水元 4-21-1<br><a href="http://www.katsushikasogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.katsushikasogo-h.metro.tokyo.jp/</a> | 全  | 総合学科 (240)            | 平成19年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。平成29年度入学生から、国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの4系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開設して課題研究に取組ませ、卒業生全員に2万字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。                                                                                                                                                            |
| 51          | 都立杉並総合高等学校<br>〒168-0073<br>杉並区下高井戸 5-17-1                                                                                                         | 全  | 総合学科 (240)            | 平成16年4月に、東京都で3番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習」。国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化（1年次で中国語かハングル）、台湾修学旅行、姉妹校交流（オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内思高級職業高等学校、韓国の美林女子情報科学高等学校）、年間5回程度の海外訪問受け入れ、年間5名程度の留學生の受け入れ、交換留学（オーストラリアとフランス）等の実施、トビタテ留学ジャパンで海外に派遣、次世代リーダー育成道場で毎年2人程度が1年間の海外留学をしている。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の5系列を持つ。                                            |
| 52          | 都立世田谷総合高等学校<br>〒157-0076<br>世田谷区岡本 2-9-1                                                                                                          | 全  | 総合学科 (240)            | ○平成20年4月開校。<br>○幅広い6系列（社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり）に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。<br>○生活マナー（身だしなみ、頭髪等）を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。<br>○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視。                                                                                                                                        |
| 53          | 都立つばさ総合高等学校<br>〒144-8533<br>大田区本羽田 3-11-5                                                                                                         | 全  | 総合学科 (240)            | 平成14年に新規開校した都立2校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の5系列を配備し、生徒が自身の適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて独自の時間割を編成し学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001（国際環境認証）を取得し、環境教育に力を入れ、平成19年度「環境大臣賞」、平成21年度「文部科学大臣賞」、平成27年度「米環境保護局 EPA 表彰盾」を受賞している。平成29年度に、環境省主催・環境教育実践力強化研修の会場となり、平成30年度には、東京都教育委員会オリンピック・パラリンピック教育・環境部門アワードを受賞している。豊かな施設・設備の下、部活動も盛んであるとともに、様々な地域連携活動を展開し、地域に愛され親しまれている学校である。 |
| 54          | 都立晴海総合高等学校<br>〒104-0053<br>中央区晴海 1-2-1<br><a href="http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/">http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/</a>           | 全  | 総合学科 (280)            | 東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成8年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の6系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう!」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」を作成しながら夢の実現方法を学んでいる。                                                                                                                                                              |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                       | 課程 | 令和 2 年度年度募集学科<br>及び募集人数 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 55 | 都立東久留米総合高等学校<br>〒 203-0052<br>東久留米市幸町 5-8-46                                                                                          | 全  | 総合学科 (200)              | 平成 19 年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校<br>全日制では、「25 歳の自分創り」をスローガンに、生徒の夢の実現<br>に向けキャリア教育の充実を図っている。国際・人文社会、自然科<br>学探求、スポーツ、芸術・表現、看護・保育の 5 系列を設置。<br>定時制では、教養、情報・ビジネスの 2 系列を設置するとともに、<br>三修制を実施。                                                                                                     |
|    |                                                                                                                                       | 定  | 総合学科 (60)               |                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 56 | 都立若葉総合高等学校<br>〒 206-0822<br>稲城市坂浜 1434-3<br><a href="https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/">https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/</a> | 全  | 総合学科 (240)              | 平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを<br>「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力<br>を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情<br>報交流の 4 系列を持つ。開校以来、「原石を宝石に、君の個性に輝<br>きを！」をスローガンとして掲げ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす<br>教育活動に取り組んでいる。                                                                                          |
| 57 | 都立町田総合高等学校<br>〒 194-0037<br>町田市木曾西 3-5-1                                                                                              | 全  | 総合学科 (240)              | ○平成 22 年度 4 月開校、全日制総合学科高等学校。<br>○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹<br>とした学校。<br>○校訓「創」；「自分創り」に取り組み、「社会創り」の基礎を身に付け、<br>「未来創り」に備える。<br>○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための<br>科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割。<br>○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の 4 つの系列・自らを磨く「日本<br>文化」の授業・社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自<br>立・自律の部活動。 |

## 総合学科 (チャレンジスクール)

|    |                                            |   |            |                                                                                                                                                                                                                     |
|----|--------------------------------------------|---|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 58 | 都立大江戸高等学校<br>〒 135-0015<br>江東区千石 3-2-11    | 定 | 総合学科 (180) | 平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科 (単位制、定時制) 高校。「伝統・<br>文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根<br>ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習、行事などを<br>重視し、少人数の授業で、丁寧な指導を行っています。「チャレンジ<br>する人間」「創造的な人間」「信頼される人間」の教育目標のもと、様々<br>な専門家の支援を受け、一人ひとりの自立を支えています。 |
| 59 | 都立桐ヶ丘高等学校<br>〒 115-0052<br>北区赤羽北 3-5-22    | 定 | 総合学科 (180) | 平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクール (総合学科、単<br>位制、昼夜間開講三部制の定時制) です。『夢・挑戦・感動』を校訓<br>に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の 3 系列で①<br>多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認<br>定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教<br>育活動を展開しています。                     |
| 60 | 都立世田谷泉高等学校<br>〒 157-0061<br>世田谷区北烏山 9-22-1 | 定 | 総合学科 (180) | 「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ<br>科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の<br>学校です。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、<br>たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。                                                                                 |
| 61 | 都立稔ヶ丘高等学校<br>〒 165-0031<br>中野区上鷺宮 5-11-1   | 定 | 総合学科 (240) | 三部制のチャレンジスクールで、静かな学習環境の中、学んでいま<br>す。行動心理学に基づいた「コーピング」の授業でコミュニケー<br>ション能力の向上を図っています。<br>商業科目では簿記やマーケティングなどを開設しています。                                                                                                  |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                         | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                 |
|----|-----------------------------------------|----|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 62 | 都立六本木高等学校<br>〒106-0032<br>港区六本木 6-16-36 | 定  | 総合学科 (180)            | 平成17年4月に開校したチャレンジスクール。小中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎力を身に付けさせる普通科目と3つの系列に属する特色のある学校設定科目で生徒の見つけて磨く力をサポートしています。丁寧な進路指導により生徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。 |

普通教育を主とする学科（単位制）

|    |                                       |   |           |                                                                                                                                          |
|----|---------------------------------------|---|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 63 | 都立浅草高等学校<br>〒111-0024<br>台東区今戸 1-8-13 | 定 | 普通科 (240) | 平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建ての校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと地域の伝統工芸や稲作体験のできる「体験学習」などを特色とする。 |
|----|---------------------------------------|---|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

国 立 高 等 学 校 会 員 名 簿

|   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数    | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                  |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 東京工業大学附属科学技術<br>高等学校<br>〒108-0023<br>港区芝浦 3-3-6<br><br><a href="http://www.hst.titech.ac.jp/">http://www.hst.titech.ac.jp/</a> | 全  | 科学・技術科<br>(推薦 60、一般 140) | 科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術（応用化学）、情報・コンピュータサイエンス（情報システム）、システムデザイン・ロボット（機械システム）、エレクトロニクス・エネルギー・通信（電気電子）、立体造形・デジタルデザイン（建築デザイン）の5分野に分かれる。 |

高 等 専 門 学 校 会 員 名 簿

|   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                                                              | 課程 | 令和2年度年度募集学科<br>及び募集人数         | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 都立産業技術高等専門学校<br>品川キャンパス<br>〒140-0011<br>品川区東大井 1-10-40<br>荒川キャンパス<br>〒116-8523<br>荒川区南千住 8-17-1<br><br><a href="https://www.metro-cit.ac.jp">https://www.metro-cit.ac.jp</a> | 全  | ものづくり工学科 (320)<br>創造工学専攻 (32) | 平成18年に都立工業高等専門学校（工業高専）と都立航空工業高等専門学校（航空高専）の再編統合を行い、本科の“ものづくり工学科”に8つの工学コースを設置し、更にその上に専攻科を設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。平成20年には公立大学法人首都大学東京の一員となり、文字どおり都が設置した高等教育機関として再スタートを切りました。平成28年から首都東京の課題解決に貢献するため、新たに「情報セキュリティ技術者育成プログラム」と「航空技術者育成プログラム」をスタートさせています。 |

## 専 修 学 校 会 員 名 簿

|   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                               | 課程               | 令和 2 年度年度募集学科及び募集人数                                                                                                                                               | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                            |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <b>愛国学園保育専門学校</b><br>〒 133-8585<br>江戸川区西小岩 5-7-1                                                                                              | 昼                | 幼児教育科 (50)<br>介護福祉士専攻科 (募集停止中)                                                                                                                                    | 本校は、昭和 44 年に設立された伝統のある専門学校です。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭 2 種免許状が取得できます。学生は、完備された学園において、少人数制の中、現代社会のニーズに合った専門的な学びを楽しく熱心に修得しています。就職においても幼児教育科は毎年ほぼ 100% の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職しています。勤務先から専門に精通して明るく元気で、礼儀正しいと評判を得ています。今後も職業に直結した学びが深められるような教育を展開して行きます。 |
| 2 | <b>青山製図専門学校</b><br>〒 150-0032<br>渋谷区鶯谷町 7-9                                                                                                   | 昼<br>夜           | 建築工学科 (30)、建築設計デザイン科 (60)、住宅設計デザイン科 (30)、建築インテリア工学科 (30)、商空間デザイン科 (30)、建築インテリアデザイン科 (40)、建築設計研究科 (100)<br>建築科 (50)<br>インテリア工学科 (30)                               | 昭和 52 年に設立以来、設計・製図・デザイン・CAD の技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の 9 学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。                                                                                                                     |
| 3 | <b>御茶の水美術専門学校</b><br>〒 101-0062<br>千代田区神田駿河台 2-3                                                                                              | 昼<br>夜           | デザインアート科 3 年制 (100)<br>高度デザインアート科 4 年制 (15)<br>デザインアートコース (30)                                                                                                    | ゼロからはじめてプロになる。<br>「産学連携」「官学連携」課題をクリエイティブの力で解決する実践重視の美術専門学校。<br>御茶の水美術専門学校 (OCHABI) は、全学科が文部科学省より「職業実践専門課程」の認定を受けており、その必修科目である「産官学連携授業」では、学生それぞれのクリエイティビティー (創造性) を活かしつつ、実際に企業や行政機関の関係者とコミュニケーションを繰り返す事で、ビジネススキルを育んでいきます。                            |
| 4 | <b>香川調理製菓専門学校</b><br>〒 170-8481<br>豊島区駒込 3-24-3                                                                                               | 昼                | 調理マイスター科 (40)<br>調理師科 (120)<br>製菓科 (120)                                                                                                                          | 女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は 1959 年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マイスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。                                                                                  |
| 5 | <b>窪田理容美容専門学校</b><br>中野区中野 4-11-1<br><a href="https://www.kubota.ac.jp/">https://www.kubota.ac.jp/</a>                                        | 昼<br>夜<br>昼<br>通 | 美容学科 (200)<br>美容学科トライチェンジコース (40)<br>理容学科 (40)<br>テクニカルスタイリスト科ビューティーコース (40)<br>テクニカルスタイリスト科アーティストコース (40)<br>美容学科 (160) 理容学科 (40)                                | 昭和 25 年開校以来、「忍耐・創造・独立」を校訓に、理容師・美容師となるための専門知識、技術を習得させる事を縦軸、人としてマナーや接客方法などのサービス業従事者としての心構えを習得させる事を横軸とし教育を行なっています。<br>新たに理容師と美容師、両方の国家資格を取得できるダブルライセンスコースが開講し、「まつ毛エクステンション」のできる理容師、「シェービング」のできる美容師を養成しています。                                            |
| 6 | <b>国際デュアルビジネス専門学校</b><br>〒 111-0052<br>台東区柳橋 2-20-14                                                                                          | 昼                | 国際観光学科 (80)<br>国際ホテル学科 (160)                                                                                                                                      | 「人間教育」「実践教育」「国際人教育」の 3 つの教育理念を掲げ、空港・ホテルへの業界人の育成に取り組んでいます。専門知識と一般教養だけでなく、空港やホテルでの企業実習・インターンシップといった業界での現場経験を当校は重視しています。学生一人一人の将来を見据えた企業実習は北海道から沖縄まで多岐に渡り、真に実力が身につくプログラムになっています。企業と連携を深めながら、真に社会に貢献できる人材育成に引き続き取り組んで参ります。                              |
| 7 | <b>国際理容美容専門学校</b><br>〒 116-0014<br>荒川区東日暮里 5-17-12<br><a href="http://www.kokusai-kyouritsui.ac.jp/">http://www.kokusai-kyouritsui.ac.jp/</a> | 昼<br>通           | 職業実践専門課程⇒理容科 (80)、美容科 (160)、ビジネス美容科 (80)【修業年限 2 年】<br>専門課程⇒ビューティアーティスト科 (40)【修業年限 2 年】<br>高等課程⇒美容師科 (40)、製菓衛生師・調理師科 (32)【修業年限 3 年】<br>理容科 (40)、美容科 (80)【修業年限 3 年】 | 令和 2 年 4 月より学校法人の中に、入学資格が中学校卒業以上の方が学ぶ【国際共立学園高等専修学校】を開校します。現在ある「美容師科」に加え、「製菓衛生師・調理師科」を新設し、昼間 3 年間で「食」の 2 つの国家資格が取得できる学校としてスタートします。職業実践専門課程美容科では、奨学金ではなく産業界連携により在学中に校納金返済が可能となるコースを運営しております。技能だけではなく人間性を高める「嫉」教育を本学園は育成する学校であります。                     |

|   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                     | 課程                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 令和2年度年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------|
| 8 | <b>新東京歯科技工士学校</b><br>〒143-0016<br>大田区大森北 1-18-2<br><br>https://www.dt.ntdent.ac.jp/ | 昼<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br> |                   |          |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                 | 課程     | 令和 2 年度年度募集学科及び募集人数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 | 東京デザインテクノロジーセンター専門学校<br>〒 169-0075<br>東京都新宿区高田馬場 2-11-10<br><a href="https://www.tech.ac.jp/">https://www.tech.ac.jp/</a>       | 昼      | スーパー IT 科 (120)<br>IT・デザイン科 (120)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 16 | 東京美容専門学校<br>〒 161-8557<br>新宿区下落合 1-2-4                                                                                          | 昼<br>通 | 美容総合科ヘアスタイリストコース (80) (専門課程)<br>美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程)<br>エステティック科 (16) (専門課程)<br>美容通信科 (通信課程) (80)<br>エステティック通信講座 (16)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に 70 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア & ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。                                                                                                            |
| 17 | 東京法律専門学校<br>〒 130-8565<br>墨田区錦糸 1-2-1                                                                                           | 昼      | 法律学科 (4 年・40)<br>法律学科 (2 年・77)<br>法律ビジネス学科 (2 年・40)<br>法律社会学科 (2 年・40)<br>行政学科 (1 年・72)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 1983 年日本の専門学校で最初の公務員学科をつくった伝統が今も充分に発揮されています。最大の特徴である「ゼミ学習」は、学生同士がお互いに教えあうことにより、楽しい雰囲気の中で理解がすすみます。さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。                                                                                                                                                                                                                                               |
| 18 | 東京 YMCA 医療福祉専門学校<br>〒 186-0003<br>東京都国立市富士見台 2-35-11                                                                            | 昼      | 社会福祉専門課程<br>介護福祉科 (2 年) (80)<br>医療専門課程<br>作業療法学科 (3 年) (30)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 世界の YMCA に共通の精神である「平和で優しい社会の実現に貢献する」に基づいて、学校法人東京 YMCA によって 1996 年に設立されました。学生一人ひとりに合わせた指導で「人に向き合い、人を支える専門家」として豊かな人間性を持つスペシャリストを養成し業界に送り出しています。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 19 | 日本ウェルネススポーツ専門学校<br>〒 179-0071<br>練馬区旭町 3-23-22                                                                                  | 昼<br>夜 | アスレティックトレーナー科 (40)<br>健康スポーツ科 (40)<br>ライフプロモーション科 (37)<br>ウェルネス IT 科 A (4 月入学) (30)<br>ウェルネス IT 科 B (10 月入学) (30)<br>アスリート研究科 (40)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 1998 年 (平成 10 年) 4 月に開校した、社会体育及び、情報技術に関する知識・技能を習得する専門教育を行い、その分野のスペシャリストを養成する学校です。競技スポーツ、トレーナー養成そして幼児体育指導者養成で顕著な実績を挙げ、また卒業後は内部推薦で系列大学の 3 年次に進級することもできます。                                                                                                                                                                                                                              |
| 20 | 日本工学院専門学校<br>〒 144-8655<br>大田区西蒲田 5-23-22                                                                                       | 昼      | 放送芸術科 (120)、声優・演劇科 (120)、演劇スタッフ科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (200)、ゲームクリエイター科四年制 (120)、ゲームクリエイター科 (120)、CG 映像科 (80)、グラフィックデザイン科 (40)、Web クリエイター科 (40)、インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイン科 (40)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (320)、音響芸術科 (120)、ダンスパフォーマンス科 (80)、IT スペシャリスト科 (80)、情報処理科 (160)、パソコン・ネットワーク科 (40)、情報ビジネス科 (80)、電子・電気科 (120)、環境・バイオ科 (40)、建築学科 (40)、建築設計科 (80)、機械設計科 (40)                                                                                                                                                                    | 1947 年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、各分野の第一線で活躍していることが本校の教育の何よりもの実績と自負しております。多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制<br>長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウとグレードの高い専門教育の実現のため、「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わり、より専門性を追求する学習環境を実現しました。「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」の 5 つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造に貢献しています。 |
| 21 | 日本工学院八王子専門学校<br>〒 192-0983<br>八王子市片倉町 1404-1<br><a href="https://www.neec.ac.jp/hachioji/">https://www.neec.ac.jp/hachioji/</a> | 昼      | 放送芸術科 (80)、声優・演劇科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (120)、ゲームクリエイター科四年制 (80)、ゲームクリエイター科 (80)、CG 映像科 (80)、グラフィックデザイン科 (40)、Web クリエイター科 (40)、インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイン科 (40)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (120)、音響芸術科 (40)、IT スペシャリスト科 (40)、AI システム科 (80)、情報処理科 (120)、パソコン・ネットワーク科 (40)、情報ビジネス科 (40)、ロボット科 (40)、電子・電気科 (120)、一般自動車整備科 (25)、自動車整備科 (100)、応用生物学科 (40)、建築学科 (80)、建築設計科 (120)、土木・造園科 (40)、機械設計科 (40)、鍼灸科 (30)、柔道整復科 (30)、医療事務科 (40)、こども学科 (80)、スポーツトレーナー科三年制 (40)、スポーツトレーナー科 (40)、スポーツ健康学科三年制 (40)、スポーツ健康学科 (80)、診療情報管理士専攻科 (20) 令和 2 年度実績 | 1947 年に大田区蒲田に創立した創美学園を母体とし、1987 年に八王子市に開校。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、約 38 万 m <sup>2</sup> の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を整備しています。充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、質の高い専門教育を実践。現在では、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療・保育」「スポーツ」の 7 つのカレッジに計 36 学科を設置し、専門力と人間力を併せ持った、社会に役立つ人材を育成しています。                                                                                                           |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                 | 課程                                                                                                                           | 令和2年度年度募集学科及び募集人数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 22 | 専門学校日本スクールオブビジネス<br>〒166-8567<br>杉並区高円寺南5-32-10                                                                 | 昼                                                                                                                            | 鉄道・トラベル学科（2年・68）<br>ビジネス総合学科（2年・28）<br>スポーツ学科（2年・40）                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 本学の特色である「ゼミ学習」では、学生同士がお互いにおしえあうことにより学習意欲がわき、楽しい雰囲気の中で理解がすすみ、さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。資格を取って知識と技術、実習をととして実践力を養っていきます。                                                                                                                                                                                   |
| 23 | 日本電子専門学校<br>〒169-8522<br>東京都新宿区百人町1-25-4<br><a href="https://www.jec.ac.jp/">https://www.jec.ac.jp/</a>         | 昼<br>夜                                                                                                                       | コンピュータグラフィックス科（160）、CG映像制作科（80）、コンピュータグラフィックス研究科（40）、ゲーム制作研究科（120）、ゲーム制作科（160）、ゲーム企画科（40）、アニメーション科（50）、アニメーション研究科（40）、グラフィックデザイン科（40）、AIシステム科（70）、Webデザイン科（40）、ケータイ・アプリケーション科（40）、情報ビジネスライセンス科（30）、情報処理科（140）、情報システム開発科（80）、高度情報処理科（40）、ネットワークセキュリティ科（80）、高度電気工学科（30）、電気工学科（50）、電気工事技術科（50）、電子応用工学科（40）<br>電気工学科（50）、電気工事士科（50）、情報処理科（40）、ネットワークセキュリティ科（40） | 1951年創立。CG・映像、ゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、ビジネス、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子の10分野に昼夜25学科を設置。創立時から続く『コンピュータ・電気・電子』教育を通して、産業界での知名度が非常に高く「伝統」「信頼」「実績」のある専門学校です。情報処理・CG・ゲーム・モバイルアプリ開発など、日本初の学科を多数開設。「職業教育」と「キャリア教育」を教育方針の2本柱として、世界で活躍できるスペシャリストを育成しています。                                                                       |
| 24 | 日本動物専門学校<br>〒166-8567<br>杉並区高円寺南4-6-8                                                                           | 昼                                                                                                                            | 動物管理学科（2年・160）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 動物に関する知識と就職に役立つ幅広いビジネス知識を習得し、動物たちとふれあいながら、実践力を身につけます。インターンシップでは、実際の現場で実践することにより、より一層成長することができます。「ゼミ学習」により楽しく学びながら実力をアップしていきます。                                                                                                                                                                                     |
| 25 | 専門学校日本ホテルスクール<br>〒164-0003<br>中野区東中野3-15-14<br><a href="https://www.jhs.ac.jp">https://www.jhs.ac.jp</a>        | 昼間部国際ホテル学科（2年制） 300名<br>ホテル科 / 英語専攻科 / ブライダル科<br>夜間部国際ホテル学科（2年制） 160名<br>ホテル科 / ブライダル科<br>*昼・夜間部とも全科に1年間のカナダ / オーストラリア留学制度あり | 本校は、1972年プリンスホテルスクールとして開校し、現在は学校法人日本ホテル学院が運営するホテル・ブライダルに特化した専門学校です。教育理念は、ホスピタリティ精神に裏打ちされた行動がとれる人間の育成を目指しており、単に成績や、運動の能力が優れているだけでなく、「他人の気持ちを考える力」「社会人としての身だしなみ・マナー」を備えた人材を育成し、業界に送り出すことを使命としています。職業実践専門課程認定校、高等教育の修学支援新制度「高等教育無償化」対象機関として承認されました。                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 26 | 日本美容専門学校<br>〒169-0075<br>新宿区高田馬場1-21-12                                                                         | 昼<br>夜<br>昼<br>通                                                                                                             | 専門科（400名）<br>専門科（160名）<br>総合美容科（30名）<br>春生（4月入学）・秋生（10月入学）                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 本校は昭和29年、美容師の全国組織である「日本美容師会」を母体として優秀な美容師を世に送り出し美容業の安定・質的充実と美容師の地位向上をめざし、全国会員の協力により設立されました。以来、「美容を通じて近代と叡智を築く」という教育理念に基づき豊かな教養と自由な発想を持った理想的な「美の実践者」を育成しています。                                                                                                                                                        |
| 27 | ハリウッド美容専門学校<br>〒106-8541<br>港区六本木6-4-1<br><a href="https://www.hollywood.ac.jp">https://www.hollywood.ac.jp</a> | 昼<br>通                                                                                                                       | 美容総合科<br>・高度ビューティーコース（高度専門課程4年）<br>・ヘアメイクビューティーコース（専門課程2年）<br>・トータルビューティコース（専門課程2年）<br>・コスビューティコース（専門課程2年）<br>・ベーシックビューティコース（専門課程1年）<br>・美容師通信教育コース（通信課程3年）                                                                                                                                                                                                 | 95年前、日本の女性をハリウッドスターのように美しくすることをめざして美容学校・美容室・化粧品会社のハリウッドビューティグループを創立したトータルビューティのバイオニア校です。ビューティの最先端をリードする六本木ヒルズで、美容のすべてを学びます。90年以上の歴史と伝統の成果を結集した充実のカリキュラムと最新の設備で、夢を実現するための美容のプロフェッショナルを育成します。国内はもちろん海外でも活躍できる実践力をめざします。                                                                                              |
| 28 | 二葉栄養専門学校<br>〒180-0004<br>武蔵野市吉祥寺本町2-11-2                                                                        | 昼                                                                                                                            | 管理栄養士学科（4年・40）<br>栄養士科（2年・120）<br>調理師科（1年・76）<br>調理実践科（2年・38）                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 学校法人古屋学園は1937年に開校し、ファッション、調理、栄養、製菓分野に数多くの職業人を輩出してまいりました。2002年に東日本地区の専門学校では1番目に管理栄養士学科を設置しました。2015年には管理栄養士学科と栄養士科が、2017年には調理実践科が『職業実践専門課程』として認定され、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するために企業などと連携し実習や実技の授業を重視した学園として文部科学省より認可を受けました。今後も、社会に役立つ人間性豊かな専門家の養成をめざし、社会のニーズに応えられる幅広い教養・コミュニケーション能力・豊かな技量を身につけた実践的な栄養士・管理栄養士・調理師を養成いたします。 |



|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                 | 課程     | 令和 2 年度年度募集学科及び募集人数                                                                                                                                                                                                                                                     | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 29 | 二葉ファッションアカデミー<br>〒 180-0003<br>武蔵野市吉祥寺南町 1-3-2<br><br>http://www.furuya.ac.jp   | 昼<br>夜 | 職業実践専門課程<br>ファッション総合学科 (100)<br>専門課程<br>ファッション専攻科 (10)<br>高等課程<br>ファッションデザイン科 (40)<br><br>ファッション本科 (40)<br>ファッション技術科 (40)                                                                                                                                               | 1937 年の創立以来、ファッションデザイナーの森英恵先生をはじめとする、多くのファッションスペシャリストを産業界に送り出してきました。「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の精神のもと、学内ショップ及びブランドを有し、専門学校で唯一「東京コレクション」に参加する等、常にファッション界と連携した教育活動を展開しています。少人数制のきめ細やかな教育と産業界と直結した最先端教育が特徴です。                                                                                                                                                                                                                           |
| 30 | マリールイズ美容専門学校<br>〒 160-0018<br>新宿区須賀町 3 番地<br><br>http://www.marie-louise.ac.jp  | 昼<br>通 | 美容本科 (40)<br><br>美容通信科 (40)                                                                                                                                                                                                                                             | 「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」108 年を迎える本校は、歴史を踏まえ「一に人格・二に技術」を教育の根幹に捉え「1 学年 40 人」少人数による指導の下で一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を本気で育てたいと日々授業に取り組んでいます。美容師免許合格率 5 年平均 95%、就職では約 800 社からの求人があり就職指導も手厚くサポートしております。授業内容は、入学後の 6 か月間はカットやメイクの美容基礎を学びその後は、自らの個性を重視し希望する「将来像」に合わせたセレクトできる授業を行っています。                                                                                                                                                     |
| 31 | 町田・デザイン専門学校<br>〒 194-0022<br>東京都町田市森野 1-26-8<br><br>http://www.mdc.ac.jp        | 昼<br>通 | 建築デザイン科 (2 年・40)<br>インテリアデザイン科 (2 年・40)<br>グラフィックデザイン科 (3 年・40)<br>イラストレーション科 (2 年・40)<br>Web・CG アニメーション科 (3 年・35)<br>まんが科 (2 年・40)<br>コミックイラスト科 (2 年・40)<br><br>二級建築士受験科 (2 年・80)                                                                                      | 都心や横浜へのアクセスが良い町田市に拠点を置き、40 年以上の歴史を誇る本校は、これまで優れたクリエイターを輩出しています。ピア・カウンセリング教育による教育力アップ×人間力アップ、ステップアップ方式による目に見える成果の習得など、本校独自の教育システムを開発しました。これら独自の教育システムは、学生一人ひとりの顔がしっかり見える本学だからこそ実現できる教育システムです。本学の学生の 97%はデザインを学ぶことがはじめてです。はじめて学ぶことへの不安を安心に変えるために、基礎から応用まで無理なく進めていくステップアップ方式で入学から就職・プロデビューまで、丁寧にサポートしています。また、ピア・カウンセリング教育により、学生同士がふれあい、学びあう『仲間教育』を積極的に進めています。お互いの個性を認めながら、共同して物を創る。このお互いに育ちあう教育で、「思考力」と「人間力」を育み、社会を必要としている人材を育成します。 |
| 32 | 武蔵野東高等専修学校<br>〒 180-0013<br>武蔵野市西久保 3-25-3                                      | 昼      | 総合キャリア学科 (75)                                                                                                                                                                                                                                                           | 「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 33 | 専門学校読売自動車大学校<br>〒 136-0071<br>江東区亀戸 2-28-5<br><br>https://www.yccm.ac.jp        | 昼      | 1 級整備学科 (4 年・40 名)<br>自動車整備学科 (2 年・240 名)                                                                                                                                                                                                                               | 読売新聞社が 1969 年に設立。読売グループ各企業がバックアップ。読売新聞社独自の奨学金制度が充実。「高等教育修学支援制度」の文科省認定校でもあり、安心して学べる体制です。国家試験も就職も、毎年ほぼ 100%の実績を残しています。自動車エンジニアとしての技術力だけでなく「人間力」の育成にも力を注いでいます。両学科とも「職業実践専門課程」認定校であり、企業連携を重視した実践的な教育体制です。さらに、1 級整備学科は大学院入学資格も与えられる「高度専門士」が付与され、大学院進学者も輩出しています。                                                                                                                                                                      |
| 34 | 読売理工医療福祉専門学校<br>文京区小石川 1-1<br><br>https://www.yomiuririkou.ac.jp                | 昼<br>夜 | 【工業専門課程】放送映像学科 (2 年制: 60)、TV ディレクター学科 (2 年制: 40)、建築学科 (2 年制: 40)、建築士専攻科 (1 年制: 10)、電気電子学科 (2 年制: 40)、クロスメディア情報学科 (2 年制: 40)<br>【医療専門課程】臨床工学科 (3 年制: 40)<br>【社会福祉専門課程】介護福祉学科 (2 年制: 40)、ケアキャリア養成科 (1 年制: 30)<br><br>【工業専門課程】建築科 (2 年制: 40)<br>【医療専門課程】臨床工学専攻科 (2 年制: 40) | 読売新聞社により 1970 年に創設、開校 50 年を迎え 27,000 名を越える卒業生を社会に送り出しています。工業・医療・福祉の 3 分野に昼間部と夜間部を併せ 11 学科を設置しています。11 学科の内、1 年制を除く 9 学科は卒業時に文部科学大臣から専門士の称号が付与、7 学科については職業実践専門課の認定を受けております。また、高等教育の修学支援新制度の確認校になっております。<br>2020 年 4 月には、創立 50 周年を機に校舎を文京区小石川一丁目へ移転します。最新工法による再開発ビル、実習機器と教育施設を一新し、次の 50 年に向けて新たなスタートを切ります。                                                                                                                         |
| 35 | 早稲田速記医療福祉専門学校<br>〒 171-8543<br>豊島区高田 3-11-17<br><br>https://www.wasedasokki.jp/ | 昼      | 医療秘書科 (120)、医療マネジメント科 (120)、診療情報管理専攻科 (30)、医師事務技術専攻科 (30)、くすり・調剤事務科 (40)、介護福祉科 (30)、看護科 (35)、キャリアビジョンライター養成科 (20)                                                                                                                                                       | 1935 年に創立し、1972 年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。いつも時代の先を読み、社会の変化に対応するスペシャリストを育てています。専門的な学びのほかに、マナーやコミュニケーション能力などの社会性を身につけることで、長く社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。正職員就職率が高いことも本校の特徴の一つです。                                                                                                                                                                                                                                                          |

|    | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                                             | 課程                                                                                                                                      | 令和2年度年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 36 | <b>専門学校<br/>東京テクニカルカレッジ</b><br>〒164-8787<br>東京都中野区東中野<br>4-2-3<br><a href="https://tec.tera-house.ac.jp/">https://tec.tera-house.ac.jp/</a> | 昼<br>建築監督科 (40)<br>建築科 (80)<br>インテリア科 (40)<br>ゲームプログラミング科 (40)<br>情報処理科 (40)<br>Web 動画クリエイター科 (40)<br>環境テクノロジー科 (40)<br>バイオテクノロジー科 (40) | 建築科 (80)          | 本校は1987年に国立市に開校し、2009年に現在の東中野校舎へ移転しました。<br>学園理念に「技術者を目指す全ての人の夢を受けとめ、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します。」を掲げ、2014年には全学科が職業実践専門課程に認定され、企業や地域の皆様とともに専門人材の育成に尽力してまいりました。<br>授業シートとカルテを使い学習成果を確認しながら専門性を高める「ステップクリア授業」と仲間と仕事を進める力を養う問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト」が大きな特長です。                                                         |
| 37 | <b>武蔵野栄養専門学校</b><br>171-0022<br>豊島区南池袋 3-12-5<br><a href="http://www.musashino-eiyou.ac.jp">http://www.musashino-eiyou.ac.jp</a>            | 昼<br>栄養科 240名                                                                                                                           |                   | 本学は、昭和45年4月武蔵野栄養専門学校を設立、食と栄養に関する技術と知識の両面から「真のプロ」の育成に取組み、以来12,000名を超える卒業生を輩出している。平成26年度には文部科学省より職業実践専門課程に認定され、より一層実践的な職業教育の質の確保に取組んでいる。また教育の理念として実社会での即戦力を養成するため、体感・体験・体得を重視し、「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」を踏まえ、「1. 努力 2. 誠実 3. 奉仕」を校訓に専門教育に加え徳育面を重視し情操豊かな人間性を持った栄養士の育成に取り組んでいる。令和元年10月「高等教育の修学支援制度」において無償化の対象校に認定された。 |

## 短期大学 会 員 名 簿

|   | 学校名 / 所在地 / URL                                                                                                        | 課程 | 令和2年度年度募集学科及び募集人数                    | 学校の概要・特色                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <b>愛国学園短期大学</b><br>〒133-8585<br>江戸川区西小岩 5-7-1<br><a href="https://www.aikoku-jc.ac.jp">https://www.aikoku-jc.ac.jp</a> | 全  | 家政科：<br>生活デザイン専攻 (50)<br>食物栄養専攻 (50) | 「経済的に独立し、一家幸せの源泉となる女性の育成」の建学の精神の下、生活デザイン専攻では、家政学の幅広い知識と技術を身につけ生活をデザインする実践力を養います。同専攻では、レストランサービス技能や医療事務管理士など、医・食・住・福祉などに係る様々な資格が取得可能です。食物栄養専攻では、栄養士として、食の専門知識と技術に加え、思考力、実践力、問題解決力を養います。フードスペシャリストなどの資格も取得できます。他に介護職員初任者研修終了資格、アスリートフードマイスターの資格取得を支援する講座なども設けています。 |
| 2 | <b>東京家政大学<br/>短期大学部</b><br>〒173-8602<br>板橋区加賀 1-18-1                                                                   | 全  | 保育科 (120)<br>栄養科 (80)                | 本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、90%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。栄養科は栄養士、中学校教諭二種（家庭）、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト（受験資格）が取得でき、栄養士には約34%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。                                                  |

## 中 学 校 会 員 名 簿

## 公立中学校

|      |     |                                                                      |                                                                     |                                                                        |                                                                                                                     |
|------|-----|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 千代田区 | 2校  | 麹町中学校                                                                | 神田一橋中学校                                                             |                                                                        |                                                                                                                     |
| 中央区  | 4校  | 晴海中学校                                                                | 日本橋中学校                                                              | 銀座中学校                                                                  | 佃中学校                                                                                                                |
| 港区   | 10校 | 御成門中学校<br>赤坂中学校                                                      | 白金の丘中学校<br>青山中学校                                                    | 高松中学校<br>港陽中学校                                                         | 港南中学校<br>六本木中学校<br>高陵中学校<br>三田中学校                                                                                   |
| 新宿区  | 10校 | 牛込第一中学校<br>西新宿中学校                                                    | 牛込第二中学校<br>四谷中学校                                                    | 牛込第三中学校<br>西早稲田中学校                                                     | 落合中学校<br>新宿中学校<br>落合第二中学校<br>新宿西戸山中学校                                                                               |
| 文京区  | 10校 | 第一中学校<br>第十中学校                                                       | 第三中学校<br>文林中学校                                                      | 第六中学校<br>茗台中学校                                                         | 第八中学校<br>本郷台中学校<br>第九中学校<br>音羽中学校                                                                                   |
| 台東区  | 7校  | 上野中学校<br>柏葉中学校                                                       | 忍岡中学校<br>桜橋中学校                                                      | 駒形中学校                                                                  | 浅草中学校<br>御徒町台東中学校                                                                                                   |
| 墨田区  | 10校 | 墨田中学校<br>吾嬬第二中学校                                                     | 本所中学校<br>寺島中学校                                                      | 両国中学校<br>文花中学校                                                         | 竪川中学校<br>桜堤中学校<br>錦糸中学校<br>吾嬬立花中学校                                                                                  |
| 江東区  | 23校 | 深川第一中学校<br>深川第六中学校<br>第三亀戸中学校<br>第三砂町中学校<br>東陽中学校                    | 深川第二中学校<br>深川第七中学校<br>大島中学校<br>第四砂町中学校<br>大島西中学校                    | 深川第三中学校<br>深川第八中学校<br>第二大島中学校<br>辰巳中学校<br>有明中学校                        | 深川第四中学校<br>深川第五中学校<br>第二亀戸中学校<br>第二砂町中学校<br>第二南砂中学校                                                                 |
| 品川区  | 9校  | 東海中学校<br>荏原第一中学校                                                     | 大崎中学校<br>荏原第五中学校                                                    | 浜川中学校<br>荏原第六中学校                                                       | 鈴ヶ森中学校<br>戸越台中学校<br>富士見台中学校                                                                                         |
| 目黒区  | 9校  | 第一中学校<br>第十一中学校                                                      | 第七中学校<br>東山中学校                                                      | 第八中学校<br>目黒中央中学校                                                       | 第九中学校<br>大鳥中学校<br>第十中学校                                                                                             |
| 大田区  | 28校 | 大森第一中学校<br>貝塚中学校<br>大森第七中学校<br>羽田中学校<br>南六郷中学校<br>東蒲中学校              | 大森第二中学校<br>大森第四中学校<br>雪谷中学校<br>糎谷中学校<br>矢口中学校<br>蒲田中学校              | 大森第八中学校<br>大森第三中学校<br>大森第十中学校<br>出雲中学校<br>御園中学校<br>大森東中学校              | 馬込中学校<br>東調布中学校<br>大森第六中学校<br>六郷中学校<br>蓮沼中学校<br>馬込東中学校<br>田園調布中学校<br>石川台中学校<br>志茂田中学校<br>安方中学校                      |
| 世田谷区 | 29校 | 太子堂中学校<br>緑丘中学校<br>弦巻中学校<br>深沢中学校<br>烏山中学校<br>喜多見中学校                 | 桜丘中学校<br>駒留中学校<br>奥沢中学校<br>尾山台中学校<br>千歳中学校<br>三宿中学校                 | 松沢中学校<br>梅丘中学校<br>八幡中学校<br>用賀中学校<br>芦花中学校<br>世田谷中学校                    | 駒沢中学校<br>桜木中学校<br>玉川中学校<br>東深沢中学校<br>上祖師谷中学校<br>船橋希望中学校<br>北沢中学校<br>富士中学校<br>瀬田中学校<br>砧中学校<br>砧南中学校                 |
| 渋谷区  | 8校  | 広尾中学校<br>松濤中学校                                                       | 鉢山中学校<br>渋谷本町学園中学校                                                  | 上原中学校<br>原宿外苑中学校                                                       | 代々木中学校<br>笹塚中学校                                                                                                     |
| 中野区  | 10校 | 第二中学校<br>北中野中学校                                                      | 第四中学校<br>緑野中学校                                                      | 第五中学校<br>南中野中学校                                                        | 第七中学校<br>中野中学校<br>第八中学校<br>中野東中学校                                                                                   |
| 杉並区  | 23校 | 高円寺中学校<br>松溪中学校<br>井草中学校<br>高井戸中学校<br>和田中学校                          | 高南中学校<br>天沼中学校<br>荻窪中学校<br>向陽中学校<br>西宮中学校                           | 杉森中学校<br>東原中学校<br>神明中学校<br>松ノ木中学校<br>和泉中学校                             | 阿佐ヶ谷中学校<br>中瀬中学校<br>宮前中学校<br>大宮中学校<br>東田中学校<br>井荻中学校<br>富士見丘中学校<br>泉南中学校                                            |
| 豊島区  | 8校  | 駒込中学校<br>巢鴨北中学校                                                      | 西巣鴨中学校<br>明豊中学校                                                     | 池袋中学校<br>西池袋中学校                                                        | 千川中学校<br>千登世橋中学校                                                                                                    |
| 北区   | 12校 | 堀船中学校<br>王子桜中学校<br>滝野川紅葉中学校                                          | 稲付中学校<br>桐ヶ丘中学校<br>赤羽岩淵中学校                                          | 神谷中学校<br>明桜中学校                                                         | 浮間中学校<br>十条富士見中学校<br>飛鳥中学校<br>田端中学校                                                                                 |
| 荒川区  | 10校 | 第一中学校<br>第九中学校                                                       | 第三中学校<br>尾久八幡中学校                                                    | 第四中学校<br>南千住第二中学校                                                      | 第五中学校<br>原中学校<br>第七中学校<br>諏訪台中学校                                                                                    |
| 練馬区  | 33校 | 旭丘中学校<br>開進第二中学校<br>貫井中学校<br>石神井東中学校<br>大泉第二中学校<br>谷原中学校<br>光が丘第一中学校 | 豊玉中学校<br>開進第三中学校<br>田柄中学校<br>石神井西中学校<br>八坂中学校<br>三原台中学校<br>光が丘第二中学校 | 豊玉第二中学校<br>開進第四中学校<br>豊浜中学校<br>上石神井中学校<br>練馬東中学校<br>大泉北中学校<br>光が丘第三中学校 | 中村中学校<br>北町中学校<br>石神井中学校<br>大泉中学校<br>大泉西中学校<br>南が丘中学校<br>開進第一中学校<br>練馬中学校<br>石神井南中学校<br>大泉学園中学校<br>関中学校<br>大泉学園桜中学校 |
| 板橋区  | 1校  | 桜川中学校                                                                |                                                                     |                                                                        |                                                                                                                     |

|      |      |                                                                         |                                                                           |                                                                         |                                                                |                                                                  |
|------|------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 足立区  | 35 校 | 第一中学校<br>第九中学校<br>第十四中学校<br>竹の塚中学校<br>西新井中学校<br>谷中中学校<br>入谷南中学校         | 第四中学校<br>第十中学校<br>江南中学校<br>東綾瀬中学校<br>入谷中学校<br>花保中学校<br>六月中学校              | 第五中学校<br>第十一中学校<br>新田中学校<br>花畑中学校<br>江北桜中学校<br>栗島中学校<br>千寿青葉中学校         | 第六中学校<br>第十二中学校<br>東島根中学校<br>蒲原中学校<br>伊興中学校<br>扇中学校<br>千寿桜堤中学校 | 第七中学校<br>第十三中学校<br>洲江中学校<br>青井中学校<br>花畑北中学校<br>加賀中学校<br>鹿浜菜の花中学校 |
| 葛飾区  | 24 校 | 本田中学校<br>綾瀬中学校<br>双葉中学校<br>立石中学校<br>高砂中学校                               | 金町中学校<br>上平井中学校<br>大道中学校<br>常盤中学校<br>東金町中学校                               | 水元中学校<br>中川中学校<br>四ツ木中学校<br>一之台中学校<br>葛美中学校                             | 新宿中学校<br>桜道中学校<br>小松中学校<br>青戸中学校<br>新小岩中学校                     | 奥戸中学校<br>堀切中学校<br>亀有中学校<br>青葉中学校                                 |
| 江戸川区 | 33 校 | 小松川第一中学校<br>松江第三中学校<br>瑞江中学校<br>小岩第二中学校<br>瑞江第三中学校<br>二之江中学校<br>清新第一中学校 | 小松川第二中学校<br>松江第四中学校<br>瑞江第二中学校<br>小岩第三中学校<br>葛西第三中学校<br>鹿骨中学校<br>南葛西第二中学校 | 小松川第三中学校<br>松江第五中学校<br>鹿本中学校<br>小岩第四中学校<br>松江第六中学校<br>南葛西中学校<br>清新第二中学校 | 松江第一中学校<br>葛西中学校<br>篠崎中学校<br>小岩第五中学校<br>篠崎第二中学校<br>西葛西中学校      | 松江第二中学校<br>葛西第二中学校<br>小岩第一中学校<br>上一色中学校<br>春江中学校<br>東葛西中学校       |
| 武蔵野市 | 6 校  | 第一中学校<br>第六中学校                                                          | 第二中学校                                                                     | 第三中学校                                                                   | 第四中学校                                                          | 第五中学校                                                            |
| 青梅市  | 10 校 | 第一中学校<br>第七中学校                                                          | 第二中学校<br>霞台中学校                                                            | 第三中学校<br>吹上中学校                                                          | 西中学校<br>新町中学校                                                  | 第六中学校<br>泉中学校                                                    |
| 府中市  | 11 校 | 府中第一中学校<br>府中第六中学校<br>浅間中学校                                             | 府中第二中学校<br>府中第七中学校                                                        | 府中第三中学校<br>府中第八中学校                                                      | 府中第四中学校<br>府中第九中学校                                             | 府中第五中学校<br>府中第十中学校                                               |
| 調布市  | 8 校  | 調布中学校<br>第六中学校                                                          | 神代中学校<br>第七中学校                                                            | 第三中学校<br>第八中学校                                                          | 第四中学校                                                          | 第五中学校                                                            |
| 町田市  | 1 校  | 真光寺中学校                                                                  |                                                                           |                                                                         |                                                                |                                                                  |
| 国分寺市 | 5 校  | 第一中学校                                                                   | 第二中学校                                                                     | 第三中学校                                                                   | 第四中学校                                                          | 第五中学校                                                            |
| 狛江市  | 4 校  | 狛江第一中学校                                                                 | 狛江第二中学校                                                                   | 狛江第三中学校                                                                 | 狛江第四中学校                                                        |                                                                  |
| 東大和市 | 5 校  | 第一中学校                                                                   | 第二中学校                                                                     | 第三中学校                                                                   | 第四中学校                                                          | 第五中学校                                                            |
| 羽村市  | 3 校  | 羽村第一中学校                                                                 | 羽村第二中学校                                                                   | 羽村第三中学校                                                                 |                                                                |                                                                  |
| 大島町  | 1 校  | 第一中学校                                                                   |                                                                           |                                                                         |                                                                |                                                                  |
| 三宅村  | 1 校  | 三宅中学校                                                                   |                                                                           |                                                                         |                                                                |                                                                  |
| 新島村  | 2 校  | 新島中学校                                                                   | 式根島中学校                                                                    |                                                                         |                                                                |                                                                  |
| 神津島村 | 1 校  | 神津中学校                                                                   |                                                                           |                                                                         |                                                                |                                                                  |

#### 区立中等教育学校

|      |     |          |
|------|-----|----------|
| 千代田区 | 1 校 | 九段中等教育学校 |
|------|-----|----------|

#### 区立義務教育学校

|     |     |                |      |      |        |      |
|-----|-----|----------------|------|------|--------|------|
| 品川区 | 6 校 | 日野学園<br>豊葉の杜学園 | 伊藤学園 | 八潮学園 | 荏原平塚学園 | 品川学園 |
| 江東区 | 1 校 | 有明西学園          |      |      |        |      |

#### 都立中学校

|     |             |             |             |             |             |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 5 校 | 白鷗高等学校附属中学校 | 両国高等学校附属中学校 | 武蔵高等学校附属中学校 | 富士高等学校附属中学校 | 大泉高等学校附属中学校 |
|-----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|

#### 都立中等教育学校

|     |           |           |            |           |          |
|-----|-----------|-----------|------------|-----------|----------|
| 5 校 | 小石川中等教育学校 | 桜修館中等教育学校 | 立川国際中等教育学校 | 南多摩中等教育学校 | 三鷹中等教育学校 |
|-----|-----------|-----------|------------|-----------|----------|

#### 私立中学校

|     |       |           |          |         |
|-----|-------|-----------|----------|---------|
| 4 校 | 愛国中学校 | 鷗友学園女子中学校 | 恵泉女学園中学校 | 武蔵野東中学校 |
|-----|-------|-----------|----------|---------|

#### 国立大学法人

|     |           |
|-----|-----------|
| 1 校 | 筑波大学附属中学校 |
|-----|-----------|

### 個人会員名簿

|          |           |            |           |           |
|----------|-----------|------------|-----------|-----------|
| 1. 堀居 英治 | 2. 齋藤 武捷  | 3. 倉持 俊義   | 4. 梶谷 正義  | 5. 内川 武雄  |
| 6. 中村 浩  | 7. 松井 章朗  | 8. 花野 耕一   | 9. 富岡 逸郎  | 10. 曾根 敏邦 |
| 11. 森 健  | 12. 福島 正幸 | 13. 佐々木 健一 | 14. 手打 和明 | 15. 大塚 健一 |

## 本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善をはかり、産業経済の発展に寄与する」等を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

東京都産業教育振興会事務局

TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

## 編集後記

平成の30年間が終わり、令和という新しい時代が始まりました。教育界では、新しい時代を見通して中学校、高等学校の学習指導要領が改訂されました。産業界では、IoTやAIといった技術が急速に普及する一方で、担い手不足や高齢化が重くのしかかっています。このような時に、新しい発想で新たな産業や社会を創っていく人材の育成は極めて重要です。

本年度は特集テーマを「新しい時代の産業を担う人材育成—各校・各学科の取組—」とし、新しい時代に対応した産業教育に積極的に取り組んでいる会員校の実践事例等を紹介いたしました。

産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

御多用にも拘わらず、玉稿を御執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後も本会への更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン（平成24年度本誌第50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品）  
製作者 川口彩花さん（東京都立工芸高等学校 グラフィックアート科）

## 東京の産業教育 第57号

発行 令和2年（2020年）3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しています